

杉浦理三郎氏

⊠……人にして黙なる者よ醒めざるべからず、公職を以て私議する者よ汝信を天下に失ふ黙ならざるやとは曾つて杉浦君が府會議員たりし時同僚に向つて放ちたる不滅箴言である、當時の政權は徒らに官僚徒輩の專斷に煩はされて民論の聲が封鎖さるゝ状態であつた、既に中央政界に於て然り地方到る所此傾向甚だ濃厚であつた……一日政談を凝した君は遂に此箴言を吐露したのであるが恐らく何人も其私語の名言を杉浦君から發せられたのを今日迄知らぬであらう、然るに春去り雪は解けて年は十有餘年を経過して居る、此の時に當りて政界の雲行果して如何であらう、官僚の餘勢と雖も再起する餘地なき有様である、代つて天下の政權を執るものは政黨内閣で形式ばかりは曲りなりにも民論の勝利となつた則ち、杉浦君の所謂人にして黙なる者は一枚皮が剥げ國民は醒めて來たのである、

⊠……然も政黨内閣の今日尙も公職を以て私議するではないか黨利黨略の爲め官紀紊亂もすれば傷はしい事件も起り漸く天下の信を失はんとして居るものがあると批難されて行く、彼此相参照すれば君の名句は時々所々人々の變化はあつても永へに終滅せざる名言に相違ない、其之れを吐露したのは當の杉浦君である、君こそ政界に於て隠れたる名士を推賞せねばならぬ、現に大阪市會議員となつて一蓮託生の精神を以て主義とし、我が行く途は只々一筋に市民と公共の

庇護にあるのみ固く決して然も無言實行を爲しつゝある君が當のお本尊である、

⊠……君の市會にあるや往年の活躍史は之れを求むべくも無い、吐かず同盟の一員とさへ目されて居る、然るに實は六月の田を我物脚に鳴く蛙を真似ぬのみで、彼れは昔忘れぬ雄辯家である、其黙々たるの一瞬時は所謂政客の自重を行ふものに過ぎない、只でさへ議員の一言は政潮の渦となるものである、従つて半句双言共に責を痛感するの士は容易に之れを吐くものでない、君の如く一旦主張した以上は何物の障礙ぞ突破して力戦せんとの深刻味のある男は苟くも慎重の態度を持するのである、故に今日の沈黙は君の口外を俟つ迄もなく眞實的に市政界の重責を帯ぶる者として將た亦多數民衆の選良として當然採るべき途を守つて居るのである、

⊠……然し君が重大案件に觸れて愈々沈黙を破る時、彼れは破顔一笑先づ論敵の荒膽を抜いて終ふのだ、而して然り論者の趣旨は畢竟案其ものに忠實であり市政の爲めに絶大なる配慮あるの結果である、従つて余輩も同様多とするこばかり思ひ切つて敵を随喜せしめる、俄然論鋒を急轉して……憶ふに其好意あり乍ら事實必要缺くべからざる本案に對し兎角の反對を打つ事は折角の御趣旨を自滅するものであると一寸煙に巻いて最後に本員は大局から推斷し斯案を支持する理由は外ぢや無い、一は如實に至當なものであり他は論者の趣旨を自滅させ度く無いからである……と敵彈を借りて之れを刺すの調子である、

⊠……君の論法は何處までも奇襲であり壓倒的である、片身に猪突するかと思へば聞き直つて堂々の陣を張る、其何づれにしても開口一番必ずや常勝せずんば已まぬのである、勿論君が戦線場裡單騎進んで三寸の舌を揮ふ如きは曉の星よりもモット妙いのである、畢竟多辯は咄辯に劣るの骨を呑み込んだ所の發露である、故に平常の君は無言に過す理由が始めて萬人に判明する譯けである、然も此調子は君特有の論陣で敵に深く喰ひ入り乍ら敵と雖も忽ち好意を以て迎へさせる魅力を供へるのだ、

⊗……君は温厚なる大阪人、未だ五十餘歳の壯年である今後其政治的手腕を盡きざる財力とを以て機會を捉へて中央政界に乗り出さん目論んで居る人である、過去の行路を辿れば明治三十四年北區會議員に當選してより同四十一年府會議員に選ばれ慧星同様の論客として鳴らし尙所得稅調査委員に擧げられ異才を認められ大正十年六月市會議員に當選現任して居るのである、

新 濬 會

吉本重光氏

⊗……順潮に帆を上げて汎く公私の生存に覇を唱へつゝある吉本君は好運見こして定評あるのである、君は大地主であり且つ大家主である、苟も物質上の天恵は餘る程之れを有つて居る、私人生活に於ても何等の屈託もなければ心配も要らぬ、只一切を意中の使用人に委せて自身は日夜公共的活動に没頭して居る、夫子の誠言たる衣食足りて亂節を知る居々あるが如く後顧の憂慮なき爲には一路社會事業に携はらんとする積極主義の人である、彼の小財に安逸を貪り消極主義に流れて次第に世の中からかけ離れて行く様な事は君の夢にも執らぬ所である、何處までも活動又活動日夜の區

別もなく努力して何等か公共の爲めに致さんとす

⊗……君は其財物の觀念に於て一部の獨占主義はあつても執拗でない、従つて財を頒つて公共事業の助成を計るのは恰も我庭園の手入位ひに思つて居る人である、弱きは之れを養育し貧しきは之れを出来る限り聲援する、而して時に自ら駕を任けて親しく彼等の慰安を企てゝやるのである、君の半面には斯うした隠徳が影の形に従ふが如くについて居るのであるが恐らく君を知熟せり、言ふ者も考ひ及ばぬ所であろう、然り君は譽榮心に甚だ淡泊であるから一善も雖も行つて發表をしない、従つて古賢の指す通り善事夫れ門を出ないのである、吉本君と言へば人は高樓に座し高壁を廻らして立派な前庭を飾り而して柳花綠葉を植えて脇側にでも凭れ乍ら沫茶の味や葉巻の煙を輪に吹いて居る様に考へて居る、然しそれは君の財物を當て込んだる皮膚の見である、現在の如く唯物至上の世の中では無理からぬ判斷であるが併し乍ら吉本君が聞いたら嘸噴飯の想像と思ふだろう、⊗……叙する迄もなく君には普通の富豪が欲する様に俗庸の望みがある、偶には宏壯な庭園に百年の植木松を語つて見たい事もあるのであるが其人間味を淨化して自制一番社會奉仕に云ふ高邁なる點に盡すべく心掛け努力して居るのだ人の域を離れたり偽善を試みる様な窮屈な事を抜きにして只もう自我の妄念を雲散霧消し以て細善を拾はんとするのである、勿論佛法に深き信念を有つ君としては何等珍らしき事柄ではないだろうが濁混甚だしき現代に於て客觀すれば恐らく君の如く條件なしで隠徳を積む人もないのである、君は斯うした半面の徳に於て周圍の人々から著しき信望を浴せられて居るのだ

⊗……更に社會的に乗り出しては君は頭腦頗る透徹したる人で統禦力に富める事夥しい、のみならず凡てが調和的に進んで行くので志操の高崇なる點と相結んで則ち偉望を蒐めて居る、そのみで無い、君は然も辯説に巧みで意思強固だ、従つて猥りに多辯を弄さぬのであるが一度これと斷じ乍ら開口すれば最早來る何物の障害をも厭はない、美事に突破して強辯雄辯遂に自己の主義を樹てるのである、滋味のある其言は餘りに簡單率直の嫌ひはあるが滔々として批判す

る所洵に辯論風を生ずる概がある、然も是なりと信ずる所には遂に多數を以てしても一向制する事の出来ない威力を供へて居る、これが抑も君の雄視されつゝある一因であらう

⊗……市會に於ても君は和氣霽々居士ではある、併し乍ら一旦口を切つたならばそれが最初であり最終であるのだ、苟も眞理を稱へ正義の觀念から謂ふ君の辯辭には一々肯綮に當るものがあつて反對や非點を打つの餘裕が無い、従つて君は味方にすれば甚だ有利であるが若し夫れ敵に廻したならば百の苦手である、故に一方には信頼されるに共他方にはそれとなく敬遠されて居る、要するに君は政治的生命を信望し威力によつて益々力強く育て尙且つ多年の地盤に之れを植ゆ乍ら偉大なる勢力を築き上げて居るのだ、宜なり曾つて中橋文相が北區を土臺として中央政界に打つて出た時、彼れの高慢不遜な心理を以て一夜低頭低辭甚だ勉めて吉本君の援助を求めたものである、而して吉本君が當時人傳に述べた言が今尙一の挿話となつて居る、確か文相が總選舉には宜敷願ふと言つた時彼れ吉本君は中橋君が出るのか將た亦誰れか子分を出すのか解りもせぬ所に誰れが承諾されるかみやつたものだ、それで已むを得ず中橋にて候し傳へた所アやつて見ませうと打ち切つたのである

⊗……君は所謂北區の御三家と稱へられる吉本家の一人で其代表的人物である、而して傳統的にせよ其間多少の政治的勢力の小因はあるのだが恐らく君の時代になつて今日の雄大なる勢力を作つたものである、君は大阪の人、明治二年出生、長じて學習大ひに勉め好んで政治的思想的の方面に力を致し學習する所があつた、明治三十四年始めて北區會根崎聯合區會議員に選出されて以來改選の度毎に重任し同四十年には所得稅調査委員及び府會議員に擧げられ大正十年市會議員に出馬して當選したのである、偶々閑暇を得ては園藝を圍み書畫を愛するが書畫の鑑識では名だゝたものである

新 濬 會

藤本八次郎氏

⊗……少壯有爲の議員として將た亦爽快な辯舌家として漸く認められて來た藤本君は所屬新濬會にあつても一方の論客として尤も將來を期待されて居る人である、何は兎もあれ世の中は持ちつ持たれつな所であるから赤誠を吐露してかゝらねば聽ては策畧非法が暴露されずに置かぬものである君はナカ／＼哲學染みた社會觀を抱いて居る而して標榜する通り細大となく凡てに赤誠主義を持して行くのだ譬へば公私の事案にして微細探るに足らずと人は顧みぬ所にも君は心を傾け身を挺して注意し世話するのが恰も持病の様である、従つて市會に於ても専ら人の重視せぬ案件に對して突如露細な質義を放つのである、然も焉んぞ知らん、それが却つて大局面に必要欠くべからざる効果を齎す事も再々あるのだ、則ち着眼點に於て抑も君は唯一の特長を把持して居るのである

⊗……元來がドコかに裕々たる氣配を供へ大膽で沈着な性格を持つて居る君の事にて些事雖も一旦君の口の端に上つた以上は巧みに脚色されて洵に重大な事柄の様に取扱はれ且つ衆目を蒐めるのだ、而して渾然其實録を増大するから不思議である、或人の評に藤本式だがある、成程一も二もなく適評であらう、所謂事の大小は常に其取扱ふ人の質録に左右されて大さもなり小とも變ずる故に若し慎重な態度と迫らざる氣分とで對するならば忽ち小事と雖も案外な結果を

齋すのである、従つて事に細大なし人格の細大を以て之れを決する主義換言すれば赤誠主義を凡てに應用する事を則ち藤木式と稱へるのである、君は此態度によつて先づ人望をつなぎ性來の肌合を加味して親分型を自ら組成して居るのだ其業たる興行の如きは勿論此の型なくんば完全にやつて行けるもので無い、従つて業務上必要に迫られて幾分大きな所を體驗して行かねばならぬ譯けであるが併し乍ら君の度量と型とは人爲よりも寧ろ自然に迸り出づる點が多いから意味深長であらう

☒……君は酒も呑めば女も好きだ遊藝遊山悉く好まざるものが無い、君自身でも率直に之れを告白して居る、而して一向世間體なんか念頭に置いて居ない様に振舞つて行くのであるが實の所世の中を遠觀し盡した一反證を見るべきであらう、君は別に浮華輕佻な人士の如く表面の體裁なごに重きを置かぬ、人間味を隠蔽してまで聖人らしく偽らんとは無いのである、有るは有り無きは無しで事實ありの儘を是認して行く人で、此れが藤本君の衆望を擔ふ所以である、人の頭となつて意の如く人を使ふ荒くれ武者を操縱する力の生ずる點である、市政界に起つても同様此の筆法を君は斷行して居るのだ、是々非々の主義云つても君のそれは前叙の心理から割り出したる主義で何人も其去就を諒解し得るのである

☒……それで一案毎に一言なかるべからずと云ふ多辯子でもなければ喜々として追従を事とする妄念居士でもない、その代り自主的に必要と認められた時には必ず自家の主張を開陳する人である、其辯は未だ大雄辯の域に達して居らぬにもせよ肚裡から轉り出づるもので猥りがましき修飾語はなく理路ミ率直ミで築き上げられた節々が受け取られ頗る徹底するのだ、従つて實質的見地から斷定を下す時には優に雄辯ミ稱すべきものであらう、殊に簡明にして要領を逸せず淡白にして執拗でないから尙伸びる餘地が甚だ廣い、それに君の態度が眞摯である以上回を重ねるにつれて必ずや有數なる論客となる事疑なしである

☒……君は大阪の人明治十四年出生、後小中學を華城下に於て修め徵兵に應じて兵役に奉公し、日露戦役には戦友と共に滿洲の廣野に奮闘力戦克く忠勤して勳七等に叙され青色桐葉章を賜はり凱旋した後憲兵隊に奉職し遂に實業界に身を投じたのである、大正八年北區聯合區會議員に推されたのを抑もの發端として西野田青年團の副團長に擧げられ更に大正十年六月市會議員に當選し現職にあるのである

第二節 新生會

新生會は素豫選派である、然るに豫選派の重鎮たりし現任大阪府會議員橋本萬右衛門氏が市政界より隱退するに當り自己の郎黨を貽さん事を期し豫ねて其股肱としたる廣瀬徳藏氏を當面の將に擬し以て舊勢力圈内の者を結束したのが則ち同黨となつたのである、従つて新濠會は舊來の資縁を辿れば異技同株であるが併し乍ら兩者の間が必ずしも歩調相一致せず進退寸法を異にする所以は抑も何故であらう、一般に觀測さるゝ所に従へば豫選派の頭目たりし七里清介氏は橋本氏ミ肝膽相照しては居たが常に自己の勢力を扶植する事に於て相容れざる所が介在した、然も七里氏の幕下には市政界の雄と稱される酒井氏が儼存し常に橋本氏を制肘して擅まゝに雄飛の機會と口實とを封じて居た結果大正十年六月以後の市政界變遷期に入りて、酒井氏が新濠會を組織するや忽ち枯杭的に新生會を間接に樹立したに因るに解されて居る

故に新生會の成因は純然たる第三黨として多數黨並少數黨との間に座し多をして専恣なからしめ少をして矯越妄動を

排さるゝ同時に一方市政の完成を期すべく努力する所にあるのである、其政綱の如きも新潞會と大同少異である、黨首廣瀬氏は憲政會大阪支部幹事であるが黨操縦上天才的なる同氏は更に其臭味を發揮せず大槻吉平、木田新三郎氏等の闘士を伴行し比較的自由意思の行使を認察しつゝ市會に棹して居るのである

新生會員は左の諸氏である

△南區選出

木田新三郎、大槻吉平、樽本政五郎、麥林又次郎、山田嘉助、仲田由太郎、改正源右衛門

△北區選出

廣瀬徳藏、鹽見伊八郎

以下會員月旦



新生會

木田新三郎氏

⊠……大阪市政界に於ける新生會の驍將たる木田君と云へば如何様四角四面の然も薄氣味悪い感じを與へるが當の御

本人は洵に碎けた人柄である、偶々寫眞を拜借し出れば……イヤ拙者のヤツはお貸申す譯に行かぬと素氣なく彈ねつける……而して一寸六ヶ敷い顔を見せる諸では噂さには違はず捏ねる人と思ひの外何んのコツタイ……今更見合に使はれぬ年輩だからとある……木田君は須らく此の調子で紛糾錯雜の實社會を切り抜けて尙克く閑日月を保持するのだ、それが如何なる威武を以て來る連中にも、如何なる低級な人達にも凡て平等に應對するので有名である、一體大阪を中心とする關西人は餘りに物質に凝り、餘りに威權を尊崇するのが通弊である、然るに木田君には此郷土的癖が毫末もない

⊠……君の生業が既に銘茶商であつて所謂松風の音も爽やかに鳴り響くを待つて徐ろに沫茶を汲む悠閑の餘地を養ふにも憑るだろう、一吹の煙草に茶所の甲乙を論ずる平常の慣習が或は君を然か悠長に育て上げたものであろう、鬼に角君には真似の出來得ない禪味がある、然し昔はいざ知らず現在では堂々たる舊家豪商の主人公で其店先の庶務一切は多年君の培養したる忠僕が凡てを切り廻してくれる、従つて君が店頭の愛嬌を行はねばならぬ事は無い、殊に最近公務多端で到底寸暇を得ないのである、千手觀音ぢやあるまいし心は矢竹にはやつても遂ひに席の温まる折りが無いのである故を以て現在の君が餘暇に交際術の會得を行つたりキビキビした評言短句を練習する筈がない、併し乍ら人生丸裸では天然に性格の完成を期し得られまい、木田君が如何に全智全能の卵とは謂ひ結局は人間である、茲に於てか何等かの理由が含まれ其今日の熟練さを持つて居るに相違ない

⊠……宜なり君には涙の過去も花園に舞ふ蝶の如き幸福な思ひ出もある、海千山千の傷ましき徑路こそ無いが凡ゆる人間苦の大概をば體驗して來た時代がある、其陶冶に従つて純良な徳性を一步一步踏みしめて來たのが則ち今日君の性格となつて居るのだ、だから吐露する一句半言と雖へさも悉く人生行路の眞髓に觸れるのである、人の身をつねつて我身の痛さを知るてふ老獪な世間に君の如きは全く先づ我身の痛さによつて人の身を思ひやる人だ、木田君の半面には平凡にして得難き特長が探れば探る程湧いて來る、君に敢て語ればお世辭は眞平御免と云つてテンデ受け付けやうとも

せぬ、イヤ全く世辭や上手で語るぢや無い、眞に迫つて感歎する其聲すら一撃の下に謝絶して終ふのである

☒……君の心には斯くの如く相對愛は無い、凡て絶對愛より逆る所の憐愍と同情が渦巻いて居るのだ、人が迷惑であろうが一向無頓着である、只乃公の心緒動いた其時に油然として君は君の信する所に斷行して持前の熱情を浴せるのである、時として物好きな男と迄批評され乍らそれでも厭ふ様子もなくセツセと公的方面に立ち働くのだ、家にあつては故に好隠居と稱へられ外に出で、は好人物として私かに人の尊敬を擅して居る、而して入りては熱誠を以て一家族に弟妹の範となり珍らしや茶撰の微細まで自ら率先して之を行るので家人は恐縮して終ふのだ

☒……畢竟君は熱の人である誠を以て一貫の主義として行く男である、別段過度の熱に感情の支配を受ける様な失策はない、公私両面に亘つて合理的に將た自然的に其特長を活用して行くのだ、尤も偶々誠を以て進み入る中途には種々の情實に纏れて退引ならぬ窮場に迷ふ事もあり眞偽の判断を下し得ぬ場合もあるが求全の一過と云ふヤツをするのみで所詮論するに足らぬ、殊には君の尤も得意とする下馬評から諧謔や何づれは深入過ぎて豫想外深刻な影響を與へるので恐々連の文句も耳にするが傷持たぬ人々には其當意即妙の奇抜にして奇警なのに舌を捲かせる位のものであろう、君は更に觀察力と劃策とに素敵な天稟がある

☒……市政界に在つては君は隱然新生會の長老廣瀨君の謀將となり濟して其縦横な才能を揮つて居る、恰も新生會の野田大塊も云ふべき地位と人柄であらう、君は大阪の人早くより父業の茶商に従事し漸次大をなし來つて目下は南區の重鎮となり區會議員、聯合區會議員、所得税調査委員、南區學務委員、大阪府方面委員、常務委員、營業税調査委員等の公職を帯び大正十年六月市會議員に選出され一族上げて居るのである、年齒未だ五十餘歳前途益々有爲の士だ



新生會

鹽見伊八郎氏

☒……若隱居は日本人の通弊である、此弊害は人をして完全に能力を發揮せしめないで愚頓にして終ふ、苟くも人間らし事い業をするには五十の阪を越してからであるは鹽見君の口吻である、君は其信念の下に餘生を送らん勉めて居る、既に三十餘才の嗣子を持ち堂々たる後繼者を擁する鹽見君には後顧の憂ひなんか爪垢程もない、のみならず物質的に天恵のある君には何んの屈託もないのである、従つて其抱懐する理想の實現を急ぐには餘りに順調過ぎそのだ、君は境遇の利を占め乍ら獨歩の硬論を吐いて市政界に乗り出して居る、人間利益と名譽慾とを棄てたならば殆ど何物も齒が立たない位強いのである、鹽見君が世事萬般を長子に委ね周囲の譽榮を冷視する男であるから迂闊に敵とするのは愚の至りであらう、彼れは凡てを超越して侃諤の論を持する以上論敵と最後の決戦によつて必ず勝目あるのだ

☒……君の論法から言へば一時に思ふ存分意見を吐露して先づ我腹中を人の腹中に置き驟然起ちて最終の勝算を企てるのである、故に當面の問題に對しては人が何んと言ふが笑ふが所謂燕雀何んぞ我志を知らんやの態度を以てスラ／＼と其言ふ所を披瀝する、而して一言一句悉く挑戰的であり理で固めた中正論となるのだ、従つて甲ならず乙ならず只中庸の論議をするに至つて敵も味方も鳴りを靜めて傾聴する事となる、反對なんか固より打たせぬ様な筆法で行く、偶々

反駁の餘地ありまして虚に乗ずるミサア大變である、鹽見君は態々論理の方法を以て穿つた溝だ、始めの中こそ其反駁は御無理尤もの譯であるなミ花を持たせるが併し乍ら一考せよ、苟くも當該問題は黨利黨略の見地から判定するものであるか否か心を静め身を中正に處して熟考したがよい……なる面して……凡そ公人生活は偏頗の論は大禁物である、然るに反對論の骨子は我輩の立論に對する皮膚の見であるのみならず恨むらくは其狹偏猥りに一方に傾いて居るミコギ下して終ふのだ

君が斯くの如くキメ付ける心底には凡て二つの原因があるのである、則ち一つは現代政界の廢潮を慨する點で他は眞實的に公人を顧慮する點である、生れて一代の節表となり死して百代の儀表となるは君の到底及ぶ所でない、然し君や心を持つる事常に其意氣を持つて居る、片々たる毀譽や時に變じ易き褒貶などは既に君の眼中に無いのだ、若し欲する者あらば命なんか鬨斗をつけて公共の爲めなら何時でも提供する硬骨の士である、此調子であるから押しも押されぬ位置をなして居る、大阪市政界に於て頑固ミ云ひ突張りミ言ひ夫れ君の如く手のつけ様無い城廓は先づ珍らしいミ言はねばなるまい、君は而して第三黨たる新生會に屬し市會のキャブテングボートを以て自ら任じて居る

勿論君だつて木佛金佛石佛ぢや無い老い行く先きは保障する限りでないが併し乍ら蹙蹙愈々度を増す彼れはタツブリミ人間味を抱いて居る政界の態度ミ其論調から見ても君を無粹な男ミ断定するは大なる誤りである、彼れは嚴正中立の公道に起ちて奇警至らざる無き士であるが人情の厚き君の事だ其親分とも先輩とも仰ぐ橋本老の心事に同情しつゝある時には剥ぎ出しなる擁護論やら御用説を唱導し愛嬌をふり撒くのだ、尤も君の嚴肅なる平常から述べ立てるから愛嬌もなり清涼劑とも見えるのだが若し人を換いて他人が眞似様ものならそれは大きな爆彈ミなつて終ふ、

畢竟君は禍ひを變じて福ミなすだけの徳を有するのだ、其個人生活の方面に於ても一見頑固一徹の如くあり乍らヂツリくミ碎けて來る、ドバの末には人を己れの腹中に置いて搖籃の間に彼此相和せしめる手腕を持つて居る、公

利共に彼れは無味乾燥な一本調子の言説對談をやり乍ら然も油然たる人情美を配して手際よく萬事を處して行く所に彼れ獨特の妙味を發見するのだ

君は大阪の人幼にして自ら好んで苦酸のありつだけ味ひ父業に従事しては粉骨碎身以て堂々たる浪花商人となり藥劑師の氣六ヶ敷ミころは何處へやら親しみ易き商人として成功した、始め市學務委員に擧げられ次いで明治四十二年南區會議員に當選し市會議員に推されたのである、現に大阪藥學專門學校理ミして活動を續けて居る



新生會
麥林又次郎氏

……新生會の智囊ミ稱される麥林君は大阪市政界に於ける徳望家の一人ミして錚々たる名を馳せて居る、君の政治的足跡は既に南區會議員ミなつて以來大小となく問題起る毎に確實に且つ深刻に印刻して來つたのである、従つて一朝一夕の人気に乗つて奇勝を博する様な浮草連ミは自ら趣きを異にして居るのだ、君が當初政界に乗り出すの動機は二十有餘年前の明治三十年南區第一聯合區會議員に推し上げられたのが抑も發端である、次いで三十五年三月には區の副議

長に推され一時職を退いて静養したが區會では君を除外すれば忽ち統一がつかぬとあつて則ち再起を懇請し遂に今日迄其元老となつて萬端の指導を垂れて居るのである、超つて大正二年三月には衆望を一身に宛めて府會議員に選出され同四年再選同八年三選し多年に亘りて府政の爲めに貢献するに共に區政の遷化を勉め汎く衆人ニ公務の爲め碎身粉骨を凝した、而して偶々大正十年六月市會議員總選舉に遭遇するや區民は舉つて君の過去に報ゆべく將た亦君の力量に信頼すべく推選して現職に擧げた譯けだ、

君の市會にあるや流石は多年政界の空氣を呼吸した通人だけあつて鳴かず飛ばす離れず付かずの中庸を踏んで行く鮮やかな手際がある、紛糾には渦中に投じない、討論には問題を精選する、去就は第三黨として尤も自由主義を執り徒らに他人の後に追隨せぬのである、眞實に自家の見解を樹て、是非批判の準繩となし黨弊や矛盾の前に巍然たる節を押し通す人である、時には一人一黨の孤立的立場にさへ笑つて戰陣を張り腹背皆敵の窮地に入るにも何等辭する色がない剛氣な所を示す事もある、謂はば情實關係を棄つるにも自家確信の節に殉ぜんとする猛者であるから其言行兩面に於ても殊更此色彩が顯著となつて居るのだ、

市會の少數黨は常に三派の協同的策戦を廻らして多數派に備へ市當局に迫らんとする、而して問題ある度毎に第三黨も稱すべき新正會を口説き落し味方の中心勢力たらしめんと心掛けて居る、故に何かにつけて新正會を抱き込まんが爲めに死者狂ひの活動をするのだ、併し乍ら遠謀に長けたる同會は容易に利用され無い、殊に麥林君が目を配つて會の謀策を握る以上所謂策士連の狂奔も百苦あつて微功がある筈が無いのだ、何んとなれば政友會ならば岡崎か小川の如く洞察力に富み次ぎから次ぎへ展開する政界の機運を穿つて絶好無二の良策を編み出し新正會自黨のみでも優に事實上の覇者たるを得る様仕立てるからである、従つて誘ふ策士連は麥林君の透徹的確な所論を指して一々肯綮に當る其巧妙な策には恐縮して終ふ、而して説かんとする所は説かれ言はんとする所は却つて誨へられる始末だから徒らに利用されないのだ、

君の辯説は餘り多くはない、只併し貴公子然たる柳眉に苦み走つた口を結び凝視一番論陣に起てば敢て滔々たる懸河の辯を揮ふのである、而して一時位ひは何んの雜作もなくやつてのけるから素晴しい勢ひである、大抵多く語るざるを常とするか一朝臍を拄けた米來たならば最早時の猶豫も與へずに論敵を追迫して行くのだ、尤も自家の所信にして中途誤謬あつた時には誰れが何んも笑ふことも勇敢に之れを訂正し自ら誤見を咎めるのである、故に語る者も聽く者も大概心服するのだ、君は一體思慮に富み氣操を彌が上にも崇高に持して居る、然も明晰なる頭腦を以て威壓よりは理解を旨とし押しつけるよりは嚙んで含める主義を執つて居るので人望翕然として蒐るのであらう、更に其豊裕なる資産を割いて何くれとなく公共事業に投じ社會啓蒙の先鞭をつける徳を有するから公私共に賞讃の的となつて居る、

君の如きは眞に君子肌の男と云ふべきである、然り而して親み易く犯すべからざる人である、併し乍ら殊更に本體を偽つて持する人格でない自然に流れるまゝに其全人格を曝け出して居る譯けである、従つて窮屈な矢筈しい方面に於ては叙上の如く範を示して行くと共に又乙な方面に於てもアツサリとして嫌味の無い所を發揮して居る、則ち君は半生を傾けて築き上げた趣味が淨瑠璃と義太夫である、時がな暇さへあれば紅酒綠杯の巷に阿呆を曝す人さ異つて一室に籠り折角我が趣味を練つて居る、技倆はメキ／＼と上達して今は素人義太夫の雄として同志間に珍重されるのである、君の公人生活としての現在は府市會議員、府參事會員、麥酒原料株式會社取締役社長並に區會議員、所得稅調査委員等である、



新生會

改正源右衛門氏

○……府會議員にして市會議員を兼ね市學務委員、營業稅調查委員、區會議員等の公職にありし過去を有する改正君は大阪市政界に於て頗る潛勢力を有つ事然りである、君は其公人生活に於て現任市會議員中屈指の人で同時に政界に處する態度の嚴正中庸なる點も汎く萬人の悉知する處であらう、市會に於ける君は多く隱遁術によつて表面の立役者なら無い、従つて風韻浩氣の如く存在すら何處にありやを疑はしめる位である、併し乍ら豊富な經驗と鋭利な批判力から割り出す所の策戦は問題の起る度毎に美事適中して自黨新生會の立場を益々有利ならしめる腕を持つて居る、左ればこそ大廣瀬君なども一も二も無く改正君の進言を顧みて自家の短を屢々補足し信任頗る傾けつゝあるのである、

○君が風眸は一見單なる好々爺然として居る、而して見れば只何んの苦もなき水鳥の如く急がす迫らず公私兩洋に漕ぎ廻つて居るが然しナカ／＼如何して一筋縄で括れる様な男では無い世波の苦酸謀略、傾向等悉く之れを解し心に收めて居るのだ、色に出さず心裡に奥深く萬般の智能を秘め乍ら夫れ只知らざるが如く、解せざるが如く自重して居る譯である、若しも己むを得ずんば愈々虎の巻を披けて自ら陣頭にも起つし幄内に謀議を掌りもするが斷じて最後の幕が展開せぬ間は其舉に出無い、故に家康が徳川の礎を築き上げた故智に習つて常々所謂重荷を負ふて遠き途を歩む主義を

採り至極地味に確實本位の態度を持って居る、若い者に花持たせるのは君の茶飯事と謂つてよい、其辯末だ中老の域にも達して居ないのであるが虚空の煌榮に憧れる榮譽心が渺い爲めに如何しても此の主義だけは十年一日の如く毫末も變更し無いのである、

○……改正君の主觀から割り出したならば若い間は馬の如しださある、裸馬は之れに鎧と手綱とを架するに非ずんばよく使用に耐えないさうだ、奔馬疾驅して主義主張の大道を狂奔するも未だ是ではあるまい故に手綱を以て禦し律を履んで足跡を正す事が必要だとある成程警句に相違ない、君は既に人間萬事功名の獨占を許さざる公理を呑み込んで居る協同そのもの、力に凡てが立脚されねばならぬ事を辨へて居る、君自ら手綱となり禦者となつて奔馬を左右する偶意かさうかは別として兎にも角にも意氣と見識とに一頭地を抜いた所があるのである、

○……君の特長は即ち此處に在る自己の職分を知り他人の天分を識るのがそれだ、名よりも實を執る寸法が獨特なる點である、其結果動もすれば保守的傾向を帯びる短を伴ふ觀があるが併し乍ら君の先天的同化力を以て程よく長短相調和させるので會つて下らぬ破目に至つた事がないのだ、況んや君は元來實行を尊ぶ人で殊に假そめの約束でも之れを破る事なき人である、此美德は遂に信を天下に繼ぎ愈々公人たる基礎を固めて終つたのである、然も度量の大なる點は知らず／＼頭領的地位を作つて益々將來の政治的生命を壽ぐに至つた、加ふるに物資の天恵生れ乍らに豊かで現在は巨萬の財富を擁し三拍子揃つた好運にあるのだ蓋し雄飛は今後何時でも自在に求められる、

○……君は大阪人、慶應三年生れ、幼時より濃厚篤實を以て鳴り信義に厚きを以て衆に畏敬された、長ずるに従つて明敏なる君は奮闘努力左なきだに富豊かな其家産を増大し先づ後顧の憂ひを斷ちて徐ろに公共的事業に染手したのである君が抑も公人生活の第一聲は明治三十五年衆に推されて學務委員に就任した事である爾後四十三年迄其職に在りて難波學區の發展に盡瘁し教育事業の爲めに萬遺漏ならんとして間斷なき努力に依り絶大の貢獻をしたのである、後ち四十

三年區會議員に當選益々職を完ふし大正四年四月營業稅調查委員に舉げられ同年府會議員に當選、同五年十月府參事會
員となり同八年府會改選に當つては忽再選し現に其職にあり大正十年六月市會議員に當選之れ亦現職にあるのである、



新生會

樽本政五郎氏

☒……陳腐な句言ふ勿れ、丸い卵も切り様で四角だ、人も物の言ひ様で角がたつものだ……凡そ俗語知らぬ紳士淑
女と雖も此の位ひの眞理を辨へぬ者は多岐多様な世間を渡るに満足な行路を選び得まい俗語の一つや二つは是非とも知
つて置く必要があるこは樽本市會議員が一流の皮肉振りを發揮する座談の一節である、彼れが語を繼いで粹界無量の好
例を引照し乍ら一日一步の人生に對し社會的律令や義禮を一々解釋する時、如何なる苦虫屋でも將た如何なる四角四面
の社衚型の人でも思はず洵然として吸ひ込まれて終ふのである、實際圓滿なる傑僧的風眸を持つ樽本君が死佛を活かす
様な句調で説き出す所は恰も極樂園の萬花悉く芳香を放つが如く面白く且つ身に泌みるのだのみならず下手な理論や學
理の難から飛び込ます平易にして誰しも知りぬいて居る簡單な方面から哲學を提へ來つて更に理論や眞理を掴むのであ

るから談笑の裡にスグ理解される、従つて君の警句を聽いては時の經過を顧みる暇がなくなるのである、

☒……君はそれで立派な政客である、社會の實狀に通曉する政治家である、得意の政策論を持ち出せば市政界言論子
夥多あるこも恐らく君の右に出づる者一人もあるまい、然るに君は好んで往年の英氣を振り棄て、専ら隱士を氣取つて
居る、知るや知らずや共に然り矣で通して行く、會つて雄視した當時の奮闘振りに憧憬して居る政友なきが君の變り果
てた態度を憤つて偶々老廢せりとて尻をツ、ク事もあるが君は徒らに呵々大笑するに過ぎ無い、而して又新進氣鋭を鼻
にかける連中などが默念笑ひあるのみの人ミ穿き違へて知つたか振りの議論を述べ立て君に論す喜劇を演じても君は只
笑つて之れを心よく受け入れるのだ、従つて一方から老廢ミ叱咤され他方が無言漢の男ミして取り扱はれる立場に至つ
ても毀譽褒貶に更々動かされない迄固く平凡主義を實行しつゝあるのである、其實乃公出ですんばの斷末魔に起ちては
躍然身を挺し健拳卓を叩き唳々たる聲を張りあげ豐滿なる理智を吐露して大雄辯を揮ひ忽ち問題の解決を試みる事は斷
じて棄てない、然も其壯拳を試みた後には相も變らず話々落々として俗裡に埋れるのを却つて樂みに心得て居るのだ、
茲に於てか君は眞價を舊友に疑はれ新參者に解せられずこも自己は自己行ふべき處に行ひ起つべき機會に起つるの偶意か
ら緒でも埋れつゝ平凡主義を持して行くのであらう、

☒……兎に角樽本君は世評などを眼中に置く様な神經過敏な而して狹量な人では無い、時世に順應した韓臣よりも股
をくぐつた韓臣の忍辱を體驗して益々角を去り圓轉背脫の眞義と理想的政客を自己に建設せんとする特志家である、彼
れの平常は全く切れ味のよい日本刀の拔身を鞘に納めて行かうと努力して居るに外ならない、座の警句を人に與ふると
同時に自ら其言の眞理を體得すべく勉めて行く人である、未だ五十臺の年輩を以て老する様な男ではない、又理論一點
張りの若輩に教を求めねばならぬ様な卑見識の持主ではない、益々英氣旺盛にして智略識見共に幽遠神秘なものがある
故に市政界の猛者連を一鵠の如く叫び垂教聖徒の如く導くに足る力量は優に把持して居るのは更に馭々を要せぬ所で

居る、何を云はれ様も呵々大笑し事重大問題で無い以上滅多に相手とならぬ始末である、蓋し君一個の吐では唱ふる説は聴くべし只其言を執るや否やは自己の所信に俟つべく従つて聴くと従ふとは悉く異なる問題であるを考へて居るらしい、で、君日常の性行は此大なる信念から割り出され更に其信憑せる他力本願の宗旨から得る超人爲の素養は打つて一丸となり著しく平和な而してドッシリとしたものである

☒……殊に君は純大阪人であるのに名利に淡泊なる事に於て郷土風を破つて居る、動もすればソロバン珠を拉し來り割のよい相談には耳を傾け力を致し割の悪い事には一向見振りもせぬ冷淡な關西型を自ら排斥して山田君は苟くも人道の爲め社會の社め盡すべき處には決然として努力をするのだ、そこに利潤も毀譽も顧みない、否度外視して終ふのだ、ミ謂つて終へば簡單であらう、然し、數百年間の遺風を享けた大阪人には打算なしの傾力位る六ヶ敷ものは無いのである、君は即ち自然的に難事を遂行するのだ

☒……茲に於てか天に口無し人をして言はしむ、君の隱德的行動と不拔な信念とは知る者の心から心へ傳へられ口から口に囁かれ遂に市民の信頼する所となり而して公共の代表に擬せらるゝに至つたのである、君は先づ明治三十九年始めて南區會議員に擧げられ、四十五年再選、大正七年三選した、之れより義明治四十二年には南區若池聯合區學務委員に當選、大正元年再選、大正七年三選、同十年其委員長に當選した、尙明治四十五年には南區大區會議員に、大正六年所得稅調査委員に選出され任を終へた

☒……更に大正八年には府會議員に選出され翌年府參事會員となり、大正十年には市政界に打つて出て一舉にして當選の榮を得たのである、則ち現在としては若池聯合區會議員、同學務委員長、府市會議員と云ふ肩書を有する公人である、若し夫れ選舉場裡に榮冠を得る如きは只一朝の偶然事象では無いのである、之れを綜合すれば君性來の人格的反映であつて人の信憑甚だ厚きを證するものに相違ない、宜なり君未だ齡四十八然も益々公人生活の堂に入らんす、前途

亦曙光多いものがある

新生會

仲田由太郎氏

☒……新生會に所屬して大阪市政界の所謂ダークホース(黒馬)たる者は仲田君である、君は本業たる運送店主として結構印神天に身を包み乍ら雄志を隠して居るが來るべき總選舉を出發點に堂々中央政界の一員たらんとして不斷の努力を凝らして居るのである、誰れがそんな叛逆心を起すものでか猿猴が冠を戴く様な話ちやと事も無げに打ち消して居るがそれが抑も火通水通の隱遁術である、君は市會議員の職なきは敢て最後の心願では無いのだ、一日も早く日比谷の政壇に起ちて瞥見一番我輩の述べんミ欲するものはミ極め込みたいのである、その爲めに朝夕策劃怠らぬ譯である、目下の情熱では努力遂に空しからずして確定数だけでも既に二千票に近い開拓をしたのである、従つて政戰一度火蓋を切られたら忽ち彼れは南區を根據地として出馬するものと確信されて居るのだ

☒……仲田君の語るべき特長は何んと云つても不言實行であらう、多く語らずして多くの結果を招かんとするのであ

る、自ら原敬に私淑した彼れである、辯の多きより實効の多ならん事を求める爲めには如何なる辛苦も優に切り抜けて行くのだ、而して外觀美などは少しも之れを顧みない、只一心に結果の最良ならん事を努力するのである、故に市政界に於ても君は多く矢面に乗り出して卒士の争ひをせない、只黙念としつゝ、事案の向背を注視するのである、然も愈々此處ぞと思惟せば勇敢な突撃を斷行する、所演もすれば詰問もする敵陣に向つて將を射んこする事も度々行ふのだ

君が其負けじ魂を以て遂に壇上の人となつた事が一騎打ちを始め互ひに鋭き舌争を演出した、而して益々熾烈な闘ひになつたものだ、仲田君は知らぬ半兵衛を極めてそれ迄は黙つて居た、忽ち猛然と起ちて發言を求め仲田君は壇上のみ腰を据えた満場殺氣立つた折りこて何づれも唾を呑んで其所演を待つたのである所が今金澤沼田兩將の激論があつた、併し乍ら何づれも感情に走つた謬論である、然も兩將は市政界切つての重鎮であるにも拘はず猥りに私論を闘はしたのである我輩は新參者或は脱線不徹底なきを保せない其點は兩將の弊に免じて然るべく諒承され度い云つてのけた、而して諄々として處女演説をやつた、滿場只呆然自失し思はず釣り込まれて終つたのである……

君の奇智は凡そ斯くの如く切端づまつた時にも自在に働くのである、委員會に於ても少しく難問紛糾し出したならば一流の見解を立て、忽ち心氣一轉させる妙腕を揮ふのだ、何分實質主義を標榜する人であるから七面倒臭い理窟に拘泥して居ない一氣呵成事の結着に急ぐのである、これが君の特長であり且つ短所であろうが未だ曾て其爲めに失敗を見ぬ以上如何しても特妙な才能云はねばなるまい、君は市政界に戀々とせぬので全般的に雄視して居る言はれない、併し乍ら新生會に於ては一種の慧星として頗る羽振を利かして居るのだ、殊に將來の運行が明らかであるから從つて幹部格に据えられて居る

君は大阪府下泉北郡の生れ明治二十一年出生して以來乃父に隨つて學習し早くより運送業に従事したのである目下は仲田運送株式會社の社長となり自ら神天を着て東奔西走し業務の擴張に勉め鐵道省の信用を收めて益々發展の途

にあるのである、然も其業務擴張共々に自ら得意先を訪問し時事を談し政見を披瀝しつゝ、將來の雄飛を策する所は實に難き所である



新生會
大槻吉平氏

謹直にして酒脱を評すれば猫を被つて居る様な直感を與へるが併し乍ら自然に適ふ其の容態を顧みれば成程に妙味を発見する評語であろう、則ち大槻君の性格は一面に於て頗る謹直であり他面に於て俗脱して居る、君は何事に就つても會粗略に取扱ふ様な事が無い、のみならず慎重を旨として臨む人である、一度事を執つたならば頭尾の句切りを解決の警鐘を打たねば猥りに中途で放棄しないのだ

然も忽然と仙人氣前が現はれ出て俗を脱するから變つて居る、酒脱を謂つても君のそれは稟性の質が根本となり軀幹となつて、それに親しく浮世の經驗を攝取し之れを加味した解脫の域にあるので凡てが剽逸に行はれるのだ、從つて玉の如く角無く又くさい所が無いから珍重されて居る、そこで其本尊である君は、周圍皆知友であり味方であるに

等しい位るに考へて、分け隔てなく洒脱で押し通して居る

◇……君は頗る亦通人で知られて居る、重くるしい公人生活から衣裳を脱いで金色の酒杯を傾けたミ來たら徐ろにお箱の立山を唸り出し満座をアツと言はせるのだ、而して酔氣漸く脈々ミすればヤオラ身を掻け六尺豊かの體軀を宛ら胡蝶の様に舞踊させる、通常骨ツ節だらけの腕や指先なども此の時ばかりはなだれかゝる青柳か白魚の様な逸品に装はせツクツク三嘆させて終ふのだ、さうかと思ふミエヘンミ咳一咳聽て義太夫浪花節それからそれへミ連發するので本職ミ取り違へられる事再三再四に及ぶのである

◇……兎に角君の瘦腕は其の筋に鳴り渡つて居る、知らぬ人は勤直なる大槻君が夫れ斯くの如く隠し藝に富むミ想像さへ出来ぬ所であろう、併し當の本人は機會さへ得たら何時でも持ち合せを披露に及ぶさうだ、何んでも眞面目に熱中し會得する迄後に引かぬ彼れは圍碁であれ將棋であれ悉く達せんミ試みる、而して尙且謠曲の妙韻までも呼吸するのだ、最近に至つて羽衣の曲なき描寫を主眼とする朗音に因つて宗家の特長を綴り合せて見る事もある

◇……君の市會に於ける所屬は新生會である、智將廣瀬君の右翼となつて盛んに活躍し前衛ミなつて次第に論客の鋭鋒を磨きつゝあるのだ、一體が確信に生きて居る人であるから論議回策なきも至極徹底して居る、殊に推理力ミ綜合的能力ミは嶄然ミして一頭地を抜き鮮かて而して的確である、可否の裁定は一舉兩斷以て直ちに主義を鮮明にして行くのだ、従つて其將來を囑望されて居る

◇……君は大阪の人明治十一年月出生、小中學校を出で、から累代の家業質屋業に専心従事し健實な處世に餘念が無かつたが固より公共的奔走に先天的の趣味を有するミして君千萬の黄金を徒らに弄ぶ様な事は嫌ひである、出で、事ある毎に團體や私人の爲めに捧身的に力を致し遂ひに信頼を享けて大正十年六月南區二級から市會議員に擧げられ現職にあるのだ、尙君は難波新地の郵便局長をも兼ねて居る

第三節 公友俱樂部

公友俱樂部ミは東區選出の市會議員中同好者を網羅する政治的結社であるが其主腦部は元代議士金澤種次郎、前市會議長山口房五郎中村虎次郎、渡邊菊之助氏等である、別段同派獨特の色彩ミして數ふべきものなく強いて類別すれば金澤山口兩氏を中心とする超然派ミ中村渡邊兩氏を中心とする刷新系ミが各別の形式に行動して居る、然し同派固有の所論ミしては反池上熱にありて爲めに之れを支持する新滯會や、實業俱樂部等ミ反對の立場にあるのである、

其標榜は未だ確然ミ公表するに至らぬが綜合するに主ミして資本的階級の自治政權掌握を排し均一的の利福を齎らすべしミ謂にふある、所屬議員は左の諸氏である、

△東區選出 金澤種次郎、山口房五郎、中村虎次郎、渡邊菊之助、木村篤三、田村嗣治郎、井村基一

以下所屬議員月旦



公友俱樂部

山口房五郎氏

☒……裏日本から飛び出して大阪の市會議長を勤めた事は何んと謂つても異常な所である、元來雪の越前は概ね故山を枕に死を俟つ慣習のある所、偶々郷關を出で、他國に押し出すなどは生命を棄てるよりも嫌ふ風習に狎れて居る、今日に於ても尙且つ生れ故郷を見棄てる様な大膽さは餘りに數へられぬ思想が流れて居る、其の越前の僻村丸岡町に生れた君は天下未だ雲行き荒い明治十五年斷然志を立て、修業に出た人である、

☒……池上市長に拮抗する君は彼れの一警吏から叩き上げた粒々と同様な苦酸を嘗め盡したのである、則ち山口君は故山を棄て、日本海の怒濤今にも沫を浴びる三國町福井縣龍翔小學に一教員となつて出世の緒としたのである、而して居る事二ヶ年超えて十七年六月初めて大阪市に來り西區堀江、東區塔西、南船場等の各小學校に教鞭を執り役々として子弟の教育に没頭した、更に十八年末職を辭し大阪府準判任御用掛となつた

☒……次いで府收稅屬となり寸暇を得て茲に猛然時勢に應じ法學を研究し傍關西法律學校に學びて二十二年代言人試験に合格し涉川忠次郎君に事務を見習つて翌二十三日北濱四丁目に事務所を開いたのである、尙規定改正と共に二十六年辯護士試験に登第し兩後辯護として三十餘年間其事務に従つて居るのだ

☒……従つて斯界の元老であり且つ又過去を顧みれば二十六年辯護士會副會長となり明治四十一年來再々東區會議員に舉げられ一方三十三年より三ヶ年間及び三十九年より再度破産管財人に推舉されたのである、則ち着實な階段を踏みしめて次第に大器の實質を現はして來た象も謂へるが併し乍ら之れ立志傳中の尤なる人として崇敬さるべき所であらねばならぬ

☒……君が刻苦勉勵青衿より身を起して大阪市政界に一大波紋を捲き起す迄には概略以上の如き陣立であるが偕而抑も君の聲名を鳴らす動機は何んであつたか、曰く四十一年初めて府會議員に當選し英才錐の如く鋭脱したものが即ち發端であつた、君は當時の府會に於て尤も透徹した立論と銀鈴の如き主張を凝らし而して物凄い程切れる才能を發揮したのである、

☒……其の結果向ふ所忽ち寸斷する、のみならず諄々として高邁な抱負を披瀝して凡そ府議の心膽を奪つたものである、偶々大正二年の市會改選の期は到來した、知友は勿論市民の有志は無理矢理君を拉して立候補せしめた、君も雖も意なき譯けでは無いが只市民の輿望に如何にして報せんやを懸念する勤直な觀念は無暗に躍然受諾するの輕卒なるを配慮したまでである、

☒……併し輿望は遂ひに君を高點で選出するに至つた、而して忽ち府會議長に推舉されたのである、君は茲に於てか年來の特技を縦横に揮つて一代の名議長として大ひに男振りを上げたのである、當時の市會は多士濟々口八丁手八丁の生抜き揃ひ迂闊な制禦は何んの手應へも無い、併し山口君が一度口を開いて裁決すれば立板に水の流れる様に迅速な解決を告げた、大正六年再選と共に再び其席を持續し前後八年間名議長として起ち池上市長の選任にも産婆役となつたのである、

☒……現在の君は餘勢尙未だ盛んにして宛然たる議長後見人の姿である、其論鋒の鋭さは蓋し市政界の元老として稱

すべきである、元來が七面倒な小競合を好まぬ君は小規模な問題はお茶に濁して取り上げ無い、只苟くも大綱に亘るべき重大案件に至つては毅然として壇上に立ち堂々人を壓するに足る論陣を張つて屢々池上黨の本陣に肉迫し威怖せしめるのである

☒……池上三選の當時にあつても一流の談論を浴せて動もすれば護衛軍の混亂を企てんとした怪腕は流石ズンと大きい所がある、敵味方の差別なく一般を唸らせたものだ、それで育立ちから現在に至る徑路が異語同義でも謂へ度い池上對山口のコントラストは何づれにせよ甚だ面白いものがある、君は越前丸岡町の人元治元年九月生れ所謂福井藩の儒學で型ざられた君子である、頗る温直な性格を有つて偶々流暢な謠曲を友として動中尙靜あるを示して居る



公友俱樂部

田村駒治郎氏

☒……大阪市會議員富豪の一人云はれつ、將た亦モスリン王として取沙汰さるゝ田村君は最早千萬金の恒産を以て財界屈指の傑と稱へて居られる最近の經濟界に當面して彼れは明謀智略行くとして可ならざるは無く策劃圖に當つて日

一日に百萬の富を吸収したのである、然も彼れの主義は架空の所謂投機的な不條理な僥倖を極端に排斥するのだ、而して玉汗粒々の積載主義である、多分の勞力を以て多分の利を博する則ち正比例の方法に基いて仕事に携はるのであるが併し乍ら俗世の馬鹿正直を眞似るものでない、成程戰陣は凡々として正比例の利得を目的に張るのであるが君は更に頭腦と膽力とを以て商戰場裡の武器に供して行くのだ、これが抑も田村君獨特の技倆なのである、

☒……彼れは競争激烈な大阪に於て過去數十年間奮闘力戦ヨク難關を切り抜け來つて押しも押されもせぬ豪商になつた理由は土臺となつた財力の助けもあつたらうが大部分は君自身が編み出した謂所頭腦の戰略に依るものである、勿論凡々たる者が此田村式商法の應用を試みたこと何んの功德もない、田村君自身の活用に依らねば到底同じ様な効果を求められぬから面白い商人なんぞはツマラヌものです兎に角勞力を惜まらず眞面目に行つてさへ運命の神様に狂弄されますからね彼れは自ら卑遜するにこんな言を以てする、然るに猛烈な意力に満ちる彼れは言外に則ち奔弄の神を征伏するてふ觀念を傳へて居るのだ、

☒……それで知る人々は田村君を目して異常な意志を持つた傑商と稱して居る、然し彼れは自ら凡商人と謙讓する、君を知らぬ多くの人は一見粗野な其外觀を眺めて矢張り名もなき商人としか買つてくれない彼れは寧ろ知られない部分の平等な取扱ひを好む人である、所が實體は左様に平民的に且つ調和的に見えるに拘らず傑商田村の名稱は百五十萬民の頭腦に悉く刻印されて居るのだ、從來一凡商を以て素知らぬ顔で經財界に活躍しつゝ、あつた君が奮然として市政界に乗り出したのが則ち名聲頓に喧傳される素因である、

☒……彼れは初陣にして商業會議所議員に當選し更に市會議員に打つて出た、而して性來の收けず魂が手傳つて忽ち市政界の慧星と謳はれ大方市民に歎聲を沿ひせられるに至つた、君は市會議員の公職に就くや同志に擁せられて公友俱樂部の中堅となり大正十年の市會早々逸早く徑拔な才氣を喚發し無盡の力量を發揮しつゝ、膽玉の勝れた所を先づ見せつ

けたのである、其貫録の下に彼れは簡明警拔な精句を吐露し併せて流暢な言句を連ね一躍して錚々たる論舌家を以て横行するに至つた、茲に於てか財、腦、辯の三拍子揃つた得難き人物として市議間の敬慕と珍重とを一身に蒐め一方の重鎮として敵も味方も許す様になつた、

☒……君は楚々たる體軀を提けて頗る頭の低い人である、而して唸る程ある財力を背景としても尙且つ邊幅を飾らず質素と勤儉を勵行する、従つて如何なる會合にも殊更幻爛的な所作は求められても敢てせぬと謂つて終へば洵に堅苦しい様だが公共の公益の如何なる方面にはドシ／＼財を投じて力を致すのである、宜なり君が過去大膽に而も心を碎いて築き上げた千萬金は刻一刻と利を生み増加して行くのであるから物質慾を欲するがまゝに自由にする事が出来るのだ、然るに彼れ自らの制禦心は飽迄も力行素朴主義なのである、而して黄金の床に座する様な財物を持ち乍ら嘗苦力戦の跡を忘れまいとするのだ憶ふるに彼れ田村君の異大人格的光彩も此の點に奥床しく閃くのである、殊に君は府下豊能郡池田町の酒造家笹部氏の次男に生れ何不自由なき資産家の流れである、普通から謂へば大家の息として薄弱な意思と驕奢な弊に陥るべき筈である、然るに君はドッコイ褲を締めて早くも弱冠の折から自立し好んで悪戦苦闘慘澹たる徑路を辿り遂に業成り名を遂げたものである、而して今日は商界に王と稱へられ政界には麒麟兒と持て囃されて居るにも拘らず依然禁慾の實行を試みて居るのだ、これだけでも凡そ人格的半面の雄辯辭であるまいか、更に見よ君は郷黨を忘れぬ企圖として最近私財を池田小學校の爲めに投じ兒童教科の器械器具標本を寄附し其他にも公共とし言へば多分に喜捨して居るのだ、兎に角君は稀なる人物である、

☒……君は平常洵に好々爺だ、其政戦場に起つや侃々諤々の闘士として將た亦建設的政客として縦横な辯能を發揮する、而して一流の觀察に因り急所を別抉し刺へ峻烈箱の如き奇襲を試み政敵を降さずんば已まない、然るに自ら火花を散す政戦を挑んでも中間非なるに想到すれば忽ち對手に屈して其の説に隨ふだけの度量を持つて居るのだ、彼れは總體

に於て理性的な人である、情實に拘泥するが如きものではない、飽迄主義に生きる男で又之れに殉せんとするのだ、人若し彼れを評して頑固と謂ふならば此の圭角を指して悪口するので取るに足らぬ皮相の見と謂ふべきである、世の中は分水嶺に従つて百人百様の見解がある甲の説を以て乙の眞理を碎かんとすれば甲自身のそれも蹂躙して終ふではないか田村君は意志の人何んで世評に動じやう

☒……君は實業界に知名の士である則ち弱冠にして毛斯綸友禪業を志し大阪に出で明治二十八年洋反物商を開業し傍ら岡島友禪合名會社を共營し後ち獨立以て自ら市外豊崎町に工場を經營した、大正七年に至り株式會社田村駒商店を組織して社長となり其他毛斯綸會社、日本共立生命等數社の重役を兼ね又多年大阪織物同業組合の役員となつて居る、君は建築に關する趣味を有し庭園及園藝の事には浮身を棄して熱中する、而して藝敵が來襲すれば之れ亦名石を打つのである、



公友俱樂部

渡邊菊之助氏

辯護士で市會議員である渡邊君は臥龍點睛を敬稱されて居る、君の全身は熱に溢れ血に燃わて悉く熱血男兒と謳はれて居るのだ、常に磊々として萬人を調和し然も濁も併せて飲む絶好人物である、従つて君の鋭脱縦横な真相に觸れぬ者は真逆に此の壯觀を豫想し得ないのである

假りに過去を顧みよ、政客渡邊の名聲は甚だ深刻である、會つて政界の時雲漸く展開して桂内閣の末期を包むや扇然として憲政擁護閥打破の輿論が湧いた、事理に明かな渡邊君は王杯を棄て、猛然躍り起ち其幹事たりし國民黨大阪支部の同志を提げて久しく沈滞した關西政界に輿論の第一聲を放つたのである

滿面朱を注いだ君の風貌は晝夜の別なく市内到る所に走つた、而して抉ぐる様な熱烈な辯舌は其都度聽衆を酔はしめたのである、東都にばかり犬養ある譯で無い、我大阪にも之れあるのだと衆論は悉く渡邊君を仰望したものである、然も君は評論排擠更に顧みない、只一徹に苟くも主張を貫徹し政界の廓情を庶幾した

最近に至つて大正十年初秋池上三選問題に邂逅しては猛烈なる辯舌を議場に揮ひ絶對多數黨を向ふに廻し刷新派の孤城を守つて力戰奮闘したのである、當時の回顧は所謂池上氏は二期を完全に勤め上げた、優退それ然るべき事である、君が過去の功績は須く有終の美を以て誇り度い

然るに何ぞや君の爲めに其之れを供へずして三選を即決せんぞ、甚だ不可解である、吾人は仲小路君を後任者に推舉する、それは適任を信するからだ、况んや大阪市政は今外科的治療をせねばならぬ状態である、秋風烈霜の君を擁して此の市政を革新し度いと謂つて議場獨歩の大雄辯を試みたのである

流石に數多き大阪市會も渡邊君の吐露深遠抑揚自在なるに競ふ者が頗る少いのである、此の熱血漢は飽迄熱血である、政戦終つて虚心坦懐其處に敵なく味方なく只平等の和風が身邊から流れ出るのだ、然も明晰鏡の様な頭腦は動中尙且つ靜ありで少しも亂れる事は無い

従つて法律事務に従事しては究理深く果斷徹せざるなく人の信憑に報ゆる事異常なものである、今日の信望隆々として依頼者夥多なるは凡て君の性格を語る資料であらう、而して毅然たる公平の態度を油然たるかけ隔てのない優雅さは確かにチャームするに謂ふやつた

君は大阪の人明治二十年關西大學を卒業して翌年即ち二十一年以來辯護士を開業し今日に迫んだ、而して其間大阪政界の轉機も謂ふべき明治四十四年大阪府會議員に當選し大正十年六月東區三級から市會議員で當選したのである



公友俱樂部

中村虎次郎氏

◇……辯舌家揃ひの公友派中に異彩を放つものは中君である、君は獨り同志間に雄視するのみならず六十に餘る大阪市會議員中の鬪將として常に政戰場頭駒を進めて一騎打ちを試みる快男兒である、其精密なる策略に至つては凡そ獨彈の壯味を有して居る、而して透徹した腦漿からは絶えず數理的の議論が風發するので畏怖されるのだ

◇……辯護士だから謂ふ前提で之れを秘めるには餘りに惜しいものがある、同じ業者にも只單なる法理的明快者もあれば商略的策士もある、辯舌を以て鳴る人必ずしも辯護士なるが故に然り謂ふ譯に行かぬ君の如きは法理に勿論造詣深いが簡決な所決は流れて政治的經綸に綜合されるのだ、而して滔々確的な演述を成して衆を陶醉させる

◇……市政壇上絶對多數黨を政敵としては孤軍奮闘存りに勉め敵陣に肉迫し乍ら快辯を揮つて征矢を放つのである、其言々句々甚だ明快で些の嫌味を湧かせない、従つて敵も味方も私かに注意を拂つて行くのだ、短刀直入問題の骨を捉へ來つて捲き立てる所は思はず痛快を感興せしめるそれで君の聲に連れて拍手は議場到處所湧き出るのである

◇……最近の統計から裁斷するに君の一分時秒間の語數六十三語ある、能辯家と雖も七十四語が大阪で異數とされて居る、若し相對照したら既に能辯の域にて數へられる譯だが然し君が能辯黨であるとは安當で無い、涼々たる律階は

胸に迫り腹を抉ぐる所が多い、語呂も強軟高低律に適つて雄辯家として要素に缺けがないのだ

◇……思索に富む君は頭心口則一致の氣轉が利くので不用意な場合に於ても開口一番急ち數千言を吐露するから異つて居る、併し平素の討究心は不斷に練られて推理と洞察の二大特長と相俟ちセツセと磨かれる、殊に分解的觀察から歸納する判定は流石に堂に入つたものである、それは糊りの強い自發的奮勵心の盛んな事は珍らしいものだ

◇……市會議員として斯くの如き君は本業の法律事務に於ても同じ様に法廷を賑やかすのである、零細な法律路を詮索し更に實際關係の機微を穿つて類別的に立論を調へる、殊更陥罪を設けて奇捷を博するが如き陋策は君の尤も嫌ふ所である、堂々正座の裡に律義を匡し我信念の燃ゆる炎に輪贏を争ふ梗概のある人だ

◇……私的方面にあつては釋然甲乙の差別茲に消ゆる年來の融合性逆つて訪人對客の赤誠に會通するものがある、飽迄書生的な平民主義の遂行は亦よく快感を分つ所以であらう、君は慧星の如く市政界に現れて任期僅か半年ならずして擡頭したのである、剛毅潤達な資性は數年ならず市政界の花形となるに相違ない

◇……君は大阪の人、明治二十一年十一月生れ三十九年關西大學法律科を卒業し辯護士試験に合格して四十四年法律事務所を開業後今日に至つたのである、偶々大正十年市議總改選の機會に乗じ東區の二級から出馬し一戦にして美事市會議員となつた人、須らく少壯有爲の囑望を蒐めて居る

木村篤三氏

☒……木村君は公友俱樂部派に屬して常に刷新派の面々を相提携し絶對多數黨たる新滯會に拮抗する猛者である、君自身としては敢て前衛となつて政戰場裡に疾驅せぬが併し乍ら籌計を適確に廻らして進退掛引の彩配を揮ふ所は天晴れな政界の策士であらう、見よ君が所屬する公友派の内部には常に實業家連の一團と辯護士前代議士新聞記者出身の一團とが稍もすれば相背向せんとする暗流がある、前者は關西氣質の實利主義の下に極めて打算的な措置に出づるに反し後者は口も八丁手も八丁の理窟屋揃ひで何かにつけて理詰一點張りで行かんとするのだ、従つて兩者は其協同的歩調に出でんとする時に非常な枘格を來すのである、然も未だ會つて其内部的醜體を暴露せずして坦々たる結束を表示して行くのには蓋し何ものかの吸引力がなければならぬ、則ち木村君は身は之れ實業家であるが抑も政商的な度量を持つて居るのである、君は而して内部の暗流に對して唯一の安全弁となり調節器となつて表面頭目に隨ふのであるが實は賢策を如實に見せつけ乍ら一派を左右して居るのだ

☒……其刷新派との關係を密接ならしめた過去の功勞は獨り木村君の力ではない、中村、渡邊兩君並に金澤、村井などの各員が或は商賣を同じうしたり連衡を策したりした事が愈々提携の機會を速成したのであるが併し最後に一身同體

ミ迄抱擁するに至つたのは連鎖の爲めに凸凹自在の態度に出た木村君の功績が大半を占めて居る譯である、然るに今日恰も中央政界に於ける國民黨の立場を築き上げ實際は刷新派なるものが國民黨員の集團であり公友俱樂部員は准黨員であるが……真正面から反對を打つて出づる勢力を作しても君は相變らず一陣等を守り容易に榮暈や筆頭になる事を欲しない、寧ろ舊株に基いて神出鬼没な策を献じ只々多數黨に對する牽制力の増大をのみ腐心する有様である、則ち名利に淡き事水の如く團體運動に忠實なる事將に鳩羊の如くである

☒……君には左りとて浮世離れた仙人堅氣がある譯けでない、結構人間慾は有つて居るのだ、只し併し乍ら自制一番、己れを空にして協同精神を植ゑて行く謂はゞ人の肺腑を以て我肺腑とすべく雅量を見せて居るのである、従つて隨時隨所に覇氣を示すも同時に粹氣満々たるものだ、君は元來口の人では無い、意の人である、強い意地も張れば乙な意地も張る、或時には粹な伊達引きや辯當でもするのだ、市政界に於ても彼れは畢竟此の調子を失はない、意満つれば口を緘して同志の糾合に奔走し忽ち妖雲を捲き起しつゝ沛然たる反對運動を降下するのだ、然も偶々彼れの素志は比較的調和の方面にあるのであるから假りに問題惹起するとも斷案是なりとすれば笑つて人の説にも反對派の説にも聽従し扶翼するのである此の點は君が純然たる一敵國視され乍らも意見を異にする人々に信望を得て居る所以である

☒……君は滋賀縣の産で暫く東都に遊學したが澎湃たる怒濤止まざる經濟界に好んで單舟を漕がんとし出版して實業家となつたのである、殊に君獨特の手腕は漸く土地會社の方面に顯著となり、種々の會社に手を延ばしつゝ根強い根據を作るに至つた、現に千日土地建物會社の重役として斯界に一城廓を築き上げ尙建築請負業者として廣く怪手腕を揮つて居るのだ、君は明治十一年生れ即ち未だ四十代の若盛りを勉めて政界に盡さんとし大正十年六月市會議員となつたのである



公友俱樂部

村井基一氏

☒……村井君は軟い様で硬く、硬い様で軟い人である、情緒の至極綿密な温容接し易い所は全く軟い春の気分であるが毅然として節を唱へ頑として百樂の誘引ありとも一苦に殉ずる點は恰も秋霜烈日の如く硬骨四圍を壓するのだ、然も節に随ひ硬骨に提携すれば油然として解けて谷川の如く滾々たる情熱が汲まれる男だ、唱へて聴かざれば他の説を訊し彼此相比較しては短を棄て、長に則り苟くも無下に人の言を排斥せぬ所に蓋し村井君の得難き生命があるのである、其コンクリート問答の如きも實は専門家に非ざる君の知らぬを知らず辛直に告白したのだ、該建築法の異議に就いて大膽に質議を試みたものである、其辛直さが修飾多い現代には餘りに放膽に受け取られた、而してアツミ言はせたに過ぎ無い

☒……今こそ納つて終つたが其昔、君は敏腕なる新聞記者として青年時代を鳴らした、壯年に及んでは新聞經營を立脚地として更に實業界に錚々の名を馳せ慧星の村井ミ仇名を買つものである、其頃から觀察力の強い機會を捉ふるに敏捷な特長を持つて居た、然も野趣タップリで短刀直入毫も修飾に馴れぬ男であつた、従つて或時の如きは處世方法の知否をさへ疑はれる程世事に拘泥せぬ男であつた、然しソレは過ぎ去つた徑路の思ひ出多き遺物である、固より世故に長

け苦樂の實際に觸れて心絃到る處に人生の機微を穿つて居る君の事である、時こそ人との對照に依つて次第に時勢の型に鑄られて行かねばならぬ位は君の熟知して居る所だ、昔の特長と其趣きが今日尙其儘に踏襲されて居るのならば最早語るべき餘地が無いが村井君も去る者である、短は憚り乍ら取り棄て、今は只僞らざる辛直さのみ株守し持續して居る

☒……龜の甲より年の効きはヨク言つたもの村井君も知命の年を超ゆる既に七才だ齡くも其過去に引用した處世法中面白くない部分は其都度改竄して新陳代謝人の長所を以て補填したのである、故に昨今に於ては將に圓熟し人格も智的方面も何一つ痒い所も無く缺ける點も無い、身を挺して幹旋努力に至らざるなく己れを空うして人に殉ずるの氣風は近頃メッキリ感銘されて居る、殊に君は大阪市の印刷同業組合の首班となり其開發を講ずるに當り益々衆人の敬意を浴びた、會つて政府筋の官吏と相呼應し斯界の爲めに大阪市に印刷文化展覽會を開催した、君は根氣強く當面の花形となり交渉向きから接待に至るまで成し遂げた、此の時にも村井君の只ならぬ手腕と見識とが迸り出たのである

☒……兎に角君は奮闘の士である、公私兩方面に亘つて常に此のモットーで進んで行くのだ、市政界に於けるや君は極めて不振の立場にある公友俱樂部に所屬して居て主義主張の貫徹には不便多いのであるが固より覺悟の前でやる事だ寧ろ黨議黨則に拘束されぬ自由な場面にあつて一人一黨主義を勵行するのが君の此上なき理想であるから一向痛痒を感じぬ所である、従つて時に自黨の主張にさへ反對を打つて其曲非を難じもすれば亦多數の暴威に向つても敢然として火蓋を切るのである、流星は昔取つた杵で言ふ事は條整理然として間隙なく堂々たるものである、敵も味方も君の所説には敬服するのだ

☒……君の説は常に穩健である無理を押し通さんとする私怨私恨が無い、嚴正中立の見地から凡て合法的に捲き立て、行くのであるから多數御參なれ少數亦可なりで若しも立論に對する駁論家にはビシ／＼と當て身を喰はして行くのだ

大抵は黙過の態度に出るが併し乍ら愈々コ、ゾ言ふ幕になる議長ツミばかり發言を求め、而して本案は憶ふに重大問題である宜敷私見を棄て、慎議せねば市會議員の職責を完ふする事は出来ませぬ……故にと持前の説を立てるのだ主として計數方面の質問や教育事業の論客で随分専門家の頭痛の種となる事を吐露するから痛快である

君は江州の人慶應二年八月を以て滋賀縣蒲生郡武藤村に生れ故郷に學びて後操觚界に身を投じ東奔西走努力の結果功成り現に日本織物新聞社長となつて居る、尙教育方面の志厚く大阪工手教育會を組織し其會長となり大正四年及び大正六年大阪印刷同業組合の組長及び大阪實業組合聯合會理事に推され現任し同十年六月市會議員候補に推薦され一級より出で、當選し現職にあるのである

最後に特記すべきは君が二十數年來職工教育に力を致して居る事である、君の見解に依るに全く人は名にも左右される性質がある、所謂名は體を現はすから凡ての改善も出来るならば名から訂正せねばならぬ言ふのである、而して明治二十四五年頃から彼れは職工の素質改善に全力を傾注し先づ職工の代用語に工手なる語を用ひた、恐らく我國に於ける工手の稱へ始めが村井君によつて創造されたのであらう、彼れが左様して迄も職工教育に心魂を打ち込んで居る事は要するに之れを以て生命と終始する決心からである、それで工手教育會を起して力を致し現下の勞働問題に對しても將來大いに解決に傾力する準備をして居る、工手と言へば君の工手稱を唱へ出した事に就ては現任行政裁判所長窪田靜太郎君が未だ農商務省に居た頃大いに之を賞し寄せる書面には必ず職工を工手と書いてあつた事も一の挿話となつて居る、而して工手の名稱が汎く行れんとした矢先工場法發布となり再び職工の名義を用ゐたので一時甚だ工手の名稱廢れたが最近官民を問はず職工を工手と稱へる様になつた、之れは村井君の理想が漸次行はれて來たものと見てよいであらう

第四節 刷新派

豫選派の情弊を打破せんとして組織されたる刷新會が刷新派の濫觴である、而して刷新會の標榜を以て豫選派の失敗を糾彈した當時は頗る人氣に投じ一舉市政權を掌握するに至つたが一朝植村市長を拉して蹶躓するや日常論談吐露したる政見の遂に信憑すべくも非ず遂に自失して忽ち勢力を失墜した、當時を回顧すれば既に星霜十年を隔して居る爾後僅かに板野前野諸氏に依り刷新會系の挽回を計つて居たのである、既にして大正十年の總改選に遭遇し脆くも板野氏失脚して山本芳治、岩本政市氏等中心となり大いに同志を結束して之れを刷新派を銘じたのである、主義綱領は凡て刷新會當時のそれを傳統したので(一)特權階級の專横を許さず(二)我等は正義の下に市政の萬全を計る(三)市民の福祉を適切に増進せんとするのが骨子である、同會の中央政界に對する立場は純然たる國民黨系と稱すべき理由が見られる、則ち其盟主山本氏謀主岩本氏は共に一は國民黨大阪支部幹事一は同評議員である尙同派は多士濟々の有様で能辯なる石原榊谷、小林唯治郎氏等を有し何れも國民黨系の人々である故に同派の進退虛實は共に犬養直屬の策戦に基づくので尤も黨派的色彩の明かなものと稱されて居る、最近新濤會より小林綠氏を拉し更に從來氣脈相通する公友俱樂部中村、渡邊兩氏を會して木村篤三氏を共鳴せしむるなど策縱横の觀がある

同派の主義綱要は

一、市政の刷新は情弊の打破に在り信ず 一、商工都市の繁榮を増進すべく施設の完全を期す等で其所屬議員は左の諸氏である

△北區 岩本政市、小林綠 △南區 森川俊治、山本芳治 △西區 小林唯治郎、榊谷寅吉、石原善三郎、岡本藤三郎

岩本政市氏

☒……君が市政界に志した抑も原因は情實を打破して衆論に摘從したる施政を是なりと信するの餘り止むに已まれぬ公的精神からである、従つて舊來の市政方針に對しては飽、迄改新遷善を強張する、而して物の美事に打ち破らすんば凡そ承知出來ぬのだ、然し此の破壊的猛進は要する所新主義の建設に到達せんとするので謂はゞ其の前提に過ぎ無い、建設の爲めの破壊を試みる有意義なものであら

☒……一面から批判すれば理想論を提げて實際を行はんとする間隙はあつても確かに實際の理想化を信する強味がある、君の持論にしても市政は蓋し市民の所有であり、一局部の壟斷を有さぬと斷じて居るから勢ひ正論に組する筈である、加之君性來の任侠心は嚴正な主義に殉する者の爲めに油然相交渉せねば措かぬのだ、従つて寡言は謂へ常に侃諤の警句を鍊る刷新派は敢て自ら生死を顧みず苦樂を共にする譯けである

☒……君は沈重寡黙にして何事も嚙み分けて居乍ら減多に自家表示を試みない、却つて知友に頌ち以て人に花を持たせる男である、剛腹ではあるが調和と眞摯とを持つて克く人心を歸依せしめ且つ泉の如き情誼を垂れて敬慕される、而して何處か大きい器を備へつゝ、親分肌がほの見えるので早くも政友仲間の重鎮に推されて居るのだ、實際刷新派に於け

る岩本君は押しも押されぬ領袖株である

☒……其辯を以て聴けば君も亦随分思ひ切つた斷定的の雄辯家と謂へる、曾つて池上市長三選問題に議場沸騰の折柄ヌツクミ起つて反對の強陣を張つた……大阪市民の輿論は之れを實地に訊さずんば偏頗ではないか……西に東に其聲を聞け、南北何れか非議無からんや乞ふ市長自ら赴いて眞否を尋ねよとやつた、これには其道の老練な池上君も暫し呆然として終つた

☒……然し岩本君の尤も得意とする點は籌計を帷幕に廻らすに在る、急先鋒となつて敵陣に肉薄する前衛も敢て他に譲ら無い、こは謂へ情に明るい君としては敵の叩頭三昧に向つて迄毒つき立てる冷淡さを敢行する譯けに行かぬ、従つて圓曲にして銳利極まる快刀を振り翳す勇志を収めて進退度に適ふ神鬼の計策を樹て同志の總參謀を掌理する所に獨歩の異彩が發揚されるのである

☒……此の特長は君の本業たる辯護士としても亦通有なものである、君は泣きつかれたら最後何處までも人の爲めに粉骨碎身する、先づ正邪の判定を下して邪は之れを論し正は難澁千萬と雖も敢然と邁進するのだ、で、法律事務にして君の一諾を得たならば安堵將に放置するも必ず捷報に接する事が出来る、法廷に於ても尙よくデット構へて重々しい辯難主張を凝らし圓滑明快の一撃を加へるのである

☒……公的方面はザツト斯くの如く犯し難い男であるが明晰にして策縦横なる君でもグット寛いで酔ふては枕す何んこやらな乙な氣分に浸るのだ、飲めや歌への大發展も屈する所でない、然し其道ばかりは多藝でないから喧きを見入つて、それが享樂の髓の様に肯定して居る稚氣さである、然し酒粉酣にして彼れは南洋スマトラ踊りを仕上げる何んの事はない有り合せのもので一點の曇りなく底から遊ぶのだ

☒……君は寧ろ讀書子である、研鑽心に富むがまゝに群書を漁る、此の痛快男子も家庭に於ては圓滿な主人公として

和氣の源泉をなして居る、君は兵庫縣の人明治十七年生れ、長じて關西大學法律科を出て大正元年判檢事登用試験に合格し東京地方裁判所に在勤せしが同二年辯護士となり現に法律事務に従ふ、大正八年市會議員に當選今期再選す



刷新派
石原善三郎氏

⊠……多数派を向ふに廻はして論戰の第一線に起ち常に少数派の爲めに萬丈の氣焰を吐く者は石原善三郎君である、君は衆議院に於ける島田三郎老の如く市政界になくはならぬ能辯家である、島田の急速力あるに反し石原君は鈍重な速力を以て捲き立てるのである、然もそれが島田を凌駕するに足るべき能力であるから恐しいものだ、君が開口一番議席を離れたならば咳一咳論敵の美點を稱揚する、聽て霹靂一聲之れを難詰して自家特有の見解を建設するのである、此の點は多数派の猛者沼田君と何んの撰ぶ所が無い、而して一轉すれば沼田の直行的にして妥協的なるに比し彼れは圓曲的で投機的な非妥協なのだ、故に放つたら最後突くか折れるか將た埋まるかの極端まで進まぬば鳩まぬのであるから俗に石原の辯として當局並に反對派からは蛇蝎の如く嫌はれ且つ脅威の的となつて居るのである

⊠……殊に何かの問題を提けて公友、新生、刷新三派の少数派を代表する代表演説を試みるならば獨特なる論調に油をかけて開き直り乍ら火の如く烈しく論駁するのだ、而して一句は一句より激烈なる辣味を加へ來つて敵の本陣に肉迫する事に妙を得て居る、反對派としての面目にかけて君は飽迄も辯舌を熱して攻撃を續ける所は敵味方の差別なく私かに稱揚するのである、然も事案の如何なるものにせよ君は行くとして可ならざるはない、經濟論是なり政治論可なり法理論亦肯察に當るのだ、加ふに緩急自在な速度を有する力能は意の如く働いて明快痛切に反響を萬人に與へるのだ、此の所確かに討論家として先天的に恵まれて居るものがある、従つて君は市會にあつても守成の方よりは勿論攻撃的な辯舌家として且稀代の討論士として名を馳せて居るのである

⊠……大阪市政界には往年中井隼太君の如き大雄辯家が覇を唱へた事があつた、随分政客間には其鶴聲に憧憬し恍惚となつたものである、然るに君去つて暫し政客の寂寞を感じつゝある時石原君は茲に名を知られて來たのだ、中井の如く老獪自在な辯を揮ふ巧智は未だ石原君に求むべくもない、併し乍ら短刀直入にして列舉主義を以て切り捲る討論士は石原君をおいて中井に求め得られぬ所である、従つて一長一短の相違こそあれ事實政界に調歩する政客としては中井の後繼者が則ち石原君であるとも言へるのだ、尤も現在の市會には沼田あり渡邊あり山本あり廣瀬あり曰く何曰く誰れも枚舉に還なき程立派に一流を爲す政客の強ものが居る、而して各々犯すべからざる陣を構へ戰略を握つて居るが去りて石原の如く猪突一氣直ちに問題の要點に觸るゝと同時に相手かまはず毒舌を浴せたり、こぎ下したりする勇士は先づ無い、然も責任者が腦裡を痛く悩ますものは石原君である以上は如何しても中井の二代目たる資格を認めなければならぬ

⊠……君が賣り出したのは曩に大阪府會に於てある、辛辣な春秋の句調で難攻不落と稱された池松知事の本陣に一本調子な辯舌の槍をピタつけに擬してからである、故に偶々市政界に乗り出してからも必ずや其名槍の如き言句を聞け

る事ご期待されては居たのだ、然るに意外にも大正十年六月の出陣後約三ヶ月に亘つて只大電買収問題に一警句を吐いたのみで黙然たる事久しきに亘り豫想を裏切つて居たのである、萬人は殆き同様に石原君の眞意を凝視したが憂ふる勿れ市長選挙の大問題は眼前に展開されるご同時に彼れは則ち特有の火蓋を切つたのである、然も豫想外の鋭利さを以つて彼れは突き出すに至つた、君は池上君を眼前に据え乍ら老爺洵に拘すべき者である、古物を好む骨董家にのみ獨り愛翫せらるべき者である、此新時代ご新市勢とは憚り乍ら不向きであるから宜敷池上君は優退せよご喰つて蒐つたのだ之れを前提に其後彼れは市會毎に問題を捲き起し大向ふを酔倒させる様な熱舌を吐いて忽ち一流どころの闘士に成り済したのである

君は前身が大阪朝日新聞政治記者であるだけ政界の事情に通じて居る、従つて人心離合の機微を恐ろしい程穿つ人である、偶々志を政界に立てるや斷然記者生活を去つて大正四年府會議員の總改選に打つて出でマンマご當選し同八年再選の上府參事會員ごなり大正十年六月市會議員に選出された新進氣鋭の男だ、過去を序列すれば純粹の大阪人で明治二十一年生れ小中學を経て早稻田大學法科に學び明治四十三年卒業したのだ、公職以外は會社員を以て渡世する現に日の丸電線の事務取締役を勤め實業界に相當地歩を進めて居るが尙母校の爲めに早稻田大學評議員となつて陰乍ら捧身して居る

君は頗る正直一點張りで個人ごしては毒舌にも似ず愉快な氣分を持つて居る、殊に讀書に趣味を有する以外に尙且つ文藝や書畫に興味を有し時には自然の山野を獵渉する事を唯一の娛樂として居る人だ、君は自ら更に中央政界に雄飛せんと心がけて居るが君を知る多數の人々も是非代議士たらしめんごして居るのである



刷新派

岡本藤三郎氏

刷新派所屬ご言へば一種の皮肉屋の如く受け取れるが決して左様に解すべからざるものがある同派黨人は政界に於て少數黨なるが故に一粒選りに闘士ごなり力戰奮闘するので時には議論家ご唱へられ好舌家ご稱せらるゝのであるが實は立場上已むを得ぬ現象である、斯様にして同派の人々も悉く溫良な型にあるのであるが殊に岡本君の如きは珍らしい程溫厚にして寡黙な人だ、君が刷新派であるごは十中の八九まで否定し去るであらう、其柔にして順なるに見よ其中庸に坐し乍ら極端に走らざる建實さを見よ、若し夫れ君が嚴として所信を斷行し一人一黨主義に據つて激端に到る無き態度は味方の部内では勿論廣く新派會以下の反對黨人からも崇敬を受けて居る所である、

君の公明正大なる見解は既に黨派を超越し以てエイス、ノーの區別を専ら自己の所信の命する所より割り出し進んで市民の代表として尤も至當なる立場からスラ／＼ご吐き且つ行ふのである、であるから何づれの黨派に組するごも君に限つて所屬黨の指命に應じ無條件に盲従する事をし無い、モット明瞭に述べるご正は正、邪は邪ご明快に區別し更に情實の打算是ご試みぬご同時に亦黨派の偏頗な措置を探らず自在に贊成もすれば否定する事もある、純粹に曝け出せば君の肚裡には最早黨派の如き小障壁なきは無く只あるものは一個の自強のみで節制よろしければ最大に市民の意思に

伴ふ所の要諦である。嗚いて居るに相違無い、

君が大抵の事には風馬牛然として行く、其行く所は凡ゆる拘束を否定し所信一路整然とし、嘗つて亂れた事が無いのだ、偶々旗色を鮮明にして多數の反對に立つとも積極的に敵を論ずる事をし無い、退いて我行く途を守り犯すものあらば一叱するのみである、従つて其主張にして伴衆にはなくともサラ／＼君自身の自尊心を傷けられる様なものは無く光風齋月暗中に尙之れを認める風流議員である、一面から見ると餘りに消極の觀はあるが多面圓滿にして玲瓏玉の如き人格を發露する形相である事を人は餘りに氣づかぬでは無いか

君が斯くの如く濁世に處して超然たるの人格的陶冶は過去幾年かの賜物として結晶したのである、君は明治六年十一月和歌山縣和歌山市に生れてより幼年青年ともに其時代を嘗酸苦勞洵に勉めたものである、生家が紀州藩の末流だけに明治改新の時潮には尠からず途方に暮れ偶々刀劍を棄てるに及んで商に入るや士族の商ひと云ふ諺言に洩れず餘りに成功の域に達せなかつた、岡本君の生出してより數年間努力大ひに勉めた結果稍々産を増するに至つたがそれでも維新前の事情は大きに趣を異にする所から父君の思ふ存分に行かぬ恨みが介在した、

君は長ずるに連れ嚴父慈母の育成に感銘し早くより珍らしい程孝行兒となり且に勉め夕に慰め一家内中和平の神の如くなつて居たのである、而して其間小學を卒へ中學に學び獨習を怠らずして孜々勉學したが君思ひらく爾後の處世は須らく實業方面に走るべしと則ち君は意を決して將來せんとする鐵工に關する智識を究めたのである、

所見美事に當つて時代は急轉直下の勢ひを以て事業の勃發となり益々鐵工業の隆盛ならんとする氣運に面した茲に於て君は明治四十年自力を以て大ひに鐵工業を營み大正六年に至る迄凡ゆる天利を吸收して一舉實業界に成功名を印するに至つたのである、機を見るに敏なる君とて大正六年に至り再び將來を觀測し甚だ危惧の景氣ありとなし直ちに廢業した俄然不景氣來し共に鐵工業は大打撃を受けたのであつたが君のみ冷やかに慘風を笑つたのである、

君は要するに靜思熟慮の人、先天的に時代的觀察を遂げる才能がある、今や君は其抱擁する所の財力に據り好む所の初等教育の革新、公共團體の世話等に向つて極力盡瘁するに共に一方公人としては學務委員長、市會議員、衛生組合長、高野大師鐵道株式會社監査役、東亞自動車取締役を筆頭に四五會社の重役に現任し努力して居る、



刷新派

榑谷寅吉氏

大阪市會の南洲翁……それは榑谷君の別名である、君は便々たる其體格を以て當代市議中最も傑出せる快漢で肉體美の持主と羨望されて居る、其ネクタイは二人分、カラは二十一吋半足は十五文、衣服は一反半を要するに聞いたばかりで大概驚天するのに體量二十七貫と謂ふに至つては將に嘘の様な話、然も眞實だから仕方があるまい、何せ五尺六寸の長軀に肥滿と來て居るから誠に堂々たる風彩である、

其の榑谷君が議場にあつては侃々諤々の議論家である、聲量の豊富な而して矢繼早やの音吐は朗々と激して常に市會の異彩とされて居る、殊に同じ論客多き刷新系にあつても零細にして水も洩さぬ立論に於て甚だ重きを成すのみ

ならず反市長派の爲めに唯一の征矢を崇められるのである、其の通り君は急所を突くに妙を得て居る、而して攻勢は常に建設的な態度を持つて居る、

☒……警へば君が六十六頭の市議中で其專賣も謂はれる土木關係の案件に對しても得意の批判論評を加へ乍ら現在の下水道工事は斯くの如き方針で進まねばならぬと指摘し對案を示すのである、従つて何人にも雖も必ず傾聴する様になるのだ、始めは險惡な低氣壓と迄懸念される君の論法は最後に大風一過ものみな靜なりで巍然たる面影を貽するのである

☒……君は亦頭腦の計數的方面に發達して居る事に於て優秀である、苟くも主張すべくんば將來に残るものであるから精確にして明細を期せねばならぬは君が平常持論とする所である、従つて如何なる場合にも必ず腹案を凝し而して後眞劍な突進を試みるのだ、此處が未だ會つて擧げ足を捉へられる様な屁間を見ない最大原因である、其謂ふや滔々盡きず随分惡まれ口を叩くのだが左して惡感情を抱かしめぬ、愛嬌タップリな童顔の徳でもあらうが多く隱徳の爲めだ、

☒……君は熱誠火の如き快男子であり俠氣に富む壯漢である、縁も由緒も無い眞赤な他人でも、それが悲歎の聲を聞いては豆の様な涙を落し乍ら我が事の様を揉むのだ、而して理も非も問ふの暇は無い、人の爲めに憤然起つて之れを救はずんば夜も日も明けぬと謂ふ調子である、有名な六反池の首無し事件に彼れは私財を抛つて晝夜二日間池の水を干して犯罪の證據物件を官權に提供し感謝状を授つたのである、

☒……近隣の人々は我が同胞として出來得る限り世話をして行く、小供等は九條のお父さんと呼んで彼れに親んで居る、青年達は實の兄弟の如く慕つて居る、况んや友人知己に禮厚く力盡しをする事は甚だ深いのである、斯うして周圍に及ぼす隱徳は次第に榎谷君の社會的信望を高くするのだが君自身には天職位ひに思つて居るばかりだ、而して其一族郎黨を率ゐる家業に精勵して居る、

☒……俺れは市民の爲めに眞摯力を盡す爲めに名譽職に爲つたのである、故に市民の爲めなら水火を厭はず命を棄て

るに固く決心して居る人だ、彼れは此の主義の下に邁進して居る、若し夫れ市民の爲めに出るならば將來衆議員にでも成り兼ねまじき勢ひである、又其可能性を具有して居る、彼れの肉弾的な政見は稍々もすれば輕薄ならんとする政界黨人に一吹の清涼劑を與へるものだ

☒……君は大阪の人明治十一年九條に生れ乃父清吉氏の俠血を繼いで土木業に従事し奮勵刻苦の末今は巨財を擁して居る、其昔九島と稱する頃から公共事業に盡した家柄で九條開墾には實に恩惠深きものがある、君の幼少には剛健不拔な乃父の意に従ひ荐りに體育を練つた、先づ擊劍は某大尉に角力は大阪角力前取締役時津風の指導により東西幕下力士糞喰への力量であつた、然し今は專念禪味を學んで居る、



刷新派

小林 緑氏

☒……滔々たる勢ひに倚頼して自己を滅する者は不幸である一拳天を衝いて空漠史に答へずも夫れ大丈夫は須く他力本願を棄て、身力の及ぶ限り健闘力行すべきであらうとは會つては新濠會に屬した小林君が驕然として刷新派に好

意を投じた時の棄言であつた、而して時は大阪市政界に煮切り返る様な渦巻の起つた大正十年早秋、池上市長を三選すべきや否やの問題が甚だしく討論され政客等の權謀術数が盛んに廻らされつゝあつた時、君も亦絶對多數黨の一員として介在したのである、従つて比較的一流の結束と云ふ字に支配さるべき目標を看做され敢て反撥するが如き分子で無いに信じられて居たのである、故に選舉形勢の推移するに連れて所謂幹部の指揮を威令は漸く加へられる始末であつた、然るに俄然君は當選以來熟考し來つた多數黨員の可否に就いて一大英斷を下すに至つたのである、

君は當時選舉關係の絆を離れて議員たる者の眞實の意義を鮮明すべく心掛けたのである、而して遠く中央政界に行はれつゝある多數黨の積弊から推し來つて地方政界將た亦自治行政上の貫際に引照し必ずしも數の争ひが最終の方法で無い、孤立無援と雖も今日此際魔酔したる政界に一警石を投ずるのが自己の執るべき途であると斷定し去つたのである、勿論君は定評ある學者肌の男であるから良心的發動によつて勇敢なる行動を斷行するのは珍らしく無いのであるが斯くすれば斯くなるものと思ひつゝ、止むに止まれぬ大和魂と云つた様な氣分を體驗する事は只單に學者だからと葬つて終ふべきものであるまい、偶々大學者にしても大勢順應を慮つて時に正義正道の爲めに不忠實なこともある、自己の内心に叛いて行く事もあるのである、畢竟純正理論に身を委ね良心の命する所に勇往邁進するの原動力は其人自身の強固な意思に求めねばならぬ、従つて小林君の如く四面楚歌の聲激しき中にあつて敢然思ふ所に強行するは容易の業であるまい、

然り君は政界に於ける世評が或は灰色と言ひ、或は變節を稱ひ或は同志を讚美する、こも敢て喜怒の妄念に犯され無い意思の人である、獨り政客としてのみでは無い個人としても裸體になつても苟も自己の命ある以上此の主義主張は威武權柄を加へるとも到底奪ふべからざるものである、兎に角君の最大特長は早抜した意力であるから其行ふ所も亦其潮流が洵に濃厚なのである、市會に於て君の立場は漸く苦手として論敵に警戒されて來た、則ち君一流の辯舌

が突發すれば多く駁論を浴せない云ふのが其歴然たる反證である、君の得意とする題目は何んと云つても政策上の問題で特に國際經濟及多年大阪高商講師として多數の學徒に接し來た經驗の上から招來し得た教育策にある様だ、主角多き立論は容易に反對論者に乘すべき機會を與へるのであるが併しそれは所謂戰畧上の陥穽であるから減多に突き込む譯けに行かぬのだ、

若し夫れ此の陥穽に落ちたらサア大變である、眞綿で首を括る様な論法でソロ／＼と攻撃の矢を放つのだ、それが一齊射撃に等しく必ず腑肺を貫くから所詮は敗北の憂目に遭ふより外仕方が無いのである、従つて次第に君の論陣が知られるにつれ誰しも警戒をする様になつた譯けだ、今六十餘人の市議を以てするも恐らく君の對手となつて論陣を敷く者は無いであらう、尤も君の論法からすれば巧妙であるだけ警遠されて行く不得策な點もある、其主角多く事毎に人の内面的弱點を洗つて終ふ様な所は却つて皮肉な反感を購ふ原因となる、併し君は百も承知で居り乍ら其處まで追及せねば虫が納まらぬ調子なのであるから左して咎める必要もあるまい、

君は曾つて大阪朝日紙の經濟部客員として無聲有名の筆を揮ひ外國爲替の一大權威として其のエキヂステンスを認められ實際的教育者として聲名を擧げたのである、其過去を吉例によつて叙述すれば明治十一年生れの靜岡縣人、明治三十一年東京高等商業學校を卒業し大正三年以降大阪高等商業學校講師となり尙囑託されて神戸高等商業學校講師として子弟教育に従事し大正十年六月理想選舉を標榜して北區より選出され徒手空拳以て市政界に乗り出したのである故に學系から言へば市の第一助役關博士とは同窓の後輩として淺からぬ關係あり且つ同郷人の好みがある譯けで將來も囑望されて居るのである



刷新派
森川俊治氏

⊠……大阪市政界の刷新派は勿論主義綱領として種々の理想はあるが綜合すれば所謂タマニ派の専横と迷官とを打開せんとするものである、従つて所屬議員も大部分は比較的財界に縁の薄い方であるが併し乍ら必ずしも左様な譯けではない現在にあつても榎谷、岡本、石原を筆頭として七黨員は皆夫々、金權の實力を有つて居るから敢て資産階級を呪する政治的結社ではない、彼等が主張する通り則ち市政界の政治的偏頗る矯めんが爲めに政見を刷新てふ看板に置いたものである、殊に此森川君の如きは其一族郎黨を提けて地主階級の人で豫選派なり新派系統なりタマニ派に参加すべきが甚だ自然である、然るに君は敢て人の豫想を裏切つて不自然さへ稱へらるゝ刷新派に投じて居るのだ抑も曰く因縁がなければならぬ、

⊠……君は元來樂觀主義で些事に顧慮せぬ男だ、異常な恒産を背景として何處もなく裕々たる餘裕が綽々としてあるのである、従つて別段眉を擧め牙を剥いて叱咤論戰の前線に立つ様な人とは誰あつて豫想しないのであるが其實侃諤の士として將た亦論舌家として常に少數派の部將として一般に認められる様になつた、先づ君の説から申せばタマニたらざる所以は情實政治を打破する爲めで市民一部の輿論に忠節ならんことをするからだ、又樂觀主義は心身を養ふ自己衛生

である、侃諤喧囂にするのは我れをして已むなく熱せしむる原因があつて他動的だから説方ないと言つて居る、君は而して自家の特長を運賦天賦だ稱するのであるが、然し人間は自主的精神を保持し能力の作用を有つて居る以上周圍や衝動が如何様であつても自ら動き自ら信奉するにあらざればヨモヤ機械的にばかり動くものであるまい、森川君が如何に傀儡さるゝ如く装ふも雖も君が心底に是なりと確信せざる限り遽かに刷新軍に投ずる筈がないのだ、

⊠……宜なり君は熱の人である、而して正鵠の前に斷じて情實を排する人だ、恰も嚴格氷の如き判官の氣風を具へて居る、一旦市政界に事ありしして批判熱慮の末不可なりとの斷定を自ら納得すれば最早何等の顧慮もないのだ、其熱辯を揮つて鋭鋒メスの如き切れ味見をせつける、而して理想的に攻撃の矢を放つのである、然も彼れは當に熱の人であるのみならず又策劃の士で多岐多様な政界の傾向に察し趨勢に稽へて臨機應變の妙策を編み出すのである、則ち時の利用に一頭地を抜いて居る、熱舌を以て政敵の正面攻撃を行ふと同時に側面と背面は意氣で脅威するのだソコは森川君獨特の技倆で餘韻を引かせる所に味がある、これは適諛な時期を捉へて臨機所説を伸張縮小するから敢て水際立つて美事に仕上げらるゝものである、

⊠……彼れは大正六年選出の市會議員で古顔の方であるが實の所過去四ケ年はグツと怵へて默念居士を氣取つたのである、それで君の眞價を知らぬ多くの人は無言の方面のみを觀て政客たるには未だ修養を要さか何んぞか評したものだ併し乍ら當時市政界の傾向が悉く多數に而して潜行の方法に因つてのみ實力を云爲された有様を見て靜かに積弊打破の方策を考へて居た迄である、四ケ年の沈黙は頗る長い、併し乍ら何か將た何時か政界の矯正を企圖する者があるのを心密かに俟つた日時である、胸中深く藏す所あつて此長日月をグツと我慢し片言も出しや張らぬ事は實際六ケ敷いものである、世間の多くは知りもせぬ駄ボラ迄吹き立て、ケガの功名をも拾はんとする世の中である、それに君は一向射功心なく世評に迷はず切り抜けたのであるから一寸眞似の出来ない意思を有つ人でなければならぬ、

⊠……果たせるかな森川君は大正十年再選され市會に出るや前任時代の題目をサラリと脱いで積極主義を執るに至つた討論もする攻撃もする批判もすれば追撃もやる、而して忽ち議論家揃ひの刷新派にあつて堂々たる闘士になり済んだのだ、之れを比喻すれば佛様が閻魔様になつた様なものである、彼れは大坂の人明治十七年生れ明治四十一年早稲田大學政治經濟科を卒業して一時大阪府下東成郡役所の書記を勉めて居たが臥龍逢に池中に收まらず間もなく大阪時事新報の經濟記者となり前後三ヶ年間鳴らしたものである、後去つて自宅にあつたが偶々大正六年の市會改選に遭遇し素志止み難く出馬して當選し市學務委員に選ばれ力を市政に致したが大正十年五月市議總選舉に再選して今日に至つたのである、

⊠……元來君は王陽明に私淑し先年物故した鴻儒岡村閑翁の膝下に十數年親しく薰陶を受けた致良知主義者で今の財團法人洗心洞文庫の前身時代からの加盟者である憊んな固い半面に君は又考古學殊に古墳研究に言ふ道樂がある前年露國で客死した理學博士坪井正五郎氏の尻について古墳發掘に憂身を窶し偶には抜け驅けを行き諸陵寮京都出張所あたりからお眼玉の数も可なり澤山頂戴して居る中にも河内津堂の日本一の大石棺、和泉大仙陵畔の前代未聞の大曲玉等一時學界を震撼させた大發掘は蓋し君が道樂中生涯の大記念であらう君は又之れに關連して探墓道樂に言ふのがある大阪に於ける先賢古哲の墳墓の探索其の數何百を以て數へ今や河内、和泉方面に手を伸して居り近く機を見て大阪名家墓所記の出版を希望して居る

刷新派

小林唯次郎氏

⊠……刷新派に在つて孤軍奮闘する者は固より一粒選りの論客であるが多くは其立場から来る必然的結果として常に武装して居る状態である、従つて容易に接近する能はざる傾向がある、然るに小林君に至つては真正正銘の刷新派に相違ないのだが而して人一倍反對氣焰に惡口を叩くのであるが六十餘頭の議員中誰れ一人眞實の敵となつて卑下する者なき有徳な男である、一口に言へば惡口叩いて愛嬌ありと受け取られる人である、譬へば四角四面な理屈を述べて然るが故に明察なき徒と謂はねばならぬなきと攻撃しても相手方は小林さんの攻撃ならば別段逆襲するのを見合せて置かうと諾させるのだ、ツマリ君にはそれだけ親まれる徳望を具へて居るのである、

⊠……君は窮窮極まる刷新流の型に筈らない、自在な所信を自由な觀察とを以て直感其まゝを遠慮會釋なく述べ立て壇上に一花咲かせるのが吉例になつて居る、殊に其本業醫術に關係する衛生や社會施設に就きては自己の畑は言へ有力な識見を披瀝し叙述するのである、而して只夫れ理想を語る様な浮薄なもので無い、理事者の案に對案を附し兩者の細詳なる論評を加へた後其主張を強張するのだ、従つて當局の強敵であつて更に益友である、殊には問題の骨子に向つて眞な研劔鑽を重ねて居る爲め識見八方に豊富で一種の材料諮問機關としても甚だ期待される人である、

☒……君の論議は概して放膽である、克く概括的に引き括つて微細な喧嘩を賣らぬ代りに痛い所で頸筋を捻ねるのだ。茲に於てか最初は日本酒の如く味香が掬し易い、杯を重ねるに連れて漸く刺戟を増し遂には酔ひ倒される様なものだ。之れを西洋酒に比すれば口當りがよいだけに効能が著しく相手は痛い目に出遇ふ事である、微突洩した上句に彼れは口癖の如く必ず少しは目醒めて本員の云ふ事を聞くがよいと出る、抑もこれが獨特な武器である、其の云ふや頗る謹直な態度で述べるのであるが慈父の愛兒を嬌める云つた様な氣分が流れて來るのだ所で今の今迄反駁論に事寄せ手荒く襲撃して遣らうと覺悟を極めた連中も忽ち鹽を浴びた蝸牛の如くトロけて終ふのだ、

☒……従つて小林君の爲めには絶對の安全辯であり論敵には難攻不落の堅城廓となるのだ、當の本人は一向そんな事は顧みない、只一路主義の爲めに殉ぜんとして募進するのである、熱誠にして温良篤行にして眞摯なる君の誠意には何處云つて一點の濁斑がない、透明至純な心に因つて是非を判別して行く所に偉大なる價値を伴ひ小林君特有の徳望が集まるのである、であるから飾りなき主張それは卒直なる是非の見解を述べる時人間味を加へた悪口もあり攻撃も加味されるが併し乍ら一轉して眞絃の囁き即ち最後の論結を下すや百鬼忽ち去つて明月のみ中空に浮ぶ快感が油然而して起すのである……此の所恰も俗語の……叩かれ乍らも其手に縋り主の短氣に乃公迷ふたさか何んさか云ふのだらう兎に角君は果報持ちである、

☒……君は岡山縣の人、醫業に志を立て、終始し早くより西大阪の地に根據を構へて公的事业に貢献したのである、過去數十年一日の如く地方開發に一身を捧げ更に仁術を以て生死の境に迷ふ可憐の人士を救恤するを尤も趣味ある事として居る、目下築港青年團の團長に擧げられ警察囑託醫として雄視して居るが大正十年六月衆望の推すに委せて市會議員となつたのである、

第五節 中正會

中正會は大正十年十月池上氏市長三選當時新落會より分離した黨派で山本藤助氏を黨首に擁し同氏と事業關係に將た亦私交に厚き議員が傘下に馳せ集り新落會幹部の專斷を避けんと企て、組織されたものである、其主義政綱は新落會と同様であるが尙今後の形勢に顧みて第三黨たる有利の立場を獲得すべく努力しつゝあるは事實である、同會所屬の議員は左の如し

△南區選出

山本藤助、井澤清兵衛、

△西區選出

仙波哲夫

△東區選出

小島逸平、田中讓、上村重助

(附記月旦)



中正會

山本藤助氏

☒……現在の山本君は既に公私共に著名であつて今更喋々の餘地が無い、其の無限なる財力を握り縦横の機智に因つ

各方面に雄飛するさまは實に鮮やかなものである君は衆議院議員、市會議員、商業會議所議員、大阪鐵商同業組合長、渥美青年團長、渥美軍人後援會長、帝塚山學院理事長、大阪貿易學校幹事の外二十餘の會社重役として公的要位を占めて居る

⊠……衆議院に於ける君は庚申俱樂部の幹部で上田彌兵衛、上島益三郎、森下肇太郎の諸士と關西派の重鎮となつて居る而して又實業家代表議員として重視され大政黨の陣笠は自ら撰を異にして居るものである

⊠……大阪市會に於けるや曩に新濠會に隸屬せしも其の幹部の態度處置に嫌たらず脱退を企圖せしが偶ま池上市長三選問題起り其の機に於て突嗟五名の同志を糾合し新濠會を脱し決然嚴正中立を標榜する中正會を組織し而して現に其の旗頭に擬せられて居るのであるが其の潜勢力に於ては尙僅に六名の同志に止まらんや共鳴の同志は竊かに十數名に及んで居るから將來の活躍刮目に價するものがある

⊠……君の實業界に於けるや恰も財界の寧馨兒たるの觀がある其の本業とする海運業には歐洲戰亂の當時から夙に實堅固の陣を張つて千萬金の流入を夢想せずも一進一退悉く定規に適つて收果益多きを加へたのである斯るが故に一度財界破綻の悲風襲來するや夥多破産倒産者を出し不況に呻吟するに拘らず君は超然之に動せぬは蓋し同業者中先覺者の一人として好評を博した所以である

⊠……君を公的方面に觀察する時は夥多の公職を以て之を表示する事が出来る殊に教育に於て熱心なる貢獻者である先年郷里鳥取に於て高等農林學校設置の議起り時の知事百方盡力したるも其の財政に於て設置の不可能なるを悲觀困難したる際君は私財十萬金を投じ且つ他に寄附金を勸誘し同校設立に腐心盡力の結果遂に開設し現に同校の盛況を見るは全く君の力なりといふも過言ならず信せず又大阪大學病院、陸軍管行社、大阪貿易語學校等に多額の寄附をなして之を援助し其の他公共事業に後援したる事故擧に遑あらず現に帝塚山學院には其の創設より非常なる努力を以て人の多

く知らしめ裡に多額の私財を投じ建設整備に腐心し目下同院理事長として献身的に盡碎し私學の理想實現に努めて居る

⊠……凡そ富豪と稱する人には多少の批難が湧く君の隆盛比なき現在に對しても兎角の批評を試みる向もあるが山本君自身は至つて淡泊な好紳士で別段富の障壁を繞らして人情を否定し去る様な舊式な人では無い彼れは私的生活に於ては君の經歷を標榜したる圓滿の唱導者である

⊠……君は謂ふ「何すれぞ財を惜まん只其の浪費を嫌ふに過ぎぬ」を斯くて理義明かな處には思ふ存分財力を絶倫な精力を投するのである君の現在に親譲りの坊ちやん育ちで架空な處世から築き上げたものでない苦汗試練の粒々が遂に今日の榮譽を博したのであるから尋常一様の富豪は自ら譯が違ふのである



中正會
田中讓氏

⊠……田中君は中正會に所屬する市會議員である、少數ではあるが併し乍らキャスティングボートたる位置を占める同會は謂ふ迄も無く慎重の上にも尙慎重な態度で黨の面目を維持して行かねばならぬ従つて其黨員たる誰れ彼れの差別な

く頗る重要な立場にあるのである、然るに大正十年末新澤會ミ云ふ選舉母體を去つて茲に純然たる獨立黨となつて以來
洵に中正會の名稱に恥しからぬ行路を辿つて居る事は之れ萬人等しく稱讃する所である、と云つて必ずしも會其ものが
勝手の成行から今日あるのでは勿論無い筈だ、何人か策士たり參謀こなつて音頭を取るに非ずんば不可能な事である、
田中君は實に其會を浮ばせる中心勢力の一人である、同僚小島君ミ相呼應して荐りに政界を力漕し漸く其目的を遂げ中
正會をして意義ある黨に仕上げたのである、

☒……彼れは市政界の古參でも老將でも無い、始めて乗り出した新參であり一卒に過ぎ無い、然も新澤會に屬して純
然たる一陣笠となつて以來鳴かず飛ばす超然其地位に甘んじて居たが内心の叫びは時に黙し難く豐饒な抱負に事よせて
聽客同僚を煙に巻いたものである、偶々山本藤助君等が中正會と名乗つて同志ミ共に一旗擧げんミするに際し彼れは食
指大ひに動いた、然し深慮に耽ける田中君は只單に參加はし無かつた、先づ其主義ミ主張との要點を訊し將來の計を聽
取し乍ら未だ動かぬ、而して策士の飛來ミ其懇懇を待つて茲に自己の意を開陳し折衝終つて忽ちに入會する事ミなつた
其巧妙にして理智的な去就に至つては蓋し老功古參の政客が撰擇する以上な素晴らしいものであつた、

☒……然も田中君ミは市政界に處女航海を試みて居る人である、然るにも拘らず皮切りの幕に於て既に老熟し切つた
手腕を揮つたのである、従つて彼れには奥底の知れ無い實力ある事が一般から推斷されて居るのだ、政界ミを始めて
あるが彼れは實際海千山千の老練家である、人情推移の情況位ひは且に夕べに親しく接する所である、如何に老獪至極
な代物でも彼れには左まで痛痒を感ずる所では無い當意即妙自由自在に思索を練つて忽ち其裏をかいて行くのだ、故に
政界多端と雖も畢竟するに人心離合の範圍に過ぎ無いから只瞬間の應用を凝らせば萬事成る譯けである、田中君が順調
に帆を上げて離合集散甚だ妙に市政界に竿さして行くのには斯うした理由があるのである、

☒……君は一流の手腕を揮つて最近押しも押されぬ最力な議員となつた、而して獨特な統率力は事毎に冴えて委

員會ある度に推されて委員長となるのが常である、尤も中正會では無くて無らぬ立物ミして代表的の會合には必ず委員
に選出するのであるから従つて各派でも之れを重視する爲めであらうが實際の力に因つて認識された結果に待つ事然り
である、君は平常敢て弄言を試みない、只案件の重要なものに至つては懸命となつて珍らしい雄辯を揮ふのだ……殊に
都市計畫土木事業方面に論陣を敷いては本職であるだけ理事者連の大敵となるのだ

☒……君は過去に於て六ヶ敷い官僚畑に育つたのである、而も厳格な農商務省の官吏ミして可成り長い間其氣分を呼
吸したのである、因つて官僚染みた堅苦しい素質を持つて居るのが當り前であるが君には爪垢程も其臭い所が見當らぬ
寧ろ純然たる勇み肌的な氣分で充實されて居る、而してドコミも無く量の大きな風が発見されるのだ、つまり人を抱擁
する點に彼れ一流の力が生ずるのである、今後君の政界に印するものは蓋し容易に逆嗜する事が出来ない、併し將來の
計に熱心な君の事である、一黨一派の謀將として何時までも満足する人であるまい、機を捉へて時に盟主となりて政界
に横行し非凡の手腕を揮ふであらうし或は中央政界に乗り出して岡崎肌の雰圍を作るであらう、兎に角現在何事にも研
究的な其態度は必ず爲すあるものとして注目されて居る、

☒……君は和歌山縣の人明治八年生れ順次學業を履んで明治三十六年農商務省一官吏ミなり居る事數年折柄業を土木
建築に従ふ實兄松村雄吉氏の招聘に仍り入りて總支配人ミなり大正九年亡兄の後を承け株式會社松村組の社長ミし、現
に山陰信託會社長、高木銀行取締役、日本土木建築請負業者聯合會理事を始め其他會社の重役に擧げられ大正十年六月
市會議員に當選し公私共に重要人物ミして存在するのだ、個人たる君に接するミ眞に快活な男である、



中正會

仙波哲夫氏

◇……仙波君の市政界に於ける所屬は中正會である、其中正會員たるの徑路には大なる曲折があつただけそれだけ味ふべき點を有つて居る、君が抑も議員生活に入るや公人としての凡ゆる堅忍を標語とし先輩の指導を尊重しつゝ、私かに雄飛の期を俟つたのである、然るに偶々新滬會が是々非々主義の下に市政研究の申合せを以て生れたので君は其穩健な行動と目的の共鳴する點ありし則ち同會員となつた、而し時に雄志燃ゆるが如きものありしも靜かに自制的の轡を籍め乍ら一陣笠の夢の跡を辿つたのである、

◇……然し乍ら錐の袋中にあるや遂に現はれざる道理が無い、君の自重の精神と抑制力の反映は次第に會員同僚の間に薰郁するものがあつた、黙々として多くを言はざる裡に周圍は君を推して幹部格とし尙進んで謀將と敬稱するに至つた、君は之れを却つて辭退し、憂しとしつゝ相變らず陣笠の紐を解かうさもしない、が然し君自身の考へでは寧ろ牛尾たらずんば鶏頭たれの覺悟だけは如何なる場合にも棄てるのを好まぬ事は事實である、果せる哉偶々池上市長三選即決の議が新滬會内に行はるゝや君は憤然として純理を説き騒起したのである、

◇……君は則ち池上君の市長たるは双手を舉げて賛同するが即決は何事ぞ苟くも事は大阪市民全般の重大案件であ

る、慎重審議以て一應の順序を履み而して全員一致之れを推選するが順ではないか、殊に况んや我亦新滬會員である、然るに何等意見の聴取をせず幹部專斷の下に決定せんとするを不可解である、猛然其反省を促すに至つた、而して君は銓衡委員會説を持し強硬に自説を振り翳し健闘したが武運拙なく少數で説が敗れた結果茲に主義に活きんとする爲めに新滬會を去り新たに山本藤助氏等と結びて中正會を組織したのである、

◇……斯くて大正十年十月一派を成すに至り全く自由な天地に自己を見出した、従つて若し君が招かば行かん尾花であつたならば其説と全く一致する刷新系の主張に共鳴し好んで新滬會の一敵國となり濟したであらう、然も事實は黑白の差異がある、君は自由の圈内にあり乍ら武士の情けを守つたのだ、新滬會を去り乍ら尙且つ其欲する所の池上君を市長に推すべく陰ながら一肌ぬいだのである、敢て刷新系統の誘致を斷然切り拂つた、此の間或は戀々たりさか又は薄志とかの嘲罵を平氣で甘受した、而して心底尙も委員會設置の下に池上推選を烙印して居たのみである、

◇……俄然君は市長選舉場裡に於て所信を演説した曰く、我等中正會は主義の下に活きんとして結束したのである、他の誘惑に赴むかんが爲めで無い、苟くも自由意思の發動に基く主義は百難を犯すも突破する筈である其主義は池上君を聲援するに在るに聲明した、君の開口は之れ當初に見る所であるのに洵に堂々批難の餘地なき名論であつた故に敵は其牢固不拔な點に恐怖し味方は感激した、同時に仙波君の名聲は忽ち市政界に鳴り響いたのである、

◇……以上は只市會に於ける君の公人生活の一片に過ぎ無い其社會的存立の地位に座する君は大膽にして放剛然も犀細の點まで呑み込み乍ら理義の爲めには一籌も譲らぬ男である、曾つては關係社會の隆盛時に誇る勿れの警句を與へて不景氣來に遺憾なき準備を計り立人筋をアツミ言はせた事もある、之れと反對に悲運に陥らんとする會社の支柱となり一舉順調に引き返した例もある、要する所慧眼にして敏捷然も想定力に長けた實業界の偉物に相違ない、

◇……君は目下造船所及鐵山業を經營し更に東亞セメント會社日本鐵工會社等の重役を兼ね足を驥伸して三重セメン

ト會社の取締役専務の要位を占め孜孜として社業の發展に没頭して居る、其將來には求めずして代議士たるの榮冠が待つて居るのである、殊に明治十年生れの四十八歳即ち未だ五十の聲を聞かぬ壯年であるから其前途は蓋し益々羨望される所であらう、

☒……君は愛媛縣の産所謂四國男子で傳統的の意氣に活きる人である、他國人に對比して動々もすれば剛放粗野な點を有すべきに君には何處も言つて左様の點が無い、宜なる哉君人知れず書讀骨董に親しみ樂天俗外の氣分に心志を慰撫する好趣味を持つからである、最近硯石や斯物の鑑定頗る堂に入り北叟獨り笑む事珍らしくないを謂ふ



中 正 會

小島逸平氏

☒……會つては絶對多數を誇つた新濠會にあつて東區の幹部となり有形無形に雄視した小島君は偶々池上市長三選の選挙戦から意見の相違により遂に之れを脱會の上親友の同志、井澤清兵衛君等と提携し新黨中正會を組織して其謀將となつたのである、君の中正會に於けるや洵に核心とも謂ふべき位置にある、而して時には策謀を劃し他黨と折衝し時に

は正面攻撃の鬪將及び守將となつて居る、僅々六名の黨員を擁するのみで數の上からは到底市會の大勢を左右するに至らないが併し乍ら中正會は同志相結んで克く黑白兩派の中間に介存し絶對多數の決定的立場を逃さぬので大阪市政界では頗る重きを爲して居るのだ、其謀議は多く小島君が策する所であるから未だ創立間もなきに拘らず中正會の優勝的活動を具體化すると共にメッキリ君は男振りを上げて終つた、

☒小島君の特長は謂ふ迄も無く略策の妙である、其問題に對するや必ず自己の對案を編み出して終ふ、進むに従つて愈々事案の成行を看視し透視して茲に團體去就の機微を會得するのである、従つて君が中正會の優越的立場を創造するには萬難を排し自己を閑却しても獨特の策謀を以て之れを貫徹する、多少は先天的な理由もあるが當意即妙忽ち練つた方針を編み出すなきは要する所努力によつて得たる特技がある爲めと謂はねばなるまい、多くは策士策に斃るの笑止を暴露したり然らずば只策に終る傾向のある今日、小島君に至つては遂ぞ屈間な事を行つたのを耳にせぬ、これは君が只一片の有りふれた策士でない反證だ、同時にモット貫録のある所以を語るものであらう、

☒……宜なり君には一脈の辯能があり煮え返る様な熱が豊富にある、策縦横の裡にも弄策云ふものが無いので輕薄に流るゝ事なく何處かにデシンとした重みあり温みあるのだ、然も獻策に基いて活躍するもなれば最早何物の障りも阻止も恐れない堂々の論陣を張つて飽迄も突進する、得意な而して直裁簡明な論舌は大概強論敵も説き伏せるに充分である、會つて市がオリンピック大會の運動場創設に關し委員會に附議した事がある、當時小島君は討論終結の動議を提唱した、然るに新濠會の首領、鬪將連が之れに反對したので端なくも激論が湧いた、小島君は併し乍ら平氣なもの斷じて主張を枉げない、明快な批判を下して自説を死守した、結局妥協したものゝ君が論客としての定評は益々多きを加へたのである、

☒……市會に於ても漸次擡頭し來つて六十議員中屈指の士となつて居る、辯説の如きも聲量、音聲共に申分なく然も

切れるので聴衆に徹するのだ、勿論君は理論家か學者流の向きが無いから筋張つた論法を立て、雄辯を揮ふ事はせぬ所謂演説使ひの類で無い、卓を叩いたりダンスをする様な事は求められぬ、然し常識と経験と事理に徹する君は博聞強記な側面的武器によつて克く辯論争の間に處するので闘士闘將の一流を向ふに廻はす時でも敢て遜色がない、殊に君一流の下手に出て諄々と説き出す筆法に至つては却つて論敵をして精神的壓倒せんとする慨が見えるのである、ソレかあらんか君の將來は純然たる論客として大ひに囑望されて居る、尤も君自身の心中には折りを得て中央政界に一旗掲げる決心が漸次渦巻いて居るのは事實である、

☒……公人生活から見た小島君は畢竟するに誇々の士で常識に立脚し實際に照らして七面倒臭い條文を避けんとする男である、中正會の謀將とか闘士とかと述べてたてるに何んとなく薄氣味悪い四角強つた人の如く直感するが公人としての體面上已むを得る譯けである、其私人生活から君を見よ、能樂の木面ぢやないが公人云ふ衣を棄て商人として的小島君に立ち歸るに實に碎けた粹人である、能もやれば劇作も好み文藝、園藝共に言ふだけ野暮である、試みに趣好を問へば春は花夏は山水、秋紅葉冬は白雪富士が嶺を好しとある、然り春の花それは無生物の花であるが粹人の花には抑も二種類ある事を特に披露して置く……殊更生きた花なきは如何してナカク

☒……君は愛知縣の人明治六年十二月生れ同廿六年故郷を出て夙に大阪市に移住して營々商業に従事し綿糸の取引に成功して産を成し名を馳せたのである、大正七年一度商業會議所議員に選出され同十年再選専ら斯界の爲めに貢献したが一身に人望を蒐めて遂に大正十年六月市會議員に當選目下其職に忠勤し尙都市計畫委員として市の爲めに力を致して居る、



中正會

井澤清兵衛氏

☒……ゴム人形の内田外相に何處か生寫しの井澤君は内田君が中央政界に於ける人氣者と同様に大阪市政界の人氣を集めて居る、彼れは勿論型そのものが外相に似て居る所は少ない、一方はセ、ツション式であるのに井澤君の方稍面長で貴公子然たる所があり金ピカ眼鏡に苦味走つた表情をやる所などは憚り乍ら内田君の到底足許にも追いつけぬものだ此井澤君が荒くれ男の棲む政界に乗り出して然も散々新記録を致すのであるから恐らく何人も異様に感ぜざるを得ないのである、彼れは恰も事なき世界に風流を友とする外觀を有ち乍ら七面倒臭い大阪の實業界や政界に着々として覇業を試みんとはして居るのだ、

☒……市政界に於ては曩に新濠會に所屬して遙かに東區豫選派の餘勢を保持し暫くは花の上なる月見かなを極め込んだのである、而して新濠會にあつても當時市内を通じて比較的智識階級と富豪階級の根本地だ謂はれる東區の一部を提げて一方の重鎮となり幹部に列して居たのである、時に意に満たぬ事があつ起ても心を高宏幽遠の域に洗ひ調和の梶を執つて只管押して來たのであつた、従つて之れが客觀は要するに井澤君は一笈の陣笠か然らずんば政界第一歩の見習生位ひに考へられて居た、トロコが事實は背壤の差異である彼れの平凡航行は自己を滅せざる程度に於て團體意思の

圓滿な結末にあつた、多くの障害を廢して其之れが實現に進んで犠牲となつたのみである、彼れの主觀からすれば個性と面目とを傷けない範圍に於ける調和は是、その之れを越ゆるものは非であるから抑も非なるの秋は則ち自主的活躍を試みねばならぬ日であると左様に考へて來たのである、世上一切の毀譽褒貶なきは最早彼れの眼中にはなかつたのであるから面白いではないか

☒……彼れは而して大正十年七月から新濠會の一員として可もなく不可もなく同年九月迄棹さして來たのであつた、然るに時は恰も池上市長の選舉が市政界に投げ出され大なる渦を卷いたものである、新濠會の幹部では同會の成立素因の面目にかけても是非三選を期さねばならぬ時とはなつた、それで餘りに策を急ぎ過ぎたので東區に於ける會員には幹部を差し置いて疾風迅雷の如くに三選の決議を略式で取り極めた、此邊の理由は政界の事であるからモット雜多な問題であつて兎に角井澤君の面目玉が丸潰れたと云ふ秋に際會した、ソコで彼れは憶ふに池上三選には別段異議や考慮の必要がない、それを取り極めた新濠會の仕打はツマリ我が意を得たものであるから所詮は眠つて終ふべきものである、とは謂へ木像の如く右向け右ツ……左向け左ツで黙り込み人形の様に操つられては選良の面目を失する所以ぢやないか……黙すべきか將た亦起つべきか須く彼れは自問自答したのである、凡そ人間の上下は一大問題即ち大なる試練に出遭つた時に差別されるのである、而して井澤君は當時迄實は陣笠の一輩としか受け取られて居なかつた、従つて彼れ若し眞正眞銘の陣笠であり政界の木像であつたならば恐らく其儘事なきを得たのであらう、然るに彼れは左様に安値人士ではなかつた、

☒……熱慮數日彼れは私かに意を決して自由意思の尊重を是なりと斷定した、折柄山本藤助君を始め田中、小島、上村、仙波等の猛者連も起ちて此機會に別途の見解を持つべき小派を組織せんとしたので彼れは巧みに同志と提携し以て一黨派を成したのである、今日中正會と呼ぶ黨派は則ち君の屬する團體である、然し主義主張に於て固より中正の立場

を以て民意に伴はんとするものであるから必ずしも選舉母體であり會つては我母體であつた新濠會に楯つく様な趣旨ではない、殊に况んや隠れたる同會の四本柱の一人たる井澤君は極めて公正な態度にある男であるから斷じて裏切る様な事はせぬと看做されて居る、

☒……井澤君は則ち一に温厚篤實を尊び之れを處世上各方面に實用し調和を唯一の方嶽と深く信じて居る人である、獨り政界の新人を以て鳴るのみならず彼れは大阪實業界に鐵工商として雄視して居るのだ、其配下を我手足の如く使ひ勞ひ且つ活動を續ける所は畢竟温良の徳望が然らしめる爲めと稱へられて居る、君は大阪の人明治十三年生れ幼少の頃より實業界に一身を投じて左なきだにある財を殖産し初歩乍ら市政界に出づるや速かに一堅壘を築き上げたのである、此勢ひを以てすれば其將來も必ずや目覺しい活躍を試みる事であらう、



中正會

上村重助氏

☒……中正會に其人ありと唱へられ温厚童子の如く尊敬されつゝある上村君は何事も圓滿協調の精神から人との相争

ひ黨派の闘ひを勉めて回避せんとする君子肌の男である、中正會が其獨立を策した當時でも舊選舉團體なる豫選派に對し且つは母體たる新濠會に對して直接角突き合はす様な事を排斥し只々主義の相異か東區選出議員連の結束を示す措置として將來の發展策を慮り現在の和平を企圖した一人であつた、然も彼れは權謀術數を厭弄する常習的策士ではないから誠心を披瀝しつゝ、意義ある行路を歩まんとする熱情家である、従つて其一言は一行を生まねばならぬ云ふ責任觀を有つて動靜するので益々信頼を篤うして居るのである、君が議員六十餘名の間に處して甲にも乙にも黨派的偏見を超越し尙且つ眞摯の士と稱されて推稱されつゝあるのは甚だ故あるものであらう、

☒……四馴不及舌云ふ古訓があるが實際生半喰りの多舌仰舌は却つて男の價値を下げて終ふものだ、時に或は禍根ともなるであらう、男一匹が口を切るのは甚だ容易ならざる場合に限らねばならぬ東洋道德の根源も亦要するに節に適つて口を開く事にあるのであるが滔々たる世は多く此訓戒を等閑に附して居る傾向だ現代は須く男性本來の價値を磨くべきである……は曾つて君が某所に同志と共に會合の折柄下した鐵筋的斷案であつた、其の通り彼れは苟くも口を開く事に多大の注意を拂つて行く未だ容易に君が壇上に立つて市政界に波紋を起した事實を見られないが併し乍ら多く駁如瓶、意防如城の一句を實行するのが當面の重大問題であり之れに依つて市政審議の責務を盡すべきが至當である譯けだ、要するに市政發展の爲めには句々たる自家廣告や一條一脈の駁論なきを例々しく述べたものでない一刀兩斷非ならば之れを排し是ならば大ひに協賛すべしと謂ふのである、

☒……君は斯くの如く極めて淡白な男で調和力に富み且つ一定見を具有する逸材である、若し伯樂あつて君を拉すれば優に縱横な手腕を示す男である未だ不幸にして其時期を見ないが併し乍ら其將來は出で、益々囑望されて居る、現に中正會にあつて恰も浮草の根塊の如く意馬にも似たる隼人連の重鎮となり航路の安態を策劃し體現して行く處などは猥

りに人の習得出来ない鮮やかさを印刻する、而して凡ての主角と我執を綺麗サツパリ洗つて清濁併せて之れを容れ釋然として攝取作用を試み其是なる所に従つて行路を謬らぬ仕打に至つては蓋し政客多數の大阪市政界の珍物とも稱すべきものであらう、

☒……君は大阪の人で明治七年生れ早くより實業家となつて資産を築き後東區の有志に懇望され區會議員に舉がられ更に市學務委員の要職に就き大正十年六月の總改選に初陣の功名を樹て市會議員となつた人である、

第六節 實業俱樂部

實業俱樂部とは名詮自稱東區内選出議員にして實業家を網羅する社交的機關であつたが一度新濠會より池上市長三選に當つて決別するや純然たる政治的結社と變じたのである、主義政策は新濠會と同様で僅かに中立を名義上標榜して居る、同派は小西、谷、兩氏を中心に細谷氏を參謀に舉げて居るのであるが尙將來市政研究會と改稱し大ひに同志を集める傾向がある、

同派所屬員左の如し

伊藤喜十郎、小西儀助、谷始太郎、細谷辰藏、海老友次郎、

(附記月旦)



實業俱樂部

伊藤喜十郎氏

◇……工業所有權保護の國民經濟上一日も忽諾に附すべからざるは茲に歎々のなき要處にして、其實を舉げんには、單に法律の力を以てして追ふ可くもあらず、乃ち識者資本家の有利有益なる發明品を見るあらば直ちに進んで、これが發明者を保護し發明品の普及に援助すべく慇懃して初めて國家國民を裨益するの實を完ふすべきなり、

◇……我が伊藤喜十郎君夙にこの點につき深甚の注意を拂ひ、密にその足らざるを憂ふるの風あり、而して先年東京竹内氏に依つて完全なる耐火金庫を發明するや伊藤君直ちにこれに馳せて氏の發明品普及に努力し、劃策悉くその圖に中りしが、故に忽ちにして聲譽を揚げ爾來幾多のこれに類似せる發明あり雖ども到底竹内氏を凌駕する能はず、嶄然として斯界に頭角を現はすに至れり、是素より發明者竹内氏の苦楚慘憺が逐次その光を發するものありは言へ、抑も亦伊藤氏の拮据經營萬難を排せる勇猛心の果を結べるものあるに依らずんば焉ぞ克く今日あるを得んや、

◇……刻々を測られずして進軼しつゝある社會は、又必ず新しき需要を必要とすこれに承應せんとするもの常に陳を捨て、新に就かざるべからずとは伊藤君の信念なりされば竹内製金庫の外或は謄寫版に或はインキ消筆に内外の發明品を利用販賣してこれを満たす而已ならず市營電車の敷設以前より水の都としての大阪に川を利用すべき交通の便なきを



實業俱樂部

細谷辰藏氏

慨し、所謂巡航船會社を設け後これが社長となり日本勸業銀行發行の諸債券を購買するに月賦法を以てする便法を案出して日本債券會社を起し現に社運の隆々たるを傳ふるが如きいづれも同君の信念を俱現するもの謂はざる可からず

◇……大阪市會議員としては大正二年六月より以來の新選議員たるもその實業界に竭したるの功績も多年の修養による識見もは敢て求むるに至らずして議員間に重きをなし傾聴に値すべき言説をなすこと渺からず、同君の今息亦穎才曩に歐米に實業視察を遂げ歸來新智識を應用して一意家業を援くその家運の日と俱に榮へ行く眞に偶然ならずとせんや、

◇……東區選出市會議員中特に堂々たる風彩を有する人は細谷君なり鼻眼鏡を用るしめんか後藤新平男の血を分けたりも偽證するも知らぬ者は肯定する、

◇……君は兵庫縣津名郡山田村の産、明治十三年七月十八日生る、長じて山田小學校を學び補習教育を了し夙に國漢學の獨習を怠らず翫然實業家となる、學程を経て仕官を志したるも生家の關係は容易に初志を助成するに過せず父親の

要望に従ひて細谷家の養嗣子となり一切の野望を棄て、家業たる麵類製造に従事し養家の隆盛を援けたり、大阪に移住してより刻苦の勉勵を遂げ頼みに信用を博し取引を擴大する事に熱中し爲めに現在に於て斯業界には押されもせぬ地位を占有せり、

◇……本來豪放にして奇智に富み永く政治的生活を庶幾し専ら其機を俟ちたるが先づ東區會議員として大正四年初めて志を得爾來區政に盡瘁忘らず廣く交際を求めて自己開拓を忘れず偶々大正十年六月の市會議員總改選に逢着し好機に乗じて三級より出馬し當選したり、

□……市會の所屬は新濠會なりしも十年九月の池上市長三選問題惹起するに及びて同志五名と共に脱會し選舉後新たに實業俱樂部に屬せり、君其好む所の酒を喫すれば突撃的の談論を試み淡路島人特有の弊を發揮する事あるも好論家として稚氣憂すべきものあり敢て嫌ふに足らざるべし、



實業俱樂部

谷 始太郎氏

□……谷回春堂と謂ふならば蓋し全國に盛名を擅まゝにする樂居として何人も肯定する所である、谷君は則ち此の基礎を造つた藥劑界の第一人者であつて創造力に富んだ藥劑士として男を賣り出した人である、而して業成り名を遂げて其本業を一切長子に委せてから徐ろに政界に乗り出したのであるが信望夙に加はつて明治四十四年東區會議員に選舉されたのが政界に於ける第一歩である。

□……爾來奥深い人間味を一步步々印刻して大正三年には府會議員の補缺に當選してから四年再び出馬の上再選の榮冠を獲て直ちに府參事會員に擧げられ大阪府政の爲めに大小みな盡瘁したのである、而して大正八年八月出で、大阪市會議員選舉に立候補し一舉にして當選其儘府市兩政治に貢獻した、偶々十年六月總改選に當つては東區の二級から市會議員に推され隆々たる人望を擴ふて再び當選したのである

□……谷君の市會に於けるや當初豫選派に屬して市政の中樞人物となつて居た、十年の改選に當つて同派の耆宿甚だ凋落し再び同黨を持続し能はざるに至つて同志と共に新濠會を創設し同派の領袖株となつて東區の步調を左右したのであるが十年初秋池上市長三選問題の突發當時から大勢に鑑み然も機微を穿つて茲に袖を分ち小西、細谷、伊藤の各議員と共に別派實業俱樂部を創設したのである

□……君は則ち今同派の中堅人物で其謀將である、僅々君を合算しても四名の黨派ではあるが實を謂へば市會のキャスティング、ポートにも等しい肝心なる團體で多數黨を制肘し少數黨を制禦する地位に立つ姿である、従つて少數必ずしも侮るべからざるものがある、若し谷君の頭が横に打ち振るならば多數も絶對でなくなり横暴の無理押しが事實上出來得ぬ事なるのだ、

□……之れと同時に諾々肯定するならば少數黨も優勢な地歩を占めて抱負し經綸とを斷行する事が可能となるのだ、恰も譬へれば絶頂の白雪とも謂へる西すべきか東すべきか恐らく我が意のまに／＼何者の懸念も無く行動の自由を把握する、黨人の多少は勿論眼中に置く必要ない、只之れ公平と正當な隨意運動が勝手次第だ、然ら其影響は各點派の

尤も痛切に感ずる所なる、

君は此のデリゲートな黨派に總參謀長の格を以て優勢な勢力を占めて居る、局部的に謂へば殺活自在の鍵を持つて居る人であらう、従つて潜勢力も豫想外に強くそれで無くとも眞摯で果斷で調和的な好人格は常に深い敬慕の的となつて居るのだ、更に君の熱心奉公の精神に至つては自然に溢れ出で、甚だ盡きざるもの骨身惜まず貢献する事等は一束して賞讃の的であらう

君は前貴族院議員谷新助氏の後繼者として優に乃父の業績に光彩を伴へて行く人である、恐らく市政界の名聲更に一段の重みを加へて將來必ず中央政界に賣り出す可能性を有つて居るに斷ずるのは擔いだ話ではあるまい、君は純粹の大阪人元治元年三月生れ壯健益々辨じて腕を磨いて居る、



實業俱樂部

海老友次郎氏

……大阪市會で經濟通言はれる議員は二三にして止まらないが恐らく其達見も綜合的批判に精通するは先づ海老

君に指を折らねばならぬ、君は斯道にかけて殆ど獨歩の概がある、而して推理判斷洵に的確を以て識られて居るのだ、殊に株取引上の智能に至つては甚だ造詣深甚なものである、然も客觀主義の態度では無い、自ら斯の方面に飛躍して策術流れ裁理大ひにやる勇者である、

君は市會に於て黙々として容易に語らぬ人であるが大勢を擱んで要領よく案件を處理して異常な咀嚼をする、偶々問題紛糾すれば同志の眞只中に滔々流暢な高見を吐き出して恰も羅針盤の如く重きを爲すのだ、若し夫れ經濟論に到達すれば茲に始めて透徹奇想の論調を示し我無く人なく只眞に立論のみ進る感がある、而して筆を以て活路を啓け亦堂々たる名文を流すのである、

併し乍ら君は動もすれば壇上を嫌ふ癖があるから其眞の重味を多く知られ無い恨みを有つのだ、池上市長三選當時に溯つても確かに此の怨恨を止めた形跡がある、君は所屬新濠會を脱して小西儀助君等と共に専ら別黨派の樹立を策し以て刷新系を私かに操縦せん志し策劃荐りに勉めた爲め短時日によく新政黨を樹て當初の目的は達したものの、儲而闘將論客鎬を削る活舞臺に登場する豫猶なく笑つて看過したものだ、

……それで名を尊ぶ一部論者の間には君の實力を封じ去らんとさへされた、然し事實は全く小策を許さぬ所にあるのだ、君は主として混亂中の大勢を達觀して居た、故に紛々たる周圍の情勢に拘泥する迄もなく一意坦々之れ新黨の勢力を扶植したのである、其放膽な手腕は後日眞相を知る人々の仰望する所となつた、彼れは現に市政界の謀主となつてすかさず抱負を傾けて居る、而して多數黨人や少數派の差別なく將來恐るべき立役者として數へられて居るのだ、

……彼れは明治十年五月雪の北海道に生れて早くも克己精勵の葛藤史を印刷した男だ、則ち東都に出で、早稻田大學經濟科に學び卒業後一時讀賣新聞に立て籠つて遂筆を揮ひ去つて大阪市に來り先天的に興味を有つ取引市場に就いて深く研鑽を重ね、自ら株式通信業を開始して徐ろに素志を天下に披瀝したのである、此の業や尙未だ新聞界に例なき所

阿波堀通三丁目四四地	二	森本治三郎	新八二〇
江戸堀下通二丁目一五二	三	松井安右衛門	土一六三〇
靱南通三丁目一四地	四	市川藤兵衛	
本田町通三丁目六地	五	於勢佐兵衛	西長三六四 一九二〇
新町通四丁目二八三	六	加藤吉兵衛	新二〇四〇
靱下通二丁目四	七	古座谷武兵衛	土二二九三
阿波堀通四丁目一二地	八	國廣清右衛門	新町八四〇 八四一
北堀江通六丁目一八地	九	成尾卯助	新二七四〇
立賣堀北通六丁目七三	一〇	龜田權吉	新七八三
南堀江一番町一七地	一一	大住種五郎	櫻一〇三三
南堀江通一丁目二四地ノ甲	一二	那須善次郎	櫻八〇六
高砂町二丁目一地	一三		
南堀江上通三丁目一七〇	一四	赤松岩松	西一七九七
梅本町一八地	一五	山下善助	
江戸堀北通三丁目三八 三九合併地 一七	一六	岡本勝次郎	
江戸堀南通五丁目二八地	一八	河野豊治郎	土二二九八
立賣堀北通一丁目八地	一九	和田德之助	新二〇七七
新町通二丁目二二一	二〇	加藤文藏	新五二 三〇一九
		幾村幾三郎	

學務委員	選出別	氏名	電話番号
議員委員長	和	和田德之助	土二二九八
同	山	山下善助	
公民	津	津川安吉	新二二四
教員	東	東捨治郎	
商議員	選出別	氏名	電話番号
議員委員長	宇	宇野源三郎	西七七〇
同	森	森本治三郎	新八二〇
同	於	於勢佐兵衛	西長三六四 一九二〇
議員	古	古座谷武兵衛	土二二九三
同	那	那須善次郎	櫻八〇六
公民	津	津川安吉	新二二四
同	松	松尾平藏	土二〇三一 三四五〇

一聯合 土佐堀通一丁目 區會議員

(定員十四人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
江戸堀上通二丁目二五地	一	山口 郁三	土二六〇一
土佐堀通一丁目五地	二	永井 仙太郎	土二二三一
江戸堀北通一丁目二三地	三	下村 政七	土二二三〇
京町堀上通二丁目一〇地	四	加藤 兵二	土二二二六
江戸堀下通一丁目二四地	五	桑根 申二	土一九一一
京町堀通二丁目三三地	六	高尾 松三郎	土三四六三
江戸堀南通一丁目七地	七	濱田 榮藏	土三四八〇
土佐堀通二丁目一〇地	八	國本 來輔	土五七一
江戸堀下通二丁目一五三	九	德高 平右衛門	土五三一
江戸堀上通一丁目六地	一〇	中川 八兵衛	土二〇九四
江戸堀北通二丁目一〇地	一一	松本 一兵衛	土六四四
江戸堀南通二丁目一九三	一二	阪本 友美郎	土七一六
京町堀通一丁目一三三	一三	西川 清七	土八六
江戸堀北通二丁目三三	一四	江田 定吉	土二一九八

電話番號

二聯合 土佐堀通三丁目 區會議員

(定員十六人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
江戸堀南通三丁目二二地	一	久保 郁藏	土一一二九
土佐堀通四丁目八	二	武田 元助	土二六七九
京町堀通四丁目二地ノ三	三	金澤 仁作	土二〇〇六
江戸堀北通三丁目三八 三九合併地	四	河野 豐治郎	
京町堀通三丁目二四地	五	横田 莊一	
江戸堀北通五丁目二七地	六	久井 菊治郎	土二二二八
江戸堀南通五丁目一七地	七	井上 市次郎	土二二二八
京町堀上通五丁目四四地	八	酒井 猪太郎	土三四六
江戸堀南通四丁目一五地	九	植村 榮太郎	土三四六
土佐堀通五丁目二二地	一〇	土橋 平次郎	土一六八五
江戸堀下通五丁目四二地	一一	遠藤 武次郎	土二二八九
京町堀上通四丁目四三三	一二	岡田 徳三郎	土一九六七

電話番號

京町堀通五丁目八二地	一三	栗谷政一	土七三七一四
江戸堀北通四丁目六地	一四	新井榮吉	土五五三八六六
江戸堀下通四丁目三九地	一五	吉田安治	土一七二二一
	一六		
住	選出別	氏名	電話番号
京町堀通四丁目六地ノ一	公民委員長	林與市	土一七二六
江戸堀南通四丁目一五地	議員	植村榮太郎	土一六八五
京町堀通五丁目二八地	同	粟谷政一	土七三七一四
江戸堀尋常高等小學校長	教員	宮田仲三郎	

三聯合 區會議員 (定員十四人)

住	所	議席番號	氏名	電話番号
靱北通四丁目五地		一	宮垣山兵衛	土一九一八
靱南通五丁目七地		二	西成新衛右門	土四二三
靱南通三丁目一四地		三	副議長 市川藤兵衛	
靱南通二丁目一八地		四	議長 板倉清次郎	土三〇三

靱下通二丁目四	五	古座谷武兵衛	土二二九三
靱中通三丁目二六地	六	永田治郎兵衛	土一八二八
靱南通五丁目四地	七	泉仁三郎	土五三八
靱上通一丁目一〇一	八	八尾幸治郎	土一九四三
靱上通二丁目二七地	九	吉田又次郎	土六〇二
靱北通二丁目一五五	一〇	中野岩次郎	土六一六
靱南通四丁目六地	一一	藤井竹次郎	土一五二九
靱南通一丁目一三地ノ一	一二	小森多六	土二一六二
靱南通四丁目三地	一三	肥塚庄左衛門	土二二六〇
	一四		
住	選出別	氏名	電話番号
靱下通二丁目四	公民委員長	古座谷武兵衛	土二二九三
靱南通五丁目七地	議員	西成新右衛門	土四二三
靱尋常高等小學校長	教員	中山勘太郎	

四聯合 區會議員 (定員十六人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
阿波堀通一丁目一八	一	杉田宗一郎	新二七五一
阿波座中通一丁目二五七	二	松本益藏	新六一四
立賣堀北通二丁目二四地	三	伊東房吉	新三七九
阿波堀通三丁目四四地	四	森本治三郎	新八二〇
阿波座下通一丁目五〇地	五	井上嘉兵衛	新六八四
立賣堀北通一丁目八地	六	加藤文藏	新一〇七七
立賣堀北通三丁目二二	七	鎌田長七	新四七
阿波堀通二丁目一九地	八	吉田萬治	新五二三
阿波座上一丁目四	九	伊東忠兵衛	新五四三
阿波座上一丁目六地	一〇	井上利兵衛	新六七七
立賣堀北通三丁目九地ノ一	一一	安部藤助	新八八六
阿波座下通二丁目二五地	一二	稻本樽治郎	新四〇五
阿波座上一丁目六	一三	大藤庄兵衛	新二七〇
阿波座中通二丁目九地	一四	淺野喜助	新一二九五
阿波座一番町三四ノ二	一五	狩野伊兵衛	新一二〇二
阿波堀裏町六三	一六	新井久兵衛	新七七二

學 務 委 員

選出別 氏 名

電話番號

住 所	議員委員	氏 名	電話番號
立賣堀北通三丁目九地ノ一	議員委員長	安部藤助	新八八六
阿波座上一丁目四	同	伊東忠兵衛	新五四三
阿波座中通一丁目二五七	公民	松本益藏	新六一四
明治尋常高等小學校長	教員	土岐達	

五 聯 合 區 會 議 員 (定員十四人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
薩摩堀西ノ町七番地	一	益田信三郎	新八一七
立賣堀北通六丁目一八	二	恩地字三郎	新四八六
立賣堀北通五丁目八地	三	井上牛之助	新七〇三
立賣堀北通六丁目七四	四	龜田權吉	新七八三
立賣堀北通四丁目二	五	近藤喜祿	新四八八
薩摩堀東ノ町三〇	六	松名仁兵衛	新一三四四
薩摩堀北ノ町二三地	七	川畑清藏	新一二二八
薩摩堀南ノ町二三地	八	安藝清太郎	新一二七八
阿波堀通五丁目二九地	九	笹村竹造	新一四二
阿波座三番町二二地	一〇	木村卯兵衛	新三三五
江ノ子島西ノ町一五地	一一	副議長 楠堂正太郎	土二〇四

阿波堀通四丁目二地 一二 國廣清右衛門 新八四〇八四一
 薩摩堀裏町二九地 一三 森田與之助
 阿波座四番町一七 一四 池田榮三郎 新七〇五

學務委員

住 所
 立賣堀北通六丁目二八 選出別 氏 名 電話番號
 公民委員長 津田宗保 新二一〇一
 立賣堀北通六丁目一八 議員 恩地宇三郎 新四八六
 廣教尋常高等小學校長 教員 長井慶治

六聯合 立賣堀南通一丁目 區會議員 (定員十六人)

住 所
 新町通四丁目三二四 一 甲川卯兵衛 電話番號 新六一九
 西長堀北通三丁目一 二 濱口駒次郎 新二一〇五
 新町通二丁目五〇地 三 阿賀伊兵衛 新二一八八
 西長堀北通四丁目九〇 四 今西作太郎 新九九八
 新町通四丁目二地 五 市川芳之助 新二六一一
 新町通五丁目四二 六 三宅市藏 新九三八

議席番號

新町通四丁目四〇地 七 副議長 川井虎藏 新九二九
 立賣堀南通六丁目外二 八 高橋春一郎 新二一〇一
 立賣堀南通二丁目四四地 九 久我辰造 新三四一〇
 新町通二丁目二五地 一〇 安東茂次郎 新二五七九
 新町通三丁目二九地 一一 泉喜助 新四六六
 新町南通三丁目一三七 一二 武氏吉太郎 新三六八一
 新町南通五丁目六地ノ四 一三 小田昌智 新二四八五
 新町南通一丁目四五地 一四 奧西節三 新七四〇
 新町北通一丁目四五 一五 杉野民之助 新五〇八
 立賣堀南通一丁目一七地 一六 多田市次郎 新一九〇七

學務委員

住 所
 新町通二丁目五〇地 選出別 氏 名 電話番號
 議員委員長 阿賀伊兵衛 新二一八八
 新町通四丁目三二四 議員 甲川卯兵衛 新二六一九
 新町南通四丁目二六地 公民 中川秀春 新五七七
 西六尋常高等小學校長 教員 青木仁壽

七聯合 西長堀南通二丁目二十四ヶ町 區會議員

(定員十六人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
西長堀南通二丁目五地	一	岸本兼太郎	新二四七三
北堀江御池通二丁目二二地	二	高野幸助	新二二七〇
北堀江上通一丁目一〇〇	三	龜岡龜次郎	新二四四三
西長堀南通二丁目一七地	四	飯村儀助	新三一七七
西長堀南通四丁目八七	五	辰馬圭助	新三九六
北堀江一番町五四	六	水野彌兵衛	新一一五
北堀江通五丁目二五地	七	十合芳三郎	新九一九
北堀江三番町五地	八	濱田甚兵衛	新二二七六
北堀江通三丁目一二地	九	三宅喜兵衛	新二二二六
西長堀南通三丁目一八地	一〇	桐本梅之助	新一一四〇
北堀江裏通一丁目一七地	一一	吉田伊右衛門	新六〇三
北堀江一番町一五地	一二	益田喜之助	新一四六七
北堀江御池通六丁目一〇八	一三	森本清兵衛	新一四九一
北堀江二番町一七四	一四	栗谷喜八	
北堀江通五丁目四六	一五	筒井嘉兵衛	
	一六	加藤茂	

學 務 委 員

住 所	選出別	氏 名	電話番號
北堀江二番町一七四	議員委員	栗谷喜八	新一四六七
北堀江裏通一丁目一七地	議員	吉田伊右衛門	新二〇五五
北堀江通五丁目二五地	公民	十合芳三郎	二〇五六
堀江尋常高等小學校長	教員	加藤茂	新一一五

八聯合 南堀江通二丁目十七ヶ町 區會議員

(定員十四人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
西道頓堀通二丁目五地	一	三木治助	櫻二〇〇四
南堀江上通四丁目一一四	二	杉山徳太郎	櫻二四一五
西道頓堀通三丁目一二地	三	米田松藏	櫻一七九三
幸町通二丁目五地	四	紫藤二郎	櫻一五二七
南堀江上通三丁目二二八	五	山口四郎右衛門	櫻一〇八
南堀江通二丁目三六	六	谷口兵太郎	
南堀江通一丁目二三地	七	鶴崎庄兵衛	
	八		

幸町通三丁目六六	九	花谷卯三郎	櫻一八一
南堀江上通一丁目一八五	一〇	近藤忠四郎	櫻六〇八
南堀江上通一丁目一六地	一一	山中清七郎	櫻一八三九
幸町通一丁目一四地	一二	高尾増太郎	櫻四一五
南堀江下通三丁目一三地	一三	黒田廣三良	櫻一三一八
南堀江通四丁目二六地ノ二	一四	徳山千吉	櫻二〇八二

選出別
議員委員長 米田松藏
公民 蒲田利郎
教員 野本仁平

電話番號
櫻一七九三
櫻二四六一

九聯合 南堀江通五丁目 區會議員

(定員十四人)

南堀江一番丁二七地	一	藤本伊八	櫻三二四
南堀江下通四丁目三七地	二	高橋常松	櫻二六八八
南堀江三番丁一〇三	三	楠本甚吉	櫻二〇三八

議席番號
電話番號
櫻三二四 三三五
櫻二六八八
櫻二〇三八

幸町通五丁目四六屋	四	岡本善助	櫻六二三
幸町通四丁目一〇地	五	谷保次郎	櫻一四三三
南堀江上通五丁目二六地	六	河原國藏	櫻二四六八
南堀江二番丁二五二	七	木村長太郎	櫻二六五二
南堀江一番丁七九	八	木村己三郎	櫻二二六一
南堀江通五丁目一地	九	南方熊次郎	櫻一八二一
南堀江通六丁目七九	一〇	淺野榮造	櫻二七四五
南堀江一番丁一七地	一一	大住種五郎	櫻一〇三三
西道頓堀通六丁目八地	一二	高島長七郎	櫻二九
西道頓堀通五丁目三地	一三	川崎善助	櫻五三六
南堀江二番丁三四	一四	米澤安太郎	櫻五七二

選出別
公民委員長 平野文助
議員 南方熊次郎
教員 沼間馬之助

電話番號
櫻七九六
櫻一八二一

十聯合 松島町一丁目區會議員

(定員十四人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
松島町一丁目二七地	一	飯田 愛三	西二〇九六
松島町二丁目三九地	二	象源 三郎	西一五四七
仲ノ町一丁目二九地	三	中島 賢淨	西二七〇四
松島町一丁目七地	四	三宅 誠一	西一八九〇
十返町三六地	五	松原 安治	西四七〇四
花園町六地ノ六	六	松原 清吉	西四五八三
高砂町一丁目二五地	七	梅原 超誓	西二四〇九
高砂町二丁目二地	八	山西 愛三	西三二八一
花園町五三地	九	吉岡 彌市	西三六二二
仲ノ町二丁目一ノ地ノ二四	一〇	佐藤 要次郎	西五一〇四
松島町二丁目七七	一一	木村 安次郎	西三三九〇
仲ノ町一丁目二地	一二	西川 政次郎	西九九九
高砂町二丁目一地	一三	增原 吉兵衛	西一八九六
高砂町二丁目一地	一四	安藤 六郎	

學 務 委 員

選出別 氏 名

電話番號

高砂町二丁目二地
松島町一丁目七地
松島尋常高等小學校長

議員委員長 增原 吉兵衛
公民 宇野 源三郎
教員 中小路 泰次郎

西 九九九
西 七七〇

十一聯合 本田一丁目區會議員

(定員十六人)

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
本田町通三丁目六八地	一	島谷 秀三郎	西 四三一
本田三番町二二地	二	辻本 源次郎	西二八四五
本田町通二丁目七九地	三	植田 吉兵衛	西 六七九
本田町通一丁目一四地	四	片山 由松	西二〇四七
本田三番町四五地	五	津田 種松	西二七八一
本田町通二丁目三二地	六	築留 勘左衛門	西三四八二
本田町通三丁目一四地ノ一	七	岡本 太兵衛	西三五五一
本田町通三丁目三〇八	八	和田 彌兵衛	西三三七二
梅本町一二地	九	八木 喜助	西 四八五
本田町通一丁目二三地	一〇	播本 孝良	西 四八五
本田町通二丁目七〇地	一一	半田 寅之助	西 四五二
本田町通二丁目五二地	一二	岡本 藤三郎	西長七三七

本田一番町三地 一三 中島龜吉 西五一四
 梅本町三四七屋ノ一 一四 木村源次郎
 本田町通二丁目五六地 一五 廣谷兵衛 西長九二一
 本田三番町九一地 一六 扇谷五兵衛

學務委員

住 所
 本田町通二丁目五二地 議員委員長 岡本藤三郎 西長七三七
 本田町通三丁目六八地 議員 島谷秀三郎 西四三一
 本田一番町三地 公民 中島龜和 西五一四
 本田尋常高等小學校長 教員 兵丹石辰次郎

九條聯合 九條北通一丁目 區會議員 (定員十六人)

住 所
 北境川町一四四地ノ五四 一 吉田由松 西四一八三
 九條南通二丁目一六三地 二 增田林藏 西六三九
 九條通二丁目五一地ノ三 三 平井喜七 西二七九六
 九條通四丁目三六三地 四 小林吉松

九條北通三丁目五一三地 五 副議長 和田小兵衛 西七二七
 九條中通一丁目九八地 六 村上豐治 西二一六四 三九八九
 九條通一丁目八一地 七 平谷灌次 西四〇五八
 九條北通三丁目五〇五地 八 篠井善吉 西一五二七
 九條中通二丁目六三五地ノ二 九 木下彌七 西二六三
 九條北通三丁目五二三屋 一〇 永木彌六 西一八三三
 九條中通三丁目二九〇地ノ二 一一 原田治光 西一七二七
 九條中通二丁目六三地 一二 水田秀光 西二八二二
 九條通一丁目外一八四九屋 一三 英田芳三 西一七二七
 九條南通一丁目一〇地 一四 樋口槌松 西一七二七
 九條北通三丁目五四九地 一五 筒井民次郎
 九條中通一丁目七一九地 一六 議長 三輪辰次郎

學務委員

住 所
 九條通一丁目外一八四九 議員委員長 英芳三 西二八三三
 九條南通二丁目一三六地 議員 增田林藏
 九條南通三丁目三一九地ノ二 公民 森田直次郎
 九條第二尋常高等小學校長 教員 神阪棄造

三軒家聯合 區會議員

(定員十六人)

議席番號	氏名	電話番號
一	北端兵吉	櫻一二六三 二三四七
二	福原吉衛	
三	三尾德之助	櫻二五四四
四	井奧敬次郎	
五	杉本榮三郎	櫻一六八〇
六	山本榮三郎	櫻二五七八
七	下村市造	
八	大井文右衛門	櫻二七八六
九	上田丹次郎	
一〇	河內龜吉	
一一	八木吉松	
一二	播本傳七	
一三	古市半兵衛	櫻一五五六
一四	於勢升	
一五		
一六		

學務委員

住	所	選出別	氏名	電話番號
三軒家上ノ町		公民委員長	岡島作次郎	
三軒家下ノ町		議員	八木吉松	
三軒家第一尋常小學校長		教員	前田重正	

泉尾聯合 區會議員 (定員十六人)

議席番號	氏名	電話番號
一	大井伊助	櫻二〇三三
二	田中藤九郎	櫻二〇四六
三	衣田音次郎	
四	下村德造	櫻一八一三
五	猿田新治郎	櫻二二二七
六	藤森菊松	
七	副議長 小野虎助	櫻一八三三 一八四〇
八	議長 田中藤三郎	櫻一七二五 二六八〇
九		

泉尾町三九一地ノ二 櫻一四二四
 泉尾町七二四地 櫻一〇〇六
 小林町一地 櫻二二七八
 千島町五九地
 泉尾町三九三地
 新炭屋町一五七地 櫻二七一八
 泉尾町一地 櫻六五七

學務委員

住 所 選出別 氏 名
 泉尾町二九九地ノ二 公民委員長 下 村 德 造 電話番號 櫻一八一三
 新炭屋町一五七地 議員 中 川 好 太 郎 櫻一七一八
 鶴町尋常小學校長 教員 隅 川 三 雄

市岡聯合市十一ヶ町區會議員

(定員十六人)

住 所 議席番號 氏 名 電話番號
 池山町一 一 松 本 平 造 西一八三六
 市岡町八二地ノ一 二 井 出 勉

南境川町七七四地ノ六 三 細 川 勝 太 郎 西一六〇五
 市岡町七六地 四 片 岡 孫 助 西四〇三六
 八幡屋町一三六地 五 岡 部 新 太 郎 西 七九八
 市岡町八〇七地ノ二 六 鴻 野 沖 三 郎 西一〇一
 南境川町九九七地 七 山 口 文 次 郎 西三一八一
 南境川町一八八地ノ七 八 伊 藤 勇 次 郎 西二六〇九
 市岡町二二三地 九 內 田 仙 太 郎 西一五六
 市岡町七八六地 一〇 小 田 淺 次 郎 西 三八九
 議 長
 市岡町六九地 一一 兵 庫 谷 幸 三 郎 西一二五四
 市岡町八四七地 一二 宮 崎 周 作 西一二四
 市岡町八六 一三 松 田 與 之 助
 一四
 一五
 一六 湊屋町一五九地 一六 那 須 竹 松

學務委員

住 所 選出別 氏 名 電話番號
 市岡町六九地 議員 兵 庫 谷 幸 三 郎 西一二五四
 池山町一 公民 松 本 平 造
 市岡第三尋常小學校長 教員 橫 田 肇

西區 一條通一丁目聯合區會

(定員十四人)

住所

議席番號

氏名

電話番號

二條通四丁目三六地	一	岩井市松	西二二八 一四三三
三條通四丁目五一地	二	清水安次郎	
三條通三丁目三一地	三	藤阪甚三郎	
五條通二丁目二三地	四	根來正雄	西二三二七
五條通二丁目一九地	五	足立仲藏	
五條通二丁目二九地	六	金田彦三郎	西一一八二
三條通一丁目六地	七	下村政之助	
四條通二丁目二三地	八	松尾光山	西一四七九
天保町七四地	九	澤野龜吉	西二八四二
四通條四丁目四九地	一〇	岡田千代平	西二七三九
三條通一丁目五地	一一	芦谷與一郎	西一二四六
四條通三丁目三三地	一二	松本繁太郎	

學務委員

選出別

住所

公民委員長

氏名

電話番號

三條通一丁目六地
築港北尋常高等小學校長

議員
教員

下村政之助
三島七太郎

春日出聯合區會議員

春日出町外十一ヶ町

(定員十六人)

住所

議席番號

氏名

電話番號

西島町五三五地	一	多羅尾信藏	土三九九九
四貫島町二〇二地	二	田邊仁一	土一三九九
四貫島町三〇四地	三	阪井傳次郎	土五一四三
春日出町三九八地	四	金子泰藏	土七八五
恩貴島南ノ町三八	五	藤井庄助	
恩貴島南ノ町七八	六	樋口德松	土二六五五
春日出町四〇二地	七	志摩惣吉	
四貫島町三〇一地	八	北村熊治郎	土五六九
四貫島町二九七地	九	金川喜助	土一三七
春日出町四八地	一〇	山邊武彦	土四二八一
四貫島町二九三地	一一	安田太兵衛	
春日出町三九五地	一二	金子梅吉	

春日出町一 一四 議長 中 谷 德 恭
 春日出町五一 一五 甲 斐 長 藏
 四貫島町二五九地 一六 土 井 芳 雄

學務委員

住 所
 恩貴島南ノ町七八
 四貫島町二九三地
 四貫島尋常小學校長

選出別
 公民委員長 樋口 德松
 議員 安田 太兵衛
 教員 桑田 利太郎

電話番號
 土四二八一

西九條聯合 西九條上ノ町 區會議員 (定員十六人)

住 所
 西九條下ノ町一三一地
 西九條上ノ町三四地
 西九條下ノ町一〇五地
 西九條上ノ町一九六地ノ一
 西九條上ノ町一〇二地
 西九條下ノ町一二六地

議席番號
 一 家 永 喜 作
 二 野 村 伊 之 助
 三 石 井 長 次 郎
 四 渡 邊 碩 造
 五 小 森 末 三 郎
 六 岡 田 喜 太 郎

氏 名
 電話番號
 土一九五一
 土三四九〇
 土二〇一六

西九條上ノ町二〇〇地ノ一 七 若 江 延 吉
 西九條下ノ町一二二地 八 奧 野 代 吉
 西九條上ノ町一九八地ノ二 九 酒 井 伊 太 郎
 西九條上ノ町二〇四地ノ二 一〇 黑 田 龜 藏
 西九條上ノ町二〇七地 一一 松 本 米 藏
 西九條上ノ町二〇七地 一二 上 新 爲 吉
 西九條上ノ町一九八地ノ一 一三 中 澤 喜 藏
 西九條下ノ町一二七地 一四 平 松 繁 十 郎
 西九條上ノ町二〇二地ノ一 一五 東 方 八 次 郎
 西九條下ノ町一〇五地 一六 西 山 卯 之 助

議長
 副議長

電話番號
 土三八八五
 土七二五
 土六四三
 土二五九五
 土二六九
 土八七
 土一〇八

學務委員

住 所
 西九條上ノ町一九六地ノ一
 西九條下ノ町一二六
 西九條尋常高等小學校長

選出別
 議員委員長 渡邊 碩造
 公民 岡 田 喜 郎
 教員 岡 本 邦 敬

氏 名
 電話番號
 土三四九〇

東區各聯合區會議員同學務委員

東區 法圓坂町 區會議員

大正六年十二月十七日總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電 話 番 號
北久太郎町二丁目五〇屋	一	齋藤儀三郎	船一五四三 三二七三
豐後町七地	二	古林鹿藏	東二一四八
島町一丁目一六地	三	伊賀政雄	東四五一
道修町三丁目八四屋	四	伊藤千太郎	本二八八二
内淡路町一丁目三地	五	海老友次郎	本二二八六
南農人町一丁目一四地	六	中島米吉	東三四四〇
谷町五丁目一三屋	七	吉岡三治郎	東二二〇五
農人橋詰町九地	八	黒川十祐	南九〇七〇
備後町一丁目一八屋	九	川上利助	東三七〇
平野町二丁目五三屋	一〇	伊藤喜十郎	本一七五七
南久寶寺町三丁目五屋	一一	小栗小三郎	南三六八二
瓦町四丁目一一九屋	一二	横溝小八	船二三五
南新町一丁目一二地	一三	阪部二郎	南三五八七
			(本宅)
			東二二〇五
			南九〇七〇
			東三七〇
			本一七五七
			南三六八二
			船二三五
			南三五八七
			(自宅)
			北四〇二一
			東五二二

東區高等小學校學務委員

住 所	選出別	氏 名	電 話 番 號
瓦町四丁目七九屋ノ一	一四 議長	日納藤七郎	本一九一三
谷町二丁目三五地	一五	福井金藏	東一九七
北久太郎町二丁目二屋	一六	松村榮三郎	船三三六〇
道修町二丁目七屋	一七	小西儀助	本二三〇 二三一〇 (主人用) 三九三〇
博勢町四丁目二四	一八	上村重助	船七〇
農人橋二丁目一地	一九	岡本忠一	東三三二〇
安土町一丁目二三地	二〇	山田留吉	本一〇五三 一〇五四 本一〇五五
南新町一丁目一二地	議員	阪部二郎	北四〇二二 四〇二一 (自宅) 東五二二
博勢町四丁目二四地	議員	上村重助	船七〇
伏見町二丁目四九地	公民委員長	谷始太郎	本四五七 四五八
	教員	福島德平	南一五〇一

一聯合 外 二川 二十三ヶ町 區會議員

大正六年十二月四日 總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電 話 番 號
十軒二町一三地	一	井上幸治郎	南三七四六
材木町四六屋	二	奥居勝次郎	東一三二四
龍造寺町一地	三	小森要次郎	南六〇五五
材木町三二屋	四	魚住陽三	東二五三二
南農人町二丁目一七七屋	五	平井種三	東一二三六
住吉町一二五屋	六	副議長 秋田重助	南二六五四
南農人町二丁目六三屋	七	奥山駒次郎	
泉町二丁目一地	八	議長 藤井護三郎	東二七〇 一七七〇
内久寶寺町三丁目六地	九	久石増治郎	南二五一三
龍造寺町二四地	一〇	細谷辰藏	南九一七
住吉町二屋	一一	永田庄兵衛	南三六二一
内久寶寺町二丁目八地	一二	河中生太郎	南二七〇六
内久寶寺町四丁目番外一六	一三	五代音吉	
和泉町一丁目二〇地	一四	阪上仁三郎	東三三二〇
農人橋二丁目一地	一五	岡本忠一	南九〇七〇
谷町五丁目一三屋	一六	吉岡三治郎	

南大江尋常小學校學務委員

住 所 選出別 氏 名 電 話 番 號

農人橋二丁目一地	議員委員長	岡本忠一	東三三二〇
龍造寺町一地	議員	小森要次郎	南六〇五五
和泉町二丁目七二地	公民	隅田寛治	東三五一八
	教員	草生三郎	東二二三〇

二一聯合區會議員

内淡路町二丁目
外一十五ヶ町

大正六年十二月
五日總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電 話 番 號
内平野町二丁目一六二地	一	村瀬久吉	
豊後町一三地	二	吉田長藏	東一七九三
南新町二丁目二二屋	三	福知清次郎	東一四六四
内淡路町一丁目三地	四	海老友次郎	本一二八六 (本宅内) 東三四四〇
本町橋詰町一屋	五	神納平兵衛	東五四〇 (宇野取次)
北新町一丁目四九屋	六	淺尾十五郎	
谷町三丁目八地	七	井上善兵衛	東二七六四
糸屋町二丁目二地	八	永田龜吉	東七七五
内淡路町一丁目六七屋	九	中島安兵衛	東三五二七 二六八七
谷町三丁目二地	一〇	糸岡熊司	東二七五七

四聯合 今橋二丁目 區會議員

大正六年十二月 八日總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
道修町一丁目一五屋	一	高田久右衛門	本一二三四
伏見町二丁目四九屋	二	副議長 谷 始太郎	本四五七 四五八
伏見町一丁目九屋	三	辻 忠右衛門	本三七九
平野町二丁目五三屋	四	伊藤喜十郎	本三三四 南三六八二 (本宅)
高麗橋二丁目二〇地	五	井上嘉助	
今橋二丁目五九屋	六	阪口彦三郎	本一〇七四
高麗橋二丁目五五屋	七	櫻井勝藏	本一八五 一八六
今橋二丁目二六屋	八	議長 寺井榮三郎	東五九九
今橋二丁目七七屋	九	岡井善作	本二二七
道修町二丁目七屋	一〇	小西儀助	本二三〇 二三一 (主人用) 本三九三〇
北濱二丁目一二二屋	一一	小寺篤兵衛	
平野町二丁目四四屋	一二	福井庄次郎	本一二九

集英尋常小學校學務委員

住 所	選出別	氏 名	電話番號
今橋二丁目七七屋	議員	岡井善作	本二二七
道修町二丁目七屋	公民	委員長 小西儀助	本二三〇 二三一 (主人用) 本三九三〇
	教員	坂本豐策	本二〇二八

五聯合 安土町二丁目 區會議員

大正六年十二月 十日總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
淡路町二丁目九地	一	野口進	本四九〇
本町二丁目七四屋	二	小澤新六	本四六三 一四六三
南本町二、甲四地	三	豐島久七	船自二七七二至二七七七 船二六七三
安土町二丁目二九屋	四	奧田藤兵衛	本二八四〇 八八五
安土町一丁目二三地	五	議長 山田留吉	本自一〇五三至一〇五五
備後町一丁目一八屋	六	川上利助	本一七五七
瓦町二丁目一二五屋	七	田中丑松	本一三五
淡路町一丁目二〇地	八	國分庄兵衛	本二二五〇
備後町二丁目五八地	九	副議長 村上敬吉	本自四八八〇至四八八三
本町一丁目四〇屋	一〇	深見辰治郎	本二九八〇
南本町一丁目三三地ノ乙	一一	横家甚吉	船三四〇七

瓦町二丁目三〇地

一一一

村井伊兵衛

本二六五九

汎愛尋常小學校學務委員

住	所	選出別	氏名	電話番号
備後町二丁目八五地		議員	村上敬	吉本自四八八〇至四八八三
安土町一丁目二九屋		公民	山田留	吉本自一〇五三至一〇五五
		教員	飯田吉太郎	本二〇二七

六聯合 區會議員

北久寶寺町一丁目

大正六年十二月十一日總選舉

住	所	議席番號	氏名	電話番号
北久寶寺町一丁目一三三		一	吉見助五郎	船三七三 四二二八
博勢町二丁目九三屋	商業會議所議員	二	吉村勝太郎	船九六
南久太郎町一丁目二八地		三	河中原造	船三四〇一
北久太郎町二丁目二屋	東區會議員府會議員	四	松村榮三郎	船三三六〇
北久太郎町一丁目一五地		五	浮田高太郎	船二五〇五 三五七二
南久太郎町二丁目九屋		六	山田市郎兵衛	船自二八〇 至二八三 南八五七
		七	議長	

南久寶寺町二丁目四一屋	八	萩原吉右衛門	南一九一五	船四一
博勢町一丁目三四地ノ乙	九	副議長 種谷喜兵衛	(本宅)	船三五八二
北久太郎町二丁目五〇屋	一〇	齋藤儀三郎	船一五四三	三二七三
唐物町一丁目一〇地	一一	宮崎彌三郎	船一六	五一六六
南久寶寺町一丁目二七地	一二	藤井卯兵衛		船一九五〇
唐物町二丁目七地	一三	三浦治郎兵衛		船三〇三六
博勢町一丁目一一一屋	一四	梶木嘉助		船二三一三

浪華尋常小學校學務委員

住	所	選出別	氏名	電話番号
南久寶寺町一丁目二七地		議員	藤井卯兵衛	船一九五〇
北久太郎町二丁目五〇屋		公民	齋藤儀三郎	船一五四三 三二七三
		教員	吉田源三郎	船七二

七聯合 區會議員

北久太郎町三丁目

大正六年十二月十二日總選舉

住	所	議席番號	氏名	電話番号
南渡邊町三九地		一	野口要助	船一九二二

船場尋常小學校學務委員

住	選出別	氏	名	電話番號
北渡邊町五四屋	議員	飯田	清治郎	本一〇六
瓦町五丁目二三四屋	同	岸田	平右衛門	本一三九六
北渡邊町三〇地	公民	吉川	善兵衛	本二七三〇
	教員	上島	直之	本九三〇

九聯合 道修町三丁目 區會議員

大正六年十二月十四日總選舉

住	所	議席番號	氏	名	電話番號
北濱四丁目一三三		一	白川	朋吉	本一一六三
大川町六〇屋		二	永見	省一	本七九二
今橋三丁目一		三	香川	季三郎	本二二五六
平野町三丁目一二七屋		四	副議長	十川兵之助	本五四七八
高麗橋四丁目六三屋		五	有本	國藏	本一六七
平野町五丁目一四〇屋		六	善積	由兵衛	本六一六
北濱四丁目二二地	市會議員	七	山口房五郎		本二三七四

愛日尋常小學校學務委員

今橋四丁目六地	九	平木	竹松	本一四六八
伏見町四丁目二二地	一〇	安田	源三朗	本二二
伏見町五丁目六九屋	一一	有澤	基次	本一九四三
北濱四丁目一九地	一二	上殿	政太郎	本一三八五
北濱三丁目五六屋	一三	河野	一造	本一二五五
道修町五丁目一屋	一四	木村	伊太郎	本一八三九

住 所

選出別

氏 名

電話番號

北濱四丁目二二地	市會議員	議員	委員長	山口房五郎	本一三七四
高麗橋四丁目二七地	公民	教員	大浦倉之助	豐田文三郎	本一六三二
				本二〇二六	

玉造聯合 玉造町 區會議員

大正八年三月二十六日總選舉

住	所	議席番號	氏	名	電話番號
左官町八一二地		一	副議長	照林作治郎	南二六〇五
東雲町二丁目一九七地		二	本郷	安治郎	南五七一六
八尾町一四一屋		三	佐々木	半兵衛	

半入町七四八地
 東阪町五〇五地
 東雲町一丁目七三三
 元伊勢町三五八屋
 東雲町二丁目一三八地
 紀伊國町九五二地
 玉造町四〇八地
 紀伊國町九四二地
 東雲町二丁目一四九地
 岡山町三四三三
 中道黒門町一七一ノ二
 玉造町八八六屋
 中道唐居町一五七ノ一

玉造尋常高等小學校學務委員

選出別	氏名	電話番號
議長	中田 守雄	南二二三〇 六一五〇
議員	木村 梅太郎	南一四一三
議員	豐澤 儀三郎	南五九〇五
議員	生駒 正義	
議員	長谷川 富三郎	
議員	榮木 元吉	南七二二一 四九六一
議員	西村 喜兵衛	南七二二一 四九六一
議員	宮崎 米吉	南五四八四
議員	橋本 房治郎	南二六四七
議員	栗田 種松	南四二三一
議員	山田 虎市	南八八九
議員	星田 伊之助	
議員	赤田 豐松	
議員	本郷 安治郎	南五七一六
議員	西村 喜兵衛	南七二二一 四九六一
議員	照林 作治郎	南二六〇五
議員	主計 佐市郎	南二二〇五

清堀聯合 外二八ヶ町 區 會議員

大正八年三月二十八日總選舉

議席番號	氏名	電話番號
一	河 中 伊 三 郎	南 八 五 四
二	長 澤 源 太 郎	南 一 二 〇 二
三	山 田 有 時	南 一 九 三 二
四	副議長 井 上 千 吉	南 一 七 一 五
五		
六	玉 井 德 松	南 一 九 一 五 萩原方取次
七	吉 井 喜 平	
八	米 谷 新 太 郎	南 五 七 〇 二
九	松 井 内 藏 之 祐	南 一 三 三 一
一〇	議長 黒 田 治 男	南 二 二 九 五
一一	葛 城 捨 吉	南 四 〇 二 三
一二		
一三	所 司 原 和 介	南 六 五 七 八
一四	本 出 卯 一	
一五	高 橋 兵 吉	
一六	上 田 治 郎	南 二 〇 九 五 五 七 八 八

谷町五丁目五二屋	一聯合區會議員	二	岩田喜右衛門	南一三七六
龍造寺町一地		三	小森要次郎	南六〇五五
上木町一丁目二五地	一聯合區會議員	四	力身覺次郎	南二五五六
內久寶寺町二丁目八地		五	河米太郎	南二六九八
十二軒町一八地		六	筑紫正太郎	南九〇七〇
谷町五丁目一三屋	一聯合區會議員東區會議員	七	吉岡三治郎	
上木町一丁目一三地		八	鳴尾權兵衛	
內久寶寺町一丁目二二地		九	島田專之助	
廣小路町番外一五屋		一〇	糟谷直吉	
內久寶寺町一丁目七〇屋		一一	長村小三郎	
龍造寺町七地		一二	小幡重造	
		一三		
		一四		

谷町四丁目 區會議員

大正六年十二月三日總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
谷町四丁目五二地	一	鹽山菊次郎	東三四三八
農人橋一丁目五地	二	高橋千代造	

南農人町一丁目一四地	東區會議員	三	中島米吉	東二二〇五
兩替町一丁目二七地		四	由利岩藏	東二八八六
農人橋一丁目一〇地		五	王子定二郎	
農人橋一丁目一八屋		六	雪淵善兵衛	東一四二五
和泉町一丁目二〇地	一聯合區會議員	七	阪上仁三郎	
和泉町一丁目二四地		八	林堅三郎	
兩替町一丁目一二屋		九	高田吉太郎	東二三六三
南農人町一丁目六三屋	一聯合區會議員	一〇	奥山駒次郎	
和泉町一丁目一四屋		一一	立番宗七	東四七八
谷町四丁目三九地		一二	寺田虎藏	
谷町四丁目二三九屋		一三	三好信藏	
谷町四丁目一二地		一四	藤澤龜藏	東三六六〇

上本町四丁目 區會議員

大正九年七月三十一日總選舉

住 所	議席番號	氏 名	電話番號
上本町四丁目一六九ノ一	三	加村太造	
上本町五丁目一六九ノ一	二	森下新造	南七九七
佃差町四二地ノ一	一	木村由太郎	七二一四
佃差町四一地			

議席番號	住	所	選出別	氏名	電話番號
一	住	所	區會議員	村田 又兵衛	南四二五三
二	同	同	同	森井 和助	南六三一七
三	同	同	同	烏谷 市兵衛	南二四八
四	同	同	同	山田 仁兵衛	船一三二二
五	同	同	同	泉 猶次郎	南三二二三

空堀外十三ヶ町區會 (桃園部内)

定員 六人
大正八年一月十七日總選舉

議席番號	住	所	學務委員	氏名	電話番號
一	住	所	學務委員	桐山 千太郎	南三九六八
二	住	所	學務委員	村上治郎 右衛門	南五七九七
三	住	所	區費出納立會人	寺島 清三郎	南二六五九
四	住	所	區費出納立會人	三輪 光三良	南三一二七
五	住	所	區費出納立會人	麥林 又次郎	南二一五八
六	住	所	區費出納立會人	辻 阪米次郎	南九四五
七	住	所	同 上	木村 千代楠	
八	住	所	同 上	鶴飼 喜太郎	
九	住	所	區費出納立會人	浦井 橋次郎	

議席番號	住	所	學務委員	氏名	電話番號
一〇	住	所	副議長	熊取 谷平吉	南二五八六
一一	住	所	副議長	兒島 清次郎	南二七五八
一二	住	所	議長	浦 谷 勇	南三七七四
一三	住	所	議長	高岩 友太郎	南五八七二
一四	住	所	議長	西本 秀次郎	南一〇八一
一五	住	所	議長	水谷 次郎 兵衛	一七六六
一六	住	所	議長	水谷 次郎 兵衛	南一〇八一

瓦町三番丁外四ヶ町區會 (金殿部内)

定員 四人
大正八年一月十八日總選舉

議席番號	住	所	選出別	氏名	電話番號
一	住	所	區會議員	村上治郎 右衛門	南三九六八
	住	所	區會議員	桐山 千太郎	南七三二
	住	所	區會議員	石田 賢次	
	住	所	區會議員	八木 庄三郎	

議長 中野 治三良

電話番號 南三〇五六

瓦屋町一番丁三六〇屋 市公民 東木米吉 南三一八三
 同 二番丁四〇八 同 岡田菊松 南八四三
 同 四番丁四七屋 同 土橋重次郎
 同 五番丁二四地 同 稻村重兵衛 南八一三

金 甌 裁 縫 學 校 商 議 員 (定員五名)

順慶町通二丁目外七ヶ町區會 (濕美部内) 大正七年七月廿七日總選舉人

議席番號 住 所 氏 名 電話番號
 一 順慶町通二丁目一七地 區費出納検査立會人 山中十治郎 船四七八
 二 鹽町通二丁目六一 議 長 橫山善三 船九三七
 三 末吉橋通二丁目九地 阪根武兵衛 船一七〇一七一一七二
 四 安堂寺橋通一丁目一地 副議長 濱田正夫 船三三九一三三九〇
 五 同 三四地 區費出納検査立會人 高木阪次郎 船三二五五

七 順慶町通一丁目四〇地 西垣彦次郎 船一五七四
 八 末吉橋通一丁目二二地 橋本八兵衛 船三四七九
 九 安堂寺橋通一丁目三三三三三三三三 井澤清兵衛 船二八〇三三五五〇
 一〇 鹽町通二丁目一三三三三三三三 野村利兵衛 船二八〇三三五五〇
 一一 安堂寺橋通二丁目二五五五五五五五 成勢平兵衛 船二六六四
 一二 同 八地 藤田 船四八九

學 務 委 員

住 所 選出別 氏 名 電話番號
 前掲 委員長 區會議員 市公民 橋本八兵衛 船三四七九
 北區北野太幡寺町六七七地 教 員 毛利德太郎

鹽町通四丁目外八ヶ町區會 (蘆池部内) 大正七年七月廿八日總選舉人

議席番號 住 所 氏 名 電話番號
 一 末吉橋通四丁目二二地 勢山庄太郎 船四七四
 二 安堂寺橋通三丁目八地 田月芳三郎 船二四二

四	順慶町通四丁目四二地	山田仁兵衛	船一三二
五	横堀七丁目六一屋	三浦直三郎	船一〇七五
六	末吉橋通三丁目一五地	和田榮太郎	船九六〇
七	順慶町通三丁目四六地	山形武助	船六六二
八	順慶町通三丁目七〇地	山田嘉助	船三一六七
九	〇	山田嘉助	船三一六七
一〇	〇	山田嘉助	船三一六七
一一	〇	山田嘉助	船三一六七
一二	〇	山田嘉助	船三一六七

學務委員

住	前掲	選出別	氏名	電話番號
同	天王寺石ヶ辻町五三一九地	區會議員	山田嘉助	船三三二
		市公民	桂審助	船一〇五〇
		教員	朝山守	船一〇五〇

三津寺町外十ヶ町區會 (御津部内)

定員十四人
大正八年十月廿五日總選舉

議席番號

住所

氏名

電話番號

一	久左衛門町二二二屋	學務委員	本田友三郎	南九〇六七
二	北炭屋町四六地		田中吉太郎	南五九〇
三	心齋橋筋二丁目一六〇屋		橋本市松	南三八八
四	周防町二二地		森川友七	南一三四〇
五	心齋橋筋一丁目六八地	副議長	杉本勳七	南一九八
六	西清水町一八地		和田榮次良	南一八七九
七	八幡町六地		藤原伊兵衛	南六七八三
八	心齋橋筋二丁目一八地	議長	藤尾常治郎	南一〇一
九	大寶寺町西之丁四〇地		藤井秀二	南三三三八
一〇	久左衛門町二三一屋		伊藤佐助	南三三二九
一一	三津寺町二一地ノ一		黒田卯之松	南三三四二
一二	心齋橋筋一丁目三七地		美濃與一郎	南四八一
一三	南炭屋町五地	學務委員	福本龜太郎	南五四九六
一四	鰻谷西之丁九二屋		豐田留吉	

學務委員

住	前掲	選出別	氏名	電話番號
同	西清水町一七五	區會議員	本田友三郎	南九〇六七
		市公民	豐田留吉	
			河合才治	

二	大寶寺町東之丁四地	熊谷治太郎	南二〇四一
三	南綿屋町三五地	菅田源次郎	南五五一六
四	大和町五七地	木村嘉兵衛	南六一五
五	同 一五地	荒川吉三郎	南五九七九
六	大寶寺町東ノ丁一〇地	橋本惣五郎	南二九六〇
七	南綿屋町五〇地	小森虎次郎	南一四二六
八	鍛冶屋町四九地	藤村長三郎	南四二五三
九	竹屋町一四地	川上猶次郎	南三六三〇
一〇	鰻谷東之町一七九屋	村田又兵衛	南七九八九
一一	鍛冶屋町四五地	肥田熊藏	南九〇五
一二	問屋町一屋	小林治助	南三八七
一三	同 一九地	大橋伊之助	
一四	竹屋町一五〇屋	雜賀榮吉	

學務委員

住 所	選出別	氏 名	電 話 番 號
鍛冶屋町三〇二屋	區會議員	肥田熊藏	南三六三〇
竹屋町九地	市公民	藤澤章次郎	
天王寺大道一丁目四〇〇五地	教 員	平井暢二	

高津町四番丁外十四ヶ町區會

(高津部内) 定員十六人
大正八年十月廿三日總選舉

議席番號	住 所	氏 名	電 話 番 號
一	御藏跡町二三三屋	中納彌兵衛	
二	高津町五番丁二三地	藤守忠次郎	
三	二ツ井戸町九地	大西幾治郎	南一五九〇
四	日本橋筋五丁目五一地	水谷松太郎	
五	同 四丁目六四地	外山彌太郎	南二七四一
六	同 一九七屋	梶川平吉	南三六九一
七	高津町四番丁三四九屋	熊田嘉久馬	南二二四
八	日本橋筋五丁目一地	中田豐三郎	南五一九
九	同 二丁目一二二屋	寺田八三郎	
一〇			
一一			
一二			
一三	同 七番丁二九地	林 太藏	
一四			
一五	二ツ井戸町七九屋	友田嘉助	南三三八四
一六	高津町六番丁一地	長谷川喜市	南四〇四三

木津大國町一丁目外十三ヶ町區會

(木津部内)

定員十六人
大正八年四月廿四日總選舉

議席番號

一	住	木津鷗町二丁目一三四屋	氏名	菊月久吉	電話番號
二	同	一丁目二八屋	粉川市兵衛		
三	同	大國町二丁目一三五三地	蟹田嘉平		
四	同	一三七五地	江田甚三郎	南二五四六	
五	同	勘助町一丁目一二六屋	柏原善藏		
六	同	敷津町一〇二三地	伊加井茂之助		
七	同	大國町一丁目三五八屋	吉村清三郎	南四一四	
八	同	鷗町一丁目八九六屋	近藤鶴松		
九	同	大國町二丁目三九二屋	六角伊之助	南五一一五	
〇	同	勘助町一丁目七三屋	議長		
一	同	鷗町三丁目一六〇七地	學務委員		
二	同	勘助町三丁目一五三八地	茶珍恒次郎		
三	同	敷津町九八四地	副議長		
四	同		龍半兵衛		
五	同		法西宇之助		
六	同				

學務委員

住	選出別	氏名	電話番號
前掲	區會議員	茶珍恒次郎	
木津鷗町一丁目一九二地	市公民	若間平七	
天王寺勝山通二丁目五八九七地	教員	和田左市郎	

區有財產商議員

住	選出別	氏名	電話番號
前掲	區會議員	菊月久吉	
同	同	伊加井茂之助	
同	同	吉村清三郎	南四一四
同	同	龍半兵衛	
同	同	柏原善藏	
同	同	近藤鶴松	

馬淵町外十五ヶ町區會 (惠美部内)

定員十六人
大正八年四月廿五日總選舉

議席番號

一	住	惠美須町四丁目一九七地	氏名	加藤次兵衛	電話番號	
二	同	二丁目五一町ノ一	同	河本幾太郎	南五四五一	
三	同	三丁目四二地	同	米田市松	南五四五一	
四	同	二丁目五二地	同	岩井岩吉	南二二二四	
五	同	一丁目九〇七地	同	紀ノ川松之助	南二二二四	
六	同	船出町八〇五地	同	谷五六郎	南二二三	
七	同	西關屋町七八二地	同	一宮勝三	南二二三	
八	同	惠美須町一丁目九〇七地	同	西村茂三郎	南三八五三	
九	同	九〇七地	同	高木真太郎	南二七七八	
一〇	同	二丁目五九四屋	同	中郵善次郎	南二七七八	
一一	同	四丁目二〇一地	同	芹原義之助	南二七七八	
一二	同	二五九屋	同	蒲生庄太郎	南五二四一	
一三	同	三一七屋	同	蒲生宗吉	南四八七五	
一四	同	廣田町九〇七地	同	杉山常吉	南四八七四	
一五	同	學務委員	同	杉山常吉	南一四三八	
一六	同	選出別	同	杉山常吉	南一四三八	
前	住	委員長	同	杉山常吉	南一四三八	
揭	住	區會議員	同	杉山常吉	南一四三八	

西濱南通三丁目外十四ヶ町區會 (榮部内)

定員 十二人
大正八年四月廿二日總選舉

同	大土地	同	高木真太郎	南二七七八	三一七八
同	市公民	同	平木良哉	南三〇三一	
同	教員	同	山中信造		
同	同	同	高木真太郎	南二七七八	三一七八
同	同	同	平木良哉	南三〇三一	
同	同	同	山中信造		

議席番號

一	住	西濱南通三丁目一二八屋	氏名	岩田庄一郎	電話番號	櫻八九一
二	同	中通三丁目三二地	同	三浦繁吉	櫻八九一	
三	同	南通二丁目三一地	同	鈴木光一	櫻九三〇	
四	同	北通二丁目二八屋	同	石田爲助	櫻二二八四	
五	同	南通三丁目一一地	同	沼田嘉一郎	櫻二二五	
六	同	六七地	同	西森源兵衛	櫻二二五	
七	同	北通二丁目四地	同	成瀬亦次郎	櫻三六〇	
八	同	中通二丁目一四〇地	同	笹井新一郎	櫻三六〇	
九	同	北通二丁目一〇四九屋	同	中井松治郎	櫻三六〇	
一〇	同	四丁目一四〇五屋	同	岸岡政次郎	櫻四一八	
一一	同	一丁目五三七地	同	岸岡政次郎	櫻四一八	
一二	同	中通二丁目一七三地	同	柴田彌三松	櫻一〇九	

一〇	長堀橋筋二丁目二三二屋	大寶	本田友衛	南三四二〇
一一	大和町一五地	道仁	荒川吉三郎	南五九七九
一二	日本橋筋五丁目五一地	高津	水谷松太郎	南三六九一
一三	高津町四番丁三四九屋	同	熊田嘉久馬	
一四	御藏跡町二三三屋	同	中納彌兵衛	
一五	高津町七番丁二九地	同	林太藏	
一六	難波新地二番丁二二三屋	同	上田忠三郎	南一一四〇
一七	同反物町一三二六地	難波	吉田楠次郎	西三三一二
一八	西園手町一〇三二地	同	大川柳三郎	櫻二四四四
一九	稻荷町三丁目九〇八地ノ一	同	小川基一	櫻八一六
二〇	河原町二丁目六四一九屋	同	中村末松	南六七二〇
二一	難波元町二丁目五六一地	同	橘善四郎	南五四七
二二	難波新川一丁目七〇二地	同	近藤猶光	櫻一〇九三
二三	河原町一丁目一五四地	同	村田長造	南二五四六
二四	難波櫻川三丁目一三七三三	同	西井猪之助	
二五	木津驛町一丁目二八屋	同	粉川市兵衛	
二六	同 大國町二丁目一三七五地	同	江田甚三郎	
二七		同	津	
二八		同	木	
二九	惠美須町二丁目五二地	同	惠美	

三〇	同 一丁目九〇七地	同	紀ノ川松之助	
三一	同 四丁目一九七地	同	加藤次兵衛	
三二	西濱北通四丁目一四〇五屋	同	澤井清兵衛	
三三	阿倍野筋二丁目三七四三三	天王寺	馬場常治郎	
三四	天王寺伶人町四八六八地	同	萩納彦兵衛	
三五	大道二丁目四〇二六地	同	仕合駒次郎	
三六	天王寺伶人町四八六六地	同	森川要藏	南二一八八
三七	同 椎寺町五〇三八地ノ二	同	石田定吉	南一〇七五
三八	横堀七丁目六一屋	同	蘆池三浦直三郎	

區有建造物火災共濟豫備委員
(南區内) (定員十六人)

住	所	選出聯合	氏名	電話番号
內安堂寺町一丁目二一屋		育英	寺島清次郎	南五七九七
末吉橋通四丁目二二地		金歐	勢山庄太郎	船二四二
笠屋町六地		大寶	井上吉松	南三八五

日本橋筋四丁目一九七地
難波元町三丁目一三五地

高津 梶川兵吉
精華 十石伊兵衛
難波 未定
木津 未定
惠美 未定
榮美 未定
天王寺 未定
天財 未定

南五七三八

南區青年會團正副團長

住所其他記號ナキ者ハ名譽職其他ノ兼務者ニ付略ス

桃園
北桃谷町三九地

團長 高山圭三
副團長 八木庄三郎

南 七五七

(北區名譽職)

北區野田町外九十三ヶ町區會議員

定員二十一人
大正七年一月二十日總選舉

議席番號
一 中之島四丁目六八屋

氏名
山下三五郎

電話番號
土一七二三

二 岩井町二丁目二二五屋
三 天神橋筋三丁目二〇地ノ一
四 木暮町七地
五 龍田町八二地
六 天神橋筋二丁目八〇屋
七 天神橋筋一丁目二六屋
八 老松町三丁目二二地
九 南安治川通二丁目二地
一〇 岩井町一丁目二八地
一一 天神橋筋三丁目二九六屋
一二 樋上町三七地
一三 朝日町九九屋
一四 堂島中二丁目一〇地
一五 信保町一丁目三六地
一六 綱島町三八屋
一七 空心町一丁目四二地
一八 會根崎新地二丁目四六地
一九 富島町六一地
二〇 會根崎新地一丁目四九地

議長

上道菊治 北四一〇三
梶原義三郎 北二二三
伊丹榮助 北二三一五
大村清七 北四一六五
上田孝次郎 北五一七〇
增田種松 北三二二八
中井熊太郎 北二四九六
上念政七 西一八九

副議長

黑田吉右衛門 北四〇四五
片山增五郎 北二二四三
筑田太七 北四五六四
山瀬徳次郎 北五七七
井上元三郎 北三六七〇
淺利弘次郎 東三一二
北井龜太郎
澤井詮勇
大西熊吉 北二〇七
稻垣幸太郎 西四一六
廣谷新太郎 北一一四一

逕進高等小學校學務委員

住 所	選出別	氏 名	電話番號
老松町二丁目一三二屋	公民委員長	齋藤 周吉	北一九二七
第一盈進高等小學校長	教 員	西谷 庄藏	

一聯合 野田町外十二ヶ町區會議員

定員十四人
大正七年十月十五日總選舉

一	東野田町二丁目二〇二屋	增田 多兵衛	
二	相生町三五〇屋	村上 源十郎	
三	東野田町三丁目三七八地	熊田 兵藏	
四	相生町一六二屋	後藤 佐右衛門	東 四八
五	東野田町五丁目一五八地	川口 富治郎	
六	東野田町六丁目一五五地	國田 勘藏	
七	野田町二九屋	阪本 利三郎	
八	網島町二二屋	澤 宇 一	東八〇四 八〇五
九	相生町一二地	武田 房太郎	東 七八四
一〇	相生町四四五屋	米澤 源壽郎	東 四三三
一一	新喜多町三七〇地	新東 定太郎	
一二	東野田町一丁目四三五地	川口市右衛門	

一三 東野田町一丁目二八九地
一四 相生町九〇地

野村 藤藏
入江 德太郎
東 三八五

櫻宮尋常小學校學務委員

野田町二九屋	議員	阪本 利三郎	東三七九四
東野田町三丁目三〇七地	公民委員長	織田 安治郎	
櫻宮尋常小學校長	教 員	原谷 四郎一	

二聯合 川崎町外十三ヶ町區會議員

定員十六人
大正八年十月三日總選舉

一	空心町一丁目四二地	澤井 詮男	
二	岩井町一丁目二八地	黒田 吉右衛門	
三	壺屋町一丁目四〇地	村田 俊彦	北二九〇四
四	天満橋筋一丁目一〇六屋	小山 松兵衛	北一八四七
五	瀧川町五六地	北本 力藏	北四三六九
六	瀧川町一五八屋	清水 清吉	北三七八三
七	白屋町三七地	小西 爲吉	北五二〇〇
八	壺屋町一丁目一三三屋	淺井 熊丁郎	
九	壺屋町一丁目一五地	林 久次郎	

- 一 岩井町一丁目二地
- 二 河内町一丁目五〇
- 三 金屋町一丁目六目屋
- 四 龍田町六三〇
- 五 信保町一丁目三六〇
- 六 河内町二丁目一〇〇ノ二

瀧川尋常小學校學務委員

- | | | |
|-------|-------|-----------|
| 議員 | 村田俊彦 | 北二九〇四 |
| 同 | 澤井詮男 | |
| 公民委員長 | 淺利弘次郎 | 北四四一 三六七〇 |
| 教員 | 奥田八治郎 | 北四〇四〇 |

三聯合 金屋町二丁目外九ヶ町區會議員

定員六人
大正八年十月四日總選舉

- 一 天滿橋筋二丁目三〇〇ノ一
 - 二 空心町二丁目三九三屋
 - 三 天滿橋筋三丁目四〇
 - 四 天滿橋筋二丁目二七地
 - 五 岩井町二丁目二二五屋
- | | | |
|----|-------|-------|
| 議員 | 森猪之助 | 北三二九〇 |
| | 櫻井爲吉 | 北三五五九 |
| | 大橋導雄 | |
| | 村井藤兵衛 | |
| | 上道菊治 | 北四一〇三 |

- 六 松ヶ枝町二七〇
 - 七 信保町二丁目九〇屋
 - 八 天滿橋筋三丁目三〇〇
 - 九 金屋町二丁目四二〇
 - 一〇 天滿橋筋四丁目六二屋
 - 一一 天滿橋筋三丁目二〇
 - 一二 天滿橋筋四丁目一七屋
 - 一三 岩井町二丁目二七屋
 - 一四 空心町二丁目六五〇
 - 一五 空心町二丁目三三屋
 - 一六 松ヶ枝町一九〇
- | | | |
|-----|-------|-------|
| 議員 | 橋本種次郎 | 北三七九二 |
| | 東田定吉 | 北四一〇二 |
| | 千草保三 | 北三九二八 |
| 副議長 | 西田虎樹 | |
| | 野村吉兵衛 | |
| | 杉本安兵衛 | 北五〇六九 |
| 議長 | 松永清吉 | |
| | 中谷土川松 | 北四〇六三 |
| | 足立瀧藏 | 北三一九四 |
| | 仲谷彌太郎 | |
| | 河野廣太郎 | |

松枝尋常小學校學務委員

- 松ヶ枝町二七〇
 - 天滿橋筋三丁目一五〇ノ一
 - 松枝尋常小學校長
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 議員 | 橋本種次郎 | 北四一五七 |
| 公民委員長 | 成川龜治 | 北一六〇 |
| 教員 | 佐藤健吉郎 | |

四聯合 此花町一丁目外七ヶ町區會議員

定員十一人
大正八年五月十三日總選舉

- 一 天神橋筋二丁目三七〇
- 中尾龍太郎
- 北四〇七八

二	天神橋筋一丁目二六屋	議長	增田種松	北三三二八
三	鳴尾町二八〇		齋藤房造	
四	天神橋筋一丁目八八〇		有岡直七	北三〇一〇
五	天神橋筋一丁目三一〇		梶彦兵衛	北二八九三
六	天神橋筋一丁目七七〇		熊木安次郎	北四六一九
七	菅原町八〇	副議長	木村吉三郎	北四五七〇
八	天神橋筋五八ノ甲		櫻井孫兵衛	北三七五五
九	此花町一丁目二屋		大谷榮三郎	東三七七八
一〇	天神橋筋一丁目一二九屋		三瀬伊太郎	北三〇八〇
一一	市之町八〇		福岡久七	三〇八一
一二	菅原町五五〇		吉野源造	北一三三一

菅南尋常小學校學務委員

議長委員長	福岡久七	北三四九八
公民	福井藤兵衛	
教員	泉原龜藏	

五聯合 綿屋町外十一ヶ町議會議員

定員二十一人
大正八年十月七日總選舉

副議長 正司 太郎

二	天神橋筋四丁目四三屋	速水彌一	
三	末廣町八一屋	池本市兵衛	
四	天神橋筋三丁目九二〇	神田吉兵衛	
五	天神橋筋四丁目五六〇	吉田龜次郎	
六	大工町一二〇	西村新兵衛	
七	大工町六〇〇	原盛千代	北三一五八
八	紅梅町二〇	古谷元義	北三七六一
九	此花町二丁目一九二屋	小川芳兵衛	北四九九〇
一〇	同 二丁目三六地	野村留吉	北四四五四
一一	南森町二七屋	林藤兵衛	
一二	天神橋筋二丁目二一屋	村井彌右衛門	北四二五五
一三	同 三丁目四五屋	鹿田喜太郎	北三〇四〇
一四	同 四丁目二七地	上村山太郎	北三〇四九
一五	同 三丁目八〇地	大橋安太郎	

堀川尋常小學校學務委員

議長	原盛千代	北三七六一
同	吉田龜次郎	
公民委員長	泉谷宗兵衛	北三五七一

堀川尋常小學校長

教員 和田孫三郎

北四〇六〇

六聯合 樋上町外十一ヶ町區議員

定員 四人
大正七年十二月十一日總選舉

- | | | |
|----|-----------|--------|
| 一 | 伊勢町三一地 | 林 喜代松 |
| 二 | 木幡町六〇地 | 田中 鐵之助 |
| 三 | 眞砂町三二地 | 渡邊 伊助 |
| 四 | 伊勢町一八八屋 | 鹿島 爲次郎 |
| 五 | 富田町二六三屋 | 津國 民藏 |
| 六 | 老松町一丁目二六地 | 大北 準一郎 |
| 七 | 樋上町一六四屋 | 筑田 太七 |
| 八 | 老松町三丁目一〇地 | 桑原 善兵衛 |
| 九 | 樋上町三六地 | 菱谷 清兵衛 |
| 一〇 | 源藏町五屋 | 小松 伊助 |
| 一一 | 老松町三丁目八六屋 | 仁村 條三郎 |
| 一二 | 同 一丁目一三三屋 | 齋藤 周吉 |
| 一三 | 木幡町七一地 | 伊丹 榮助 |
| 一四 | 源藏町一屋 | 本出 政治郎 |

西天滿尋常小學校學務委員

- 樋上町一六四屋
- 富田町二六三屋
- 眞砂町一九二屋
- 西天滿尋常小學校長

- | | |
|-----|--------|
| 議員 | 筑田 太七 |
| 委員長 | 津國 民藏 |
| 公民 | 一瀬 爲三郎 |
| 教員 | 椋本 辰治郎 |

北二二四三
北一三八〇
北一九〇

七聯合 堂島濱通一丁目外十三ヶ町區會議員

定員 十四人
大正八年五月十四日總選舉

- | | | |
|----|--------------|--------|
| 一 | 堂島裏三丁目三五地 | 田中 勘吉 |
| 二 | 同 三丁目二七地 | 谷田 捨吉 |
| 三 | 會根崎新地一丁目一四地 | 笠原 種吉 |
| 四 | 堂島裏一丁目一六地 | 橋留 七平 |
| 五 | 同 中二丁目四七地 | 梅垣 品藏 |
| 六 | 會根崎新地二丁目四六地 | 大西 熊吉 |
| 七 | 同 一丁目四九地 | 廣谷 新太郎 |
| 八 | 堂島裏三丁目二八地 | 菅 常太郎 |
| 九 | 堂島濱通一丁目一八地 | 吉岡 爲次郎 |
| 一〇 | 堂島裏二丁目一七〇屋 | 鈴木 重藏 |
| 一一 | 會根崎新地二丁目甲四〇地 | 吉川 清兵衛 |
| 一二 | 堂島裏三丁目一屋 | 泉 久兵衛 |

一三 堂島濱通一丁目二三〇屋
 一四 堂島中一丁目四一地ノ一
 副議長 横川米治郎 北八六五
 今村八郎 北一四三五

堂島尋常小學校學務委員

堂島裏二丁目一七〇屋 議員 鈴木重藏 北一四六一
 濱通一丁目一二三〇屋 同 横川米治郎 北八六五
 同 船大工町二九地 公民委員長 濱崎定吉 北九四七
 堂島尋常小學校長 教員 野村菊太郎 北四五〇

八聯合 中之島一丁目外十ヶ町區會議員

定員十二人
 大正八年十月八日總選舉

一 中之島四丁目一九地 大久保眞次郎 土三二四二
 二 同 五丁目四六地 河野理兵衛 土一四六八
 三 同 七丁目一〇地 高麗清次郎 土一三四四
 四 玉江町一丁目一〇地 富士齋 土六八七
 五 中之島四丁目二四地 福谷恒太郎 土一〇二四
 六 宗是町一四屋 山口幸七 土二二二五
 七 中之島四丁目六八屋 山下三五郎 土一七二三
 八 同 七丁目八八屋 芝本半兵衛 土二四九三
 土二二一七
 土二九五

九 常安町一一六屋 石西清次郎 土二二二四
 一〇 宗是町一一屋 林茂治郎 土九四四
 一一 中之島四丁目二〇地 矢吹孝次郎 土三一四一
 一二 常安町九地 磯上上右衛門 土三一四一

中之島尋常小學校學務委員

常安町九地 議員 磯上平右衛門 土九四四
 宗是町一一屋 公民 林茂治郎
 中之島尋常小學校長 教員 森喜代造

九聯合 安治川上通一丁目外四ヶ町區會議員

定員十一人
 大正八年五月十五日總選舉

一 北安治川通一丁目九地 西村義雄 土三五七二
 二 同 一丁目一七地 山田吉造 土三九〇一
 三 安治川上通一丁目二二六屋 山田龜太郎 土一〇五二
 四 北安治川通三丁目六四屋 竹林龜次郎 土二一五一
 五 安治川上通一丁目一八五屋 西川宗七 土七八〇
 六 北安治川通二丁目一九地 白藤丈太郎 土七八〇
 七 安治川上通一丁目一八地 長谷川清治 土七二〇
 一五五一

八 北安治川通二丁目二地 副議長 猶崎 米吉 土一九三
 九 同 三丁目一三 山本 勇吉
 一〇 同 三丁目一五 谷川 國三郎 土二四六九
 一一 同 一丁目八七 芝池 庄太郎 土二七八四
 一二 安治川上通一丁目三〇 安田 順太 土九七二

青分尋常小學校學務委員

北安治川通一丁目一七地 公民 山田 吉造 土三九〇一
 青分尋常小學校校長 教員 野田 安治郎 土五〇二

十聯合 南安治川通一丁目外四ヶ町區區會議員 定員 十四人
 大正八年五月十六日總選舉

一 南安治川通二丁目三〇地 多賀 定三 西三〇六六
 二 古川町二五地 島谷 島太郎 西一八五
 三 南安治川通三丁目一 西尾 小五郎 西一五三八
 四 同 三丁目二〇地 加藤 佐兵衛 西一五三八
 五 同 一丁目一八地 島田 喜十郎 西六七二
 六 同 二丁目六三 中平 清治郎 西六九二
 七 富島町四七二屋 津田 藤三郎 西四〇五二

八 古川町甲三地 高橋 源七 西二一八二
 九 富島町七八地 藤原 信吉 西一五二八
 一〇 南安治川通一丁目一 浮田 元平 西一八一九
 一一 同 二丁目二五 島田 小佐久 西一七二三
 一二 同 二丁目四一 結城 林清 西一四三七
 一三 富島町二九九屋 勝浦 俊吉 西一八三三
 一四

安治川尋常小學校學務委員

南安治川通一丁目二五地 議員委員長 島田 小佐久 西三八八〇
 同 二丁目二地 公民 井上 輝雄
 安治川尋常小學校校長 教員

都島聯合 善源寺町外二ヶ町區區會議員 定員 十一人
 大正八年四月十四日總選舉

一 澤上江町四〇三地 古山 宇一 東一〇六〇
 二 善源寺町一三七地 吉田市次郎 東二二六四
 三 中野町五屋 浦野 音松
 四 澤上江町六一屋 籤内 富三郎

五	同	三五九地	副議長	山野平一	東七三九
六	善源寺町一〇屋		議長	青野龜三郎	
七	中野町九屋			野々村種藏	
八	善源寺町三四四地			森田萬次郎	
九	澤上江町二二一〇地			大西與之助	東二九七四
一〇	善源寺町三一九地			岡本鶴三郎	
一一	澤上江町一九屋			西本衆治郎	
一二	善源寺町二四八			三橋國松	東六〇八

都島尋常小學校學務委員

澤上江町四〇三地	議員委員長	古山宇一	東一〇六〇
中野町二二三地	公民	野々村亮吉	東三五七四
都島尋常小學校長	教員	稻葉俊治	東一〇九二

川崎聯合北野佐藤町外五十一ヶ町區會議員

定員十六人
大正八年四月八日總選舉

一	南同心町二丁目四四九地	田中源之助	北三五七三
二	野崎町一〇八九地	沼津米太郎	
三		杉本藏之輔	北三一五五
四	天神橋筋東四丁目一〇三六地		

五	北野高垣町二三五九屋	藤井音松	
六	天滿橋筋西三丁目三二屋	村上熊太郎	
七	北野堂山町四四八地	中井源右衛門	
八	北野高垣町二三八三屋	杉浦理三郎	
九	東梅ヶ枝町一一二四屋	西村房之助	
一〇	南濱町六七地ノ三	中尾捨一	北一二二三
一一	北野兎我野町七八五地ノ一	松居嘉一郎	北三三八六
一二	天神橋筋五丁目一五七地	佐竹庄七	北三七四四
一三	北野芝田町一六五地ノ一	小寺龜吉	
一四	同 一八七地	松本甚之助	北八一
一五	本庄葉村町一三〇〇地	中島富藏	
一六	北野太融寺町六八五地	杉本庄藏	北三三九七

川崎、北野尋常高等小學校學務委員

南濱町六七地ノ三	議員委員長	中尾捨一	北一二二三
北野高垣町二三五九屋	議員	藤井音松	
同 堂山町四六四地	公民	杉本治三郎	
濟美第二尋常高等小學校長	教員	山村仙一郎	北二〇二

會根崎聯合 會根崎永樂町外十ヶ町區會議員

定員十四人
大正八年四月十五日總選舉

一	會根崎上二丁目八八地	林 芳太郎	北 七七六
二	同永樂町一九四〇屋	河合 仙助	北 一五六六
三	東梅田町三〇〇地	淺田 高藏	北 一一二二
四	會根崎中二丁目一九四地	祖父江 捨造	北 二六四三
五	同上二丁目三六地	菰池 彌三郎	北 一〇八二
六	梅田町三三六地ノ二	吉本 重光	北 一〇三五
七	東梅田町三二一屋	土生 友次郎	北 一五五五
八	會根崎上二丁目八八地	古川 槌之助	北 二二九二
九	同中二丁目九八三屋	中島 太郎兵衛	北 二二〇八
一〇	同中二丁目一九一三屋	吉本 彦太郎	北 二二一三
一一	同上四丁目二九六地	古林 丈太郎	北 四四三
一二	同上三丁目一六三三	渡邊 新右衛門	北 七七六
一三	同上二丁目八三六屋	石川 宗兵衛	
一四	同永樂町一九三三屋	松田 喜太郎	

會根崎尋常小學校學務委員

會根崎中二丁目九八三屋
同 上二丁目八八地

議長 中島 太郎兵衛
議員 林 芳太郎

北 七七六

同 上二丁目八三六屋
會根崎尋常高等小學校長

公民委員長 石川 宗兵衛
教員 松尾 松三郎

北 二二〇八
北 五〇一〇

上福島聯合 上福島一丁目外十ヶ町區會議員

(定員十六人 大正八年四月七日總選舉)

一	上福島一丁目四七二地	副議長 平谷 歡次郎	土 三三九九
二	同 四三三三三三三三	豐田 儀兵衛	土 三〇七九
三	同 北二丁目一〇二地	佐保田 熊次郎	土 二六二〇
四	同 北一丁目一三六	山中 惣次郎	
五	同 中二丁目三四〇地	北村 九輔	
六	同 三丁目二九五地	議長 長谷川 漣	
七	同		
八	同 二丁目六九四地ノ一	今北 常三郎	土 一三二八
九	同 中一丁目五〇一地	藤原 喜三郎	土 一四五四
一〇	同 二丁目七五三三三	上野 吉次郎	
一一	同 一丁目四七〇地ノ一	西川 廣厚	土 三三六
一二	同 北三丁目一九〇地ノ一	藤井 友吉	土 二六〇九
一三	同 中四丁目二四三三	黒川 靈巖	
一四	同 北三丁目二〇九 二二〇合地	星野 久平	

一五 同 三丁目三七三屋
 一六 同 北一丁目六二地ノ七

上福島尋常小學校學務委員

原田 調兵衛
 島 彦次郎

上福島北一丁目六二地ノ七
 同 二丁目七五三地
 同 五九四地ノ一
 第一上福島尋常高等小學校長

議員 委員長
 同 委員
 公 民
 教 員

島 彦次郎
 上野 吉次郎
 京谷 源次郎
 西田 音太郎

土三三八八
 土八〇二

下福島聯合 下福島一丁目外五ヶ町區會議員

(定員十二人 大正八年四月十日總選舉)

一 下福島三丁目一七九地
 二 同 二丁目三七二屋
 三 同 三丁目一九四地
 四 同 二丁目二六〇地
 五 同 六三六屋
 六 同
 七 同
 八 同 二丁目三六四地

春名 六郎
 井上 房太郎
 平田 松三郎
 曲直部 庄次郎
 島本 利吉
 白谷 吉五郎

土九六五
 土四三〇八
 土二二六〇
 土七二八
 土一〇九三

九 同 三丁目二二三地
 一〇 同 三丁目七一地
 一一 同 二丁目二五地
 一二 同 二丁目三〇五地

村井 宇吉
 岡本 種次郎
 岡野 德次郎
 松野 嘉

土三六九九

下福島尋常小學校學務委員

下福島二丁目二六四地
 同 三丁目二三〇地
 下福島尋常小學校長

議員 委員長
 公 民
 教 員

白谷 吉五郎
 三宅 種次郎
 榎本 嘉與彦

土九〇一

西野田聯合、西野田平松町外二十四ヶ町區會議員

(定員十六人 大正八年四月十二日總選舉)

一 西野田玉川町一丁目一〇九屋
 二 同 草開町八一地
 三 同 龜甲南之町一二四地
 四 同 玉川町三丁目四七一屋
 五 同 大野町一丁目一二九四屋
 六 同 玉川町二丁目一四一八地
 七 同 江成町三〇四地

森 長三郎
 藤本 八次郎
 白谷 輝光
 宮本 富藏
 田中 喜三郎
 古谷 松太郎
 西野 千太郎

土一三三三九
 土一九五九九
 土二四五三
 土一三三三四
 土三三三六四
 土五一九〇

八	同	大開町八一四地	議長	森田四郎兵衛	北三八二九
九	同	玉川町二丁目三三九屋	議長	余部市郎兵衛	北三一三三
一〇	同	二丁目一四四四地	議長	池永恒太郎	北三一三五
一一	同	今開町五八八地	議長	阪本幸七	北三一七四〇
一二	同	玉川町一丁目一五三八地	副議長	豊田宗太郎	北三一三三
一三	同	今開町六〇〇地	副議長	谷幸吉	北三一三五
一四	同	新家東之町三一四地	副議長	松浦俊次郎	北三一三五
一五	同	今開町五七八地	副議長	田中喜一郎	北三一三五
一六	同	中江町二二〇地	副議長	森田寅次郎	北三一七四〇

西野田尋常高等小學校學務委員

西野田玉川町一丁目一五三八地	議員	豊田宗太郎	北三八二九
同 新家西之町五三八屋	公民委員長	松本辰藏	北三八二九
第一西野田尋常小學校長	教員	大塚光正	北五二〇

追分 天満橋筋二丁目外三ヶ町區會議員

一	空心町二丁目三九三屋	櫻井爲吉	北三二九〇
二	天満橋筋四丁目一七屋	松永清吉	北三二九〇

(定員十二人 大正八年五月十七日總選舉)

三	同	三丁目二地	議長	杉本安兵衛	北五〇六九
四	同	三丁目一五地ノ一	議長	成川龜治郎	北四一五七
五	同	空心町二丁目六五地	副議長	足立龍藏	北四〇六三
六	同	天満橋筋二丁目一八七地	副議長	山崎常次郎	
七	同	天満橋筋四丁目六二屋	副議長	野村吉兵衛	
八	同	四丁目一〇八屋	副議長	藤井正吉	
九	同	空心町二丁目一六地	副議長	森德三郎	
一〇	同	天満橋筋二丁目一八一屋	副議長	駒井徳三郎	北四四五一
一一	同	天満橋筋二丁目一八一屋	副議長	仲谷彌太郎	北三一九四
一二	同	空心町二丁目三三屋	副議長	仲谷彌太郎	北三一九四



市學務委員
坂部二郎氏

⊠……多士濟々の大大阪市の公民から選舉されて居る市學務委員の地位其ものは別段偉い事も有り難い事もないのであるが之れを客觀的に觀察すれば一種の議員選舉であつて實は府市會議員たる以上に激しい洗禮を受けねばならぬ、從

つて當選すると否は洵に其人々の勢力を試練される様なもの随で分云難極るものである、全市を大阪市では大小コキ交ぜ今の所六十四學區に區別して居る、而して各學區毎に一人の委員長を選んで更に委員を特設して居る、これが則ち市學務委員の地盤とも稱すべき立脚地なのだ、其得票に依つて僅々四名の公選委員を選択するのであるから頗る非常な苦心も必要なれば勢力も肝心なのである、此の選に入つた面々は他日府市會議員に乗り出すとしても全く易々たるものでアワよければ衆議員に打つて出る位は少し努力すれば事足りる理由がある、坂部君は難を關恰も暗の三十夜を苦もなく割つて出た朝日の如く……はは大袈裟であるが併し其の通り是非とも推し立てられた市學務委員の一人である

☒……既に大正八年に於て彼れは其地位に選出され大正十年文句なしに再選出されたのだ、従つて消息通間には逸早く府市會に名乗り出し近き將來には更に百尺竿頭一步踏み込んで衆議院に坂部ありと知られるだろうとさへ唱導されるのである、當の本人は一切を水に流して素知らぬ半兵衛をキマ込んで居るから果して推測や風評が實現するかドウか單に地盤關係から推せば成程十二分に可能性がある、問題は畢竟當人の心一つで決せられる譯けた、其財力の如きは心配無用山程御座る其金力も其勢力もを有し年齢未だ壯年氣鋭である坂部君は心底私かに期する所ある事勿論であらう……兎に角君は消息通間に屈指されて居る大阪政界の暗黒馬である、何時奔逸擡頭するか知れぬ利者である、殊に其全身を傾倒して勵む所の趣味は悉く政治其ものである、性來彼れは政治云ふものと切つても切れぬ因縁關係を結んで居る、大さなく小さなく苟も政治的圈内の事象には彼れが首を突き込み彼れが疾驅せぬもの凡そ無い程で、ソレが又彼れ自體が心から興味を有ち熱を持つて行つて居るのだから所説は天下の坂部たる途に走つて居るのであらう

☒……君は根が政治好きであるから所屬東區でも選舉界の雄大な城廓となつて居るのだ、君が居城の地盤は牢固であつて優勢である、而して各選舉に亘つて關係を有つべき單位的な地盤であるから府市會及び中央議會の各政戦に當りては是非ともなくてはならぬものとなつて居る、従つて坂部君の去就如何は直ちに各級選舉戦の勝敗を決する鍵となるのだ

過般の衆議員の總選舉にも大ひに其潛力を發揮したものである、次回は何づれに就くか未だ海のものとも山のものとも決定はして居ないが君の足の向き次第で向いた方に軍配が上がるに相違ないのだ、坂部君は叙上の如き立場にあつて市學務委員となつて居る、同時に大正十年六月以降には商業會議所議員に當選し益々政界に翼を擴けつゝあるのである

☒……彼れは洵に輕快な性格を有つた人好きのする男である、一寸池上市長を縮少した様な型で抱擁力はモット上手である、最初の取り付きは何んもなく殺風景であるが併し乍ら彼れは何時何人に對しても表裏ない卒直な所を以て實際するので十年でも二十年でも果ては一ヶ月でも初會でも凡て同じ調子で行くのだ、従つて知り合へば合ふ程親みが更に深くなつて行くのである、然も彼れには尺度を許さぬ膽玉があり針の様な鋭い透視力がある、而して多年外國仕込で鍛へ上げた社交術があるので一段と優れた觸りが介在するのだ、勿論彼れにも相當性癖もあれば圭角もあり足らぬ修養も見出されるがそれは人間味を失はない所として却つて保存して置き度いものだ、私人としし公人としし將來多き政客として此上ヨイ方面ばかり進んで終つたならば恐く彼れの長所を自由に發揮し得ざる機會を與へる事となるから坂部君の爲めには今の儘現在の卒直な男として始終した方がよ

☒……彼れの社交上手と言へばそれは思ひ遣りの深い勞苦を厭はぬ、而して奉仕的である事を持って囃されて居る、彼れは相手方の貴賤貧富の差別なんか更にせない、甲が乙になつても乙が丙になつても一糸亂れず首尾一貫したもので單調でないのだ……君に云はせると俺れの心を除して控相手方の心と心とするのみだとあるがコレが六ヶ敷いものだ、多くは俺れの心を以て人の心とするのが普通だ、然るに君は云ふが如くテキパキ其實行をする、少しも亂れずにやつて除けるそれでも何等の苦痛もないのである、抑も彼れは分外な智畧を有し分外な手腕と實力を有つて居るのでなければ不可能でないか、近い例が大阪市が英國皇儲殿下の御召艦レナウン及び供奉艦ダーバンの將卒を招待した時坂部君は南の演舞場で得意の社交術を發揮した、當時數回に亘つてストラ／＼と通譯したり演説を試みたりして珍客を呀ッと言はせ

た就中英語演説や接待の巧妙などは當人の客人ウヰリヤム君が激賞した程であつた

☒……彼れは京都府下丹波の國は龜岡町即ち舊明智光秀の居城下に出生、京都第一商業學校の第一期卒業生として直ちに濱岡光哲經營の關西貿易會社に入り米國支店詰を命ぜられて紐育に到り明治二十八年米國に入りて初めて刷子事業に従事した、而して同三十四年所屬商店の破産と共に辭職するや決然起つて自ら紐育に日本刷子直輪業を營み次第に成功するに従ひ自家の工場を經營すべく三十九年歸朝し坂部商會を起し擴大なる工場を設けて専ら英米特約店と提携し刷子の直輪をなして居る、業務益々發展するに及んで彼れは更に大正四年株式會社とし自ら社長となり將に百萬の富を造りつゝあるのだ、大正六年始めて東區會議員に擧げられ以て市學務委員、商業會議所議員に當選一方に私人として努力し他面公職に忠勤して居る



市學務委員

上田丹治郎氏

☒……遺曆に近い年輩を以て公共事業に盡瘁し寢食を忘る、篤志家は節辛い現代に於ては甚だ稀れである々之偶れあるにしても一種の榮譽に執心なものか然らずんば極めて掲揚的な心底から行ふものが多い、此間に起ちて眞に公共其も

のを生命とし常住座收悉く公益に殉ぜんとする人は甚だ僅少である、上田君は最早六十才に間近い人である、然も蹉跎として壯年に劣らず銳氣敢然として群輩を抜き而して心のおん底から共同生活の社會に奉仕せんとして居る謂はゞ當代稀れに見る人柄である、彼れは寸時を割いて自己の一生に目覺しい足跡を印刻せんとして居る、生きて居る……生きて居り間が則ち花である、人生死せば一塊の骨粉だ骨灰を以て偉大を誇るに足らぬ寧ろ生前の努力を叙して天命に報ゆべきであるミ彼れは懸命に努力する人だ、

☒……過去を顧みるは現在を警めんが爲めでなければならぬ現在を努力するは以て將來をなせんミするからである人間一生を通じて總決算をする時死に面して多く不及不足を痛感するものだ、行く手を望めば生の終焉洵に迫り振り返れば遺憾事が累々として横つて居る茲に於てか執念は妄念を生み未來淨土を想定して微か乍ら既往の遺慰を此處に嬌めんとはするのだ、則ち宗教に憑つて甦らんミ冀ふのである、併し乍ら生死を貫く無限の絃は必ずしも將來人をして甦らすものではない、左すれば現在の生存に不忠實ならば未來に於て償ふべからずと斷定するのが至當であらう、従つて勿體ない人生は實在する間に懸命の功績を積み努力するのが尤も至賢の途である、上田君は知るや知らずや理屈はデント語らずして此の方針で日常生活を送つて居る人である、

☒……彼れは凡そ努力の前に脅威なし現世の外に盡身奉仕の機會なしミ確信するが如くヨク力進奮闘公共の爲めに第一線に乗り出して骨身惜まず竭して行くのだ、然も彼れは一面此の努力を試みるミ同時に他面自分自身の生業に縱横無盡に向上を計つて居る、これは随分六ヶ敷い事ではなからぬ、若し夫れ上田君にして只單に公共に力を致す事が所謂私心ある結果ミするならば自ら兩刀を使はれない筈だ、然るに甚だ自然の態度で美事兩面をやつて除けるのみならず既にして公私一體の審美觀に立ち入つて居るのだから如何しても彼れ上田君の心緒は天真日月ミ競ひ爛熳花の如く美しく且つ清うかである勿論人間味は性來あるのであるのから空景氣の賞め倒しではない、上田君だつて相當滑稽だの奇抜

だのこな方面だの夫れく、隠れた部面に人間としての面白い逸いがあるら天人の間違ひではならぬ、兎に角彼れは俗脱したる精神の持主である

⊗……彼れは元治元年九月大阪市西區三軒家に生れ明治八年から十三年迄未だ第六番小學校に三軒家小學に學んだ而して十三年から十七年迄を府立大阪中學校に修業して卒業した人である、更に其後は五十川左武郎氏に就いて漢學を收め吉村秀三氏の門に入つて英語を研究したのであるが明治二十四年に至つて三軒家郵便局取扱人（即ち局長）になつて社會の實相に觸れたものである、而して二十七年には日本製綿株式會社社員となり三十六年迄前後實に十年間懸命に斯業を研究した、尙其間明治三十年には自ら製綿工場を設置し販賣業を經營し着々成功しがた從來の舊家三上田君自體の勝れた才能人望とはよく衆望を得て三十二年大阪三軒家聯合區會議員に送出さるゝに至つた、一方彼れは公人として努力するに共に私人的建設も忘れない、則ち明治四十年三月日本シャツル製造會社を設立し足掛四ヶ年間大ひに業を行つたのである

⊗……君は目下製綿工場主三軒家郵便局長、聯合區會議員、市學務委員等の背負ひ切れぬ程の公職を帯び孜々市の爲めに貢獻して居る、彼れの特技は詩詞であつて漢學に世相學から得た禪味である、

西區第五聯合區會議長

井上牛之助氏



⊗……郷土に業を起して郷土に成功する者は由來稀れに見る現象である、多くは郷關を出で、他山に成功するのが常である、一體郷土は餘りに人に知られ過ぎて居る、而して天は自ら援くる者を助く古諺も往々にして冷淡なる人爲の犯す所なるのだ、従つて青年壯士が力を罩めて努力したて畢竟障害が度重なるから遂に身を他山に託して運命を開拓せんとするのだ若し夫れ此常軌を破つて郷土に花を咲せる者あらばそれは耐忍力に於て努力に於て才力に於て恐らく偉大な人格させねばなるまい

⊗……井上君は嚴格な乃父の遺訓を守り人の難しとする所を行つて而して郷土に於て立派に成功したのである、彼れは船場商人の財産家に生れ血の涙を絞つた事もある累煩多き現世を棄て、永劫の世に脱脚せんさへ思ひつめた事もあつた一役冷寒凍るか如き月を仰いで人生行路の難を嘆じ夏の宵虫の音にさへ羨望を懸へた事もあるのだ勿論物質は多くあるが心的方面に修養したのであつた普通の者ならば張り詰めた勇氣も一朝にして喪失し自失して終ふ瀬戸際まで踏み込んで尚且つ彼れは自ら鞭撻したのである、そして今日結構な財産家として公共事業に盡し事業界の花形として重きを爲しつゝあるのだ手繰り來れば井上君の如きは立志傳中の人に相違ない滔々たる現代の華美輕佻に馴れんとする青年壯士は彼れの過去を須く活きた教訓させねばならぬ

⊠……彼れは明治四年大阪市南區安堂寺橋に生れ、葦池小學校を出て育英小學校中等科を卒業したが五人兄弟の末子に生れた彼れは思ふ存分學業を履み難い事情にあつた、則ち幼にして慈母を失ひ専ら長兄の養育を受けたから自然意の如く振舞ひ兼ねたのである、……正月や何はなくとも親二人とはヨク言つた句である年重なつても遺憾なのは父母亡き事柄である況して幼少軟弱の間に杖も柱も頼むべき父母なき身は孤兒の全悲哀をヒシク痛感するのである、人の子は喜々として遊ぶされど我れは沈み勝ちである、斯うした悲想は井上君の頭にも染みくと印刷されて居た、

⊠……彼れは愁傷を小さき胸に納め乍ら健げにも長兄を援け家業に従事したのである、併し感受性に富む彼れの頭には早くも世相の只ならぬ事情に思ひ浮んで決然意を決し志を立て、某煙草問屋に奉公したのであつた、凡ゆる試練に遭過し乍ら彼れは茲に十數年間一日の如く精勤した、而して明治二十九年漸く獨立して自ら卷刻煙草卸業を開業し、結居經營する數年ならざるに天惠益々到りて遂に業務頗る好績を告げ超えて明治三十七八年日露戰役當時の如きは市内同業者の牛耳を執るに至つた

⊠……其後我國に煙草專賣制度の實施せらるゝや其元賣捌指定人に舉げられ西區立賣堀五丁目に大規模の店舗を設け或は元賣捌合名會社を起し其隠れたる指導者となり大正元年更に匿名組合に變更して事實上の指揮を爲すに至つた、行文實に飛行機よりも早く既往の事歴を録す事が出来る、併し乍ら井上君の行路は千變萬化洵に曲折紆餘に富んで居るのだ通じて血涙の迹も稱すべきものである、

⊠……彼れは既に業成り名遂げ財を築いて大正二年來公共事業に渾身の努力を拂つて居る性温厚にして情真美然も事眼よく財界の機宜に徹するので行ふ所着々として効績を擧げて居る其の熱心と偉大さを以て西區五聯合の區會議長となつて居る若し夫れ過去の公職を述べれば大正二年區會議員に當選同四年五聯合衛生組合長、同六年五聯合區會議長七年、廣教後援會幹事長、八年五聯合區會議員並に議長に當選、同時に青年團創立委員に推薦九年、淀川左岸水防組合議員、

同年廣教青年團副團長及び國勢調査委員等數知れぬ程ある、従つて市政界第二線の勢力は頗る力強いものがあるのだ、尙大正十一年五月に入りて井上君は特に選ばれて西區教育會の幹事に推されたのである、



東區七聯合區會議長
松山與兵衛氏

⊠……泰西の偉人は五十年を出發點として大を成す云ふ偶々ピット、グラットストーン其他の傑士は其例を破つて少壯氣鋭を以て業を成したから必ずしも左様に相場が定つて居る譯けであるまい我國に於ては概ね五十年を一期として隱居の制度が因襲的に行はれて來た、従つて其坂を越へるに自ら老境に旅する者の如く老へて終ふ、これが抑も國習的の欠陥であり民族的の恨事である、過去を顧みれば成程此事實を諒からず瞥見される、歴史云ふものが過去の記録であるならば史上にもそれは到る所に窺はれる事柄である、兎にも角にも泰西より以上に我國では少壯者の勢力が多すぎるのだ、併し乍ら最近の傾向は漸く我國にも所謂人生五十年の迷夢を破り六十にして壯七十にして健八十にして益々蹉跎たる状態を示現して來た

⊠……松山君も實は近代日本が生んだ新傾向の一人である而して大隅侯の百二十五才ではないが人間の圓熟期は畢竟

五十六十の關所を超へねば出来ぬものゝ斷定し去る人柄である、其意を時に乘じて叩けば彼れは童顔に波たゞせ乍ら快活に斯様述べる、運は天に在り啓は我れにあり啓無くして運あるべからず運なくして啓は難し然も人生五十年も雖も啓運必ずしも其間に行はれず憶ふに人生五十年は而立を單位とするものかやつて除ける一寸聞くも何んの事はない八卦染みた言句だ、然し嘯しめて御覽じろ頗る哲學的である彼れは更に謂ふ苟も事業を爲さんせば五十年間は基礎工事だ而して餘命の間に花を咲かせるのさゝ洵に穿ち得て妙ではないか、松山君の眞相は常に斯うした奥床しい内面的の作用を續けて居るのだ、従つて彼れが外面的に活躍を心掛け華々しい所作を敢てするのは謂ふ迄もない所だ

⊗……彼れは見よ其意氣も快腕も明晰な頭腦を以て今東區聯合區會議長に擧げられて居る而して過去五十年間に渡つて固めた財的基礎も人格的基調を以て除々に其抱負徑綸を斷行して居るのだ、圓滿にして無圭角なる彼れの光には誰あつて抱擁を拒むものはない勿論當人に謂はせるも老體を甘く祭り込まれて居る迄だも一笑に附するであらうが第三者の正鵠な觀察からすれば確かに君の異常な所に人々は畏敬して居るのである、而して衆望は彼れの行ふ所に隨つて益々加はつてゐる故に現在の東區政界に於ては押しも押されぬ大立者として取扱はれて居るのだ、最近に至つて彼れは無理矢理擧げられて久實青年團の團長となつて青年壯年の探配を執つて居る

⊗……君は現在が斯くの如く隠然たる一大勢力となつて居る次第であるが決して偶然其今日を得たのもなければ情實が君を此處に拉したたけでも無い、彼れが徒手空拳的努力も寢食を忘却する様な勤勉が齎した必然の賜物も謂はねばならぬ君は過去數十年に多大の努力をして來た則ち明治二十五年頃から専ら鐵道事業に従事し讃岐鐵道取締役となつては之れを擴張すべく山陽鐵道も合併し南和鐵道取締役となつては大阪鐵道も合併したのである後高野鐵道に關係中其困難なる時代に遭遇するや則ち英才を揮つて改革を爲し大阪高野鐵道を爲して繼續し取締役として前後五ヶ年よく社運を啓き優退したのである、其間に君は凡ゆる世間の試練に耐へ今日の基礎的工事を終つたのである

⊗……君は則ち實業界に於ても餘勢甚だ多く現に松山本店を經營し株式會社となし尙株式會社松山商會を起して兩社の社長となり雄視して居る君の趣味は甚だ多く書畫骨董煎茶佛像佛畫等汎く堂に入つて居る、又君は先天的に公共事業に親み衛生方面に活躍し時折り風流な淨瑠璃に俗界を解脱して行くのだ

⊗……君に就いて特筆大書せねばならぬのは其佛畫佛像愛版である、君は早くより之れに興味を謂ふよりも研究心を以て全國各古寺に渡り蒐集するも同時に印度及び支那に迄手を延ばして巨財を投じて集めたものである然も今日佛畫百數十點佛畫經文約百點悉く之れを二十餘疊敷の土藏も十餘疊敷の土藏の階下階上する所に整然と陳列され祀られてある恰も大伽藍の寶物堂を隣着せしめて居る其中には印度支那日本各國の國寶に屬すべきもの甚だ多く凡そ千五百年より六百年前の珍品が貯られてある殊に波羅密多經文六百卷揃ひも揃つて斯道研究家の好同伴となつて居る事だ……モウ一つ君の偉業があるそれは明治二十五年大阪足袋裝束商組合總取締役就任の頃英斷を以て三朱利附の組合債を起し同事務所用として博勞町四丁目不動産を購買した事である、これは大阪市の組合に對し、動産所有を範とした嚆矢で君の識見の異常なるを語るものである、君は當時之れが爲めに有志の感佩を受け鎌田節堂書の顯彰軸物を一卷送られたのである

西區江戸堀學務委員長

林 與 市 氏

⊗……西區市選派の隠れたる一大勢力に林君のある事は恐らく何人も之れを熟知するのである、君は元來政治に就いて特別な趣味を有して居る人で斯界戦場の掛引には好きこそ物の上手なれで之れ亦常勝將軍の旗頭ニ支へ歎稱される男である、彼れが所謂常勝の別名を得たのは獨り自己の選挙戦に傑出したばかりでは無い人の爲めに總參謀を勉めても必ず其人が當選の冠を得るニ云ふ所から誰ニはなしに此仇名を附けたものである、實際彼れの戦畧ニ戦鬪振りには滅多に人が追隨出来ぬ巧妙さである、先づ平常の用意からして人ニは全く異つた方法に出る、何よりも其骨身を惜まずセツセ人本位に立ち働き正曲邪直を遠慮會釋なく公開し赤心を吐露して誠意誠心を傾け以て自他の嫌ひなし全力を竭すのだ……コレが他日選挙展開の折りに觸れ多大の實を結ぶ事なるのである

⊗……それを一言にして盡せば平汎なる方法ニ稱すべきである、併し乍ら此平汎は奇策妙計よりも層一層の實効があるもので見立て様によつては否定すべからざる優越戦畧も受け取れる譯けだ、南州隆盛の警句に事寄せて判斷すれば林君の戦術こそ圓滿なる平汎ニ言ふべきであらう、兎に角彼れは大阪市政界切つての寵兒で政争の好闘士であり亦奸恰の謀士である、君の動き方一つで時の候補者に當落の豫想を印刻する素晴らしい怪手腕を有つて居る人だ、それ故選挙戦戦ミなれば常に先づ君の奪争戦を行ふのが通例ミなつて居る然し頗る附きの公平な彼れは其都度情義や實縁を別ミして

偏へに公共の増益の點から判斷して去就を決するのだ、拜倒や情實の連鎖に因つて引摺り廻される軟骨漢ミは全然異つて居るから面白いのである

⊗……林君は某神策ミ神謀ミを以て政界に雄視するミ同時に無暗な弄術戯策を試みぬので益々人に親まれ全く自然的に備はる謙讓の徳に因つて多く深く衆望を双肩に擔つて居るのだ、早い話が君の常勝は力六分で四分は信望ミ畏敬から來た准な力である試みに彼れが如何なる過去を有つて居るかを見よ……彼れは慶應元年十一月生れの大阪人士であるが大阪人士に似てもつかぬ剛膽な大きい腹の男である、明治三十六年九月西區の區會議員に選出されたのを振り出しして同四十二年再選し尙同年五月には學務委員に當選、大正二年五月之れが改選には舉げられて當選し爾後六年及び十年の改選にも悉く當選の榮冠を得たのである、而して現に學務委員長ミなつて居るのだ、

⊗……彼れは此間他面に於ては更に大正五年より大阪家具指物同業組合の代議員に同八年迄は其議長及び評議員を勤めたのである、尙大正九年には例の國勢調査の事あり君は則ち選定されて之れが調査委員に舉げられた君は多忙の餘暇を割いて曰く石郷流の茶道觀世流の謠曲を友ミし風流韻士の優雅さを示して居る、



南區道仁學區學務委員長

肥田熊藏氏

☒……學務委員長として肥田君を観察するは寧ろ餘りに小規模に過ぎる憂ひがある、勿論各學區の委員又は委員長の公職にある人々は肥田君と同様に夫れ／＼實業界の花形として著しく信望を博して居るから敢て渉たる此立場からのみ兎や角判断する事は出来ない、而して肥田君の如きは就中其域にある人である、彼れは曾つて大阪銀行界に華々しく名聲を鳴らした虎屋銀行の重役の一人となつて財界一方の旗頭となつた男である、流るゝ様な才幹と剃刀の様な鋭敏縦横の快手腕は大方同業者間に殆ど慧星兒の如く驚歎されたのであつた、今でこそ恰も菩薩然として納り返つて居るが其當時の肥田君たるや實に鬼神の如く營々致々百鍊の妙策を揮つて思ふ存分敏腕を行つたものである、當時の面影は今日に於て見る事は六々敷いが凡ての凄腕が盡きたのではない、彼れは既にして其活舞臺として居た虎屋銀行を山口銀行と合併した結果昔の通り奮闘努力したり活躍の第一線に立ちて探配を揮ふ必要がなくなつたので言はば鵬翼を伏せて山口銀行重役の椅子に納つて居るのである、

☒……併し乍ら肥田君は根が活動の人であり活躍奮闘が生命の一素因である、従つて尋常一様の隠退氣分を常に極力排斥して居る、則ち一方に彼れは有力な重役の地位を占めて晏如たるものゝ如く見へるが性來の氣性遂に黙し難く虎屋信託株式會社取締役兼社長となつて信託業界を風靡せんとして居るのだ、元來信託業の必須條件は銀行界に特種の連鎖

がある事である、強固な地盤を異常なる發展とを望まば如何せん最後の背景として銀行屋の後援がなければならぬのだ然るに肥田君は此方面から擡頭した人であるから一向心配が要らぬ縦横無盡に天稟的の手腕を揮へる所謂天の利を持つて居る、然らば虎屋信託……それは肥田君が首腦者たり社長たる會社か果せる哉勢ひ隆々たるは洵に故あるもの言はねばならぬ、然も彼れは百萬の財力を自ら有し銀行界の連絡は切つても切れぬ程ある、今日の成績を擧げて居るは最早吹々を要せざる必然事であらう

☒……彼れは自ら萬事を卑下し非常に謙讓の態度を持って行く人だ、従つて苟も過去の彼れに對する賞讃や尙丈なきを聞く一切適切之れを否定し又は却つて當らざるを嗤ふのである、彼れは勿論動かすべからざる強固な地盤を異常な信望を併有して居るが故に今更巷間の贊辭を必要とせぬからである、殊に彼れ自體が第一名利に執着はない、未だ壯年を以てして尙且つ禪味タップリだ、従つて彼れが望む所は人爵人賞よりは更に一層天辭を神賞である轟々たる商工都市に於ては先づ珍らしい道化した男を謂つてよい

☒……肥田君は會社の勢力に於て惠まれるや次第に公的地盤に一步一步を進め來り公共團體の爲めに盡瘁する事となつたのである、而して數年來道仁小學校學務委員長の要位に据へられ尠からず其貢獻を致したのである、市政界に於ても彼れの潛勢力を實力とは臆て市政界の立役者となり進んで中央政界に乗り出す池中の蛟龍だ専ら評判を生んで居るのだ

☒……彼れは大阪の人、明治十一年一月生れ大阪市南區道仁小學から育英高等小學に入り更に堂島府立尋常中學（現在北野中學校）に入りて卒業後大阪市立高等商業學校に學び之れを卒業し直ちに一年志願兵として歩兵第三十七聯隊に奉公し明治三十七八年日露戰役に際しては第十一師團司令部附として從軍し處々に轉戦して勳功を樹て功を以て從七位勳六等に叙せられ將校となつて除隊したのである、其後は則ち實業家として銀行家として現在に至つたのである

君は頗る感受性に富み幽遠な構想を試みる人で其趣味の如きも随分廣いものである、學生時代には漕艇、野球、テニス等を其後は俳句、謠曲、歌作、寫眞攝影等をなし何づれも早い進歩を遂げたか最近に至つては繁忙の餘暇を割いて市内郊外の區別なく散策をなし自然の配在に樂み汎く人生の皮肉や涙や歡樂や恐怖や種々雑多の感興を得て而して之れから修養の芽を創造するのである



學務委員長

村上敬吉氏

東區汎愛小學區學務委員長たる村上君は更に東區聯合區會の副議長並に東區營業稅調查委員の幾多公職を帯びて居るのである、而して熱心なる公人として部内一般の好評を博して居るが尙一層區會議員仲間にて著名であり市政界でも潜行的勢力を以て可成りの勢を左右する人である君は其手腕は勿論であるが頗る意思の強い人にして鳴つて居る硬骨な信念に固つたる意思の力は凡そ何物の障害何物の反駁をも犯して素思の貫徹に勇める努力家である世には頑固一徹云ふ形容詞がある、之れは寧ろ頑迷にして無茶苦茶な仕打ちを敢てする人だこの偶意になつて居る、然るに一般は却つて硬骨の士をも一概に頑固云ふ様に解釋して居る村上君も呑めば骨あり嚼れば固し擦れば反撥するから現代の軟

弱者流には悉く調和し兼ねるものと思はれて居る、併し乍ら事實は立派に好事者の風説を裏切つて彼れや抑も圓轉滑脱の得難い手本になつて居るのである

其區會に於ける村上君は長老たるに充分な賞祿を示し紛論の巷に起ちて尙克く百識を指導し以て一種の中心勢力になつて居る勿論年が教へた賜であろう、併し君は元來寧ろ牛尾ならんよりは其鶏頭たれの古諺を處世上の標語として來た男である、而して固より英達にして啓發的な頭腦の持主であるから其信念を以て實際上の試練に際會する毎に巧妙に且つ慎重に利用し實現の方法を獨創し來つたのである、殊に村上君は恰も鋼鐵の如く世間の荒波に鍛へられ、鍛へられる程秀鋭なる人で早い話が熱又熱苟も素志の貫徹を致さずんば熄まぬ克己心を持つた人であるから早くより一角を爲す人だとは認められて居た、只少青年時代を通じて剴然たる士氣を擁し減多に他人の説に迎合せず婉曲な應對を心よしこせざる半面を有して居たので今日の如く調和的な人格を誰あつて齎すものには豫想されなかつたのである

然るに村上君は其虚心且悽にして一本調子である自己の特長を悉知したと同時に其欠點なる所以を熟知して居た、従つて一面特色の研磨を心がけると共に他面之れが調和的助成に腐心したのである、今日彼れが魏然たる節を現はし乍ら然もよく數人に敬慕され畏敏を拂はれて居るのは外でもない彼れが過去に於ける苦心の結晶でそれか漸く光りを放つて來た結果である、兎に角君は當代得難い自強自制の精神に富んだ特志家で一定の識見を節操を必要とする議員並に學務委員としては洵に好箇の人物である

君は大阪府下粉濱村の人、安政四年正月生れ、幼少の頃より志篤く未だ教育機關の不備なる時に當りて獨學力行したのである、當時は世を擧げて養馬練兵の所謂武事萬能の時代で兵學以外の教育には悉く何等の公的設備なく只僅かに識見高き人々が己人教授をしたに過ぎぬので村上君は一躍教育の恩恵を思ふ存分味ひたくも出來ず郷里又は東京に於て將來必要な科目を修得した後彼れは奮然實業界に志を立て明治二十年より紡績事業に従事し三十三年綿糸却商を開

業した其後經營宜しきを得て巨額の財を造り除るに公的活躍を虎視して居た而して先づ大正八年營業稅調査委員に擧げられ同九年より東區聯合區會議員に選出され次いで其副議長に推され大正十年には同區の學務委員長に推擧されたのである、彼れは性來頗る優雅な人で園藝を園み書畫骨董の鑑識に至つてはナカ／＼堂に入つたものである、

北區學務委員長

中尾 拾一氏

⊗……官吏から出で、民間に棹す者は通弊として動もすれば官僚臭味を脱せぬのである、而して其言行も共に甚だ尊大ならんとする傾向がある、孟子の言を失敬するに所謂居は心を移すに云ふのだ、我國の文化は誰あつて知らぬ人が無い様に未だ尤も最近の發達である巖然たる更新を策したる結果は窮窮な律則に因つて上下左右の差別を殊更に矢筈敷いものとした、これが抑も官僚氣分の發露であつて官尊民卑の弊害が生れた原因である、従つて我國全體から推しても官吏に官僚臭味と云ふ事は二様一體で切り離す譯けに行かぬ連鎖となつて居るのだ、此如に居を占めた者が臭味を帯びる事は洵に已むを得ぬ話である、併し乍ら此弊害はモト／＼後天的のもので居が災ひしたものである、故に解脱されぬに相場は定つたものではない、ソレコソ居は心を移すと言ふから臭味から脱する事も結局は其人の意思に因つて移し得るものである

ものである

⊗……北區學務委員長中尾君は則ち立派に積弊から脱胎した一人である、恐らく今日の中尾君を指して彼れが六ヶ敷官吏出身であるに誰あつて看破する者が無いであらう、否寧ろ中尾君は普通人士よりモット碎けた民間育ちしか見ないであらう、事程左様に彼れは一切の臭味を自己の意思と努力で脱ぎ棄て天晴れ物の美事に官僚風を改竄したのである而して自ら却つて官吏上りは尊大振るので悪いと批評する域に達したのである、彼れは會つて神戸鐵道局運輸課員として未だ官僚萬能な時代を暮したのである、當時若し熱血が脈々として居た君は屢々人間味の好奇心から少しばかりは肩で風を切つても見たが何分發明な彼れには聽てツマラぬ兒戯として發見されたのである、従つて其當時から下らぬ空氣に溺れる事は眞平御免を蒙つて居たのである、其後彼れは居を移し某銀行員となつて次第に社會の實體に接觸する様になり少しも臭ふ官僚味の解脱に取りかゝつたのだ、

⊗……中尾君の圓滿振りは多く此時代に嘗味した社會觀から生れたのである、微細だも等閑に附せない其零細な用意も同時に培養されたものだ、其後彼れは飄然實業界に投じ棉花商となり更に神戸外國商館に館員となり大ひに修養を積んだのである、其志は今日貫徹され動かすべからざる實力を擁するに至つた、而してソキ／＼ミ擡頭し來つて大阪アルカリ株式會社の監査役に擧げられ其他四五會社の重役に推擧され事業界一方の重鎮となつたのである、従つて其勢力が齎す政界の威力なきも思ひ及ばぬ程根強いものがある、

⊗……彼れの公的半面は更に傍々社會的失脚者に濫い情を加ふる免因保護事業の域にも達して居る、而して衆望は公平に彼れを拉して北區會議員とか學務委員長の要位に据えたのである、そのみではない、偶々社會施設として方面委員の議起るや彼れは北區で取り敢へず其委員に擧げられ青年團の設置さるゝや之れ亦顧問として祭り上げられて居る、彼れは斯様に寸暇なき迄に公共方面に重職を兼ねて居る、然るに性來篤學多趣味の人であるから忙繁な折り／＼には觀